

# 近畿中国四国農業研究センター年報

平成 20 年度

## 目 次

I	主な動向と経過	1
1.	研究の推進方向	1
2.	運営に関する主な動向	2
II	研究の実施状況	4
III	平成 20 年度 研究予算課題一覧	26
IV	研究情報活動	40
1.	主な研究成果	40
2.	研究成果の発表	42
1)	原著論文	42
2)	学会発表等	47
3)	著書	57
4)	その他	58
3.	知的財産権	74
1)	産業財産権の登録及び出願	74
2)	新品種の登録及び出願	75
4.	広報活動	76
1)	記者発表	76
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物	76
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	77
4)	技術相談および見学	79
5.	図書資料の収集・受入、サービス	80
V	研究交流	81
1.	研究員等の受入・研修	81
1)	国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員	81
2)	国際協力機構 (JICA) 研究員	81
3)	日本学術振興会 (JSPS) 研究員	81
4)	科学技術振興機構 (JST) 研究員	81
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	81
6)	流動研究員	81
7)	依頼研究員	81
8)	技術講習生	81
9)	国内留学	82
10)	連携大学院	82

2.	研究員の派遣	82
1)	流動研究員	82
2)	国内留学	82
3)	海外派遣・出張	82
3.	技術協力・指導	82
1)	連携大学院への派遣	82
2)	他機関主催研修会等への講師派遣	83
3)	当センター主催の技術指導	87
4)	依頼分析、試験及び同定	87
4.	共同研究	88
5.	協定研究	88
6.	開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	88
VI	組織・人事・会計	89
1.	組 織	89
2.	人 事	91
1)	現在員数	91
2)	農研機構特別研究員	91
3)	委員等の就任状況	92
3.	会 計	95
1)	決 算	95
2)	固定資産	96
VII	主な会議等	97
1.	近畿中国四国農業試験研究推進会議	97
2.	近畿中国四国地域問題別研究会	97
3.	地域研究・普及連絡会議	98
4.	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等	98
5.	地域総合研究評価会議・現地推進検討会	100
6.	地域農業確立研究検討会	101
7.	その他会議	101
VIII	所在地	102

# I 主な動向と経過

## 1. 研究の推進方向

近畿中国四国農業研究センターは、都市近接中山間農業地域および傾斜地農業地域を背景とした近畿・中国・四国地域において、多様な農業立地特性や農業・農村情勢の特徴を踏まえた、傾斜地を含む中山間農業研究の拠点となることを目標にしている。当センターでは、地域農業を先導する研究、現場に即応する総合的な開発研究、産学官連携の要となる基盤的研究を実施している。

平成 20 年度においては、研究開発にあたり、下に示す 5 つの研究開発ターゲットを掲げ、その結果、以下の成果を取りまとめた。

- 1) 中山間・傾斜地域の農業の振興と農村の活性化につながる生産技術の開発をめざして
  - ・ 飼料用稲の乾田直播栽培では播種量少なめで安定多収
  - ・ 水田転換畑に対応したヒマワリの高精度播種技術
  - ・ マルカメムシの栄養生長期寄生がダイズに及ぼす影響
  - ・ 新規参入者のグループ活動による相互支援の特徴と効果
  - ・ 緯度・経度から地名を得る Web サービス
  - ・ 集落や農家が自立的に取り組める鳥獣害対策
- 2) 地域ブランドを創出し強化する特徴のある品種や省力・高品質安定生産技術の開発をめざして
  - ・ 放牧で仕上げた黒毛和種経産牛のおいしさと付加価値
  - ・ 大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボシ」
  - ・ 製粉しやすく、おいしいそうめんができる小麦新品種「ふくはるか」
  - ・ 小麦加工食品の使用品種表示を確認できる DNA マーカー
  - ・ ウンシュウミカンの高品質果実を毎年安定して生産するための技術マニュアル
- 3) 環境負荷の軽減と農産物や食品の安心・安全を支える環境保全型農業の確立をめざして
  - ・ 畝立て・施肥・マルチの同時作業を対象とした速度連動施肥制御システム
  - ・ レタスビッグベイン病の媒介菌を検出する抗体の作製
  - ・ レッドデータブック掲載植物種数からみた草原環境の特徴
  - ・ シバ型半自然草地における植物の多様性簡易調査法
  - ・ 環境負荷推定モデルの構築と環境負荷低減技術の効果予測
  - ・ 農作業体験への児童の興味や関心を可視化する
- 4) 新たな農業の展開を可能にするシーズ研究の推進をめざして
  - ・ 小麦の製粉のしやすさと種子のミクロ構造との関連
  - ・ サクラネチンによる脂肪細胞機能調節効果
  - ・ 細菌群集構造解析のための植物根からの迅速かつ簡便な DNA 抽出法
  - ・ 1 km メッシュの将来気候データを作成する方法
- 5) 地域アグリビジネスの振興のための産学官連携研究の推進をめざして
  - ・ 液化仕込み清酒粕は粗飼料の乾物分解率を向上させる
  - ・ 産学官連携による日射制御型拍動自動灌水装置の普及
  - ・ 産学官連携で鉄コーティング直播の普及を本格的に開始

これらの成果の中から、主要研究成果として下記の「技術・普及」成果 6 件、「研究・普及」成果 1 件をはじめ、「技術・参考」5 件、「研究・参考」15 件、「行政・参考」5 件を発信した。

### 「技術・普及」

- (1) 乾田条播直播栽培による飼料用稲の生産技術体系
- (2) 小麦加工食品の使用品種表示の確認に利用できる SSR マーカー

- (3) 大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボシ」
- (4) 水田転換畑に対応したヒマワリの高精度播種技術
- (5) 高品質なウンシュウミカンを連年安定生産するための土壌と樹体の一体管理技術体系
- (6) 放牧を活用した黒毛和種経産牛肉の高付加価値化技術

「研究・普及」

- (1) 傾斜地と平地のトマト個体群の受光特性の違い

## 2. 運営に関する主な動向

### (1) 地域農業試験推進会議

#### 1) 平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議幹事会

平成20年9月30日に福山市において近畿農政局、中国四国農政局、幹事府県である大阪府、岡山県、愛媛県ならびに推進部会長等を参集して開催された。本会では、本会議における重要検討課題を「地域農業を振興し食糧自給率向上を図る技術開発戦略」とすることが提案され、承認された。次いで、本年度の評価企画会議、試験研究推進部会の運営および地域重要研究問題素材の取り扱いについての提案があり、それぞれ承認された。また、「地域研究・普及連絡会議」について、推進会議との関係整理、地域重要研究問題素材と技術的課題の重複についての対策および研究成果情報と農業新技術200Xとの関係整理について意見交換が行われた。その中で、地域重要研究問題素材と技術的課題の重複については、重複を避けるための改善策について検討していくこととなった。その後、研究成果フォローアップレビューの今年度での中止、地域マッチングフォーラムの開催および地域農業活性化FS研究支援制度の採択結果が報告された。

#### 2) 平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議

平成20年11月12日に福山市において農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿農政局、中国四国農政局、各府県ならびに推進部会長等を参集して開催された。本会では、9月に開催された本会議幹事会の報告があった後、今年度の推進部会、評価企画会議の実施と運営、日程についての提案があり承認した。また、地域重要研究問題素材と技術的課題の提出方法の簡素化に向けて、提出時期等の具体的方法について、農政局と相談の上、事務局で案を作成し、府県に示すこととした。次いで、重要検討課題「地域農業を振興し食糧自給率向上を図る技術開発戦略」についての検討を行った。技術会議事務局から食料需給をめぐる情勢と今後の農政の展開方向、近畿中国四国農業研究センターから関連研究の取り組み、府県から食糧自給率向上に向けた研究の現状と今後の展開について話題提供が行われ、意見交換を行った。その中で、地域農政として集落営農を育成してその安定成長を支援する方向にあること、飼料価格高騰を受けて飼料用米、WCS、水田放牧の取り組みに期待すること、麦、大豆、野菜の安定供給に取り組むことから、行政と研究の連携を一層進めていくことが大切であることが示された。また、府県連携、農商工連携を進めることに対する期待が述べられた。その後、研究成果フォローアップレビューの取り扱い、地域マッチングフォーラムの開催および地域農業活性化FS研究支援制度の採択結果が報告された。

#### 3) 平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議評価企画会議

平成20年2月13日において近畿農政局、中国四国農政局、各府県ならびに推進部会長等が参集して福山市で開催された。本会では、11月に開催された本会議の報告がなされた後、各推進部会の概要と成果情報の採択結果の報告が行われ、成果情報の中から特徴的な成果が研究成果トピックスとして紹介された。そして、平成21年度の研究推進会議の運営について、地域重要研究問題素材と技術的課題の効率的な検討を踏まえて、両者の検討スケジュール、地域重要研究問題素材の提出様式、推進会議の会議構成とスケジュールについて提案があり、実用技術開発事業等競争的資金への応募課題の検討時期との時間的ずれについて議論があったが、地域重要研究問題素材は地域の研究推進方向や重点化を検討するものであるという認識を持つことで、提案が承認された。これによって、平成

## 主な動向と経過

21年度から推進会議の構成、スケジュールが大幅に変更されることとなった。このほか、「近畿中国四国地域における新技術」の刊行中止が提案され、府県への意見照会を通して次年度の評価企画会議で結論を得ることとなった。

### (2) 平成20年度近畿中国四国農業研究センター運営会議

標記会議が平成21年3月9日に福山市で運営委員7名(大学1名、農政局1名、府県3名、民間2名)と近畿中国四国農業研究センター幹部職員が出席して開催された。本会議では、前年度の運営会議報告がなされた後、近畿中国四国農業研究センターの概要、近畿中国四国地域の農業の現状と特徴が紹介された。そして、近畿中国四国農業研究センターの研究の現状と今後の研究推進方向が分野別に、さらに他機関との連携の現状と課題が報告された後、総合討論として、各委員から意見をいただいた。その中で、当研究センターで実施している研究のさらなる発展への期待とともに、研究の重点化のあり方、現場の意見や消費者のニーズを把握した研究開発、行政との連携、府県との研究の仕分けと連携等についての意見が出された。

## II 研究の実施状況

農業・食品産業技術総合研究機構の中期目標において、近畿中国四国農業研究センターに関する事項を課題ごとに記載した。

### ● 農業の競争力強化と健全な発展に資する研究

#### ○ 農業の生産性向上と持続的発展のための研究開発

##### 1) 地域の条件を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立

##### (1) 地域の条件を活かした水田・畑輪作を主体とする農業経営の発展方式の解明

近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定

担当：地域営農・流通システム研究チーム

平成20年度は、①中山間地域における集落営農組織間、農業生産法人間の連携による地域営農システムの策定、②農産物直売所における需給状況を踏まえた需給ミスマッチの改善方策の提示、③新規参入者のグループ活動が経営管理に及ぼす効果の解明に向けて重点的に研究を推進した。その結果は次の通りである。

①中国中山間地域で組織された大豆ネットワーク（複数の集落営農組織、地元豆腐店）は、大豆コンバインの連携利用（作業受委託）を通して経済効果（15～20%のコスト低減）を生み出すなど、集落営農組織の展開を促進する地域支援システムとして機能していること、また、四国中山間地域における3つの農業生産法人が設立した共同出荷型LLP（有限責任事業組合）は、各法人が得意品目を生産して少量多品目による製品差別化を図ること等を通し、広域連携による販売対応の仕組みとして機能するとともに、会計処理の簡素化等の運営面でLLP制度利用のメリットを活用していることを明らかにした。②農産物直売所における出荷と販売の分析から、残品・欠品がかなり多く発生していること、休日と旬以外で需給ミスマッチが拡大していること等から、季節変動と平日・休日による変動を明らかにし、需給ミスマッチの改善方策として、前者の変動に対しては出荷の長期化・分散化、後者の変動に対しては出荷の休日への集中化による対応の必要性を示した。③イチゴ作新規参入者グループでは、メンバー同士で経営管理に関わる情報を共有することによって、作業管理・販売管理の実施意識を高めるとともに、グループは重要な情報源になっていることを明らかにし、グループ活動が経営管理ノウハウの蓄積を促進していることを示した。

次年度は、中山間地域の集落営農組織・農業生産法人を対象に広域的連携に基づく地域支援システムの成立条件及び販売方策の解明を進める。また、農産物直売所における需要量の変動要因の分析を行い、需要量予測モデルの開発に取り組む。さらに、新規参入者が行う経営管理を踏まえた経営支援策を体系的に提示する。

##### (2) 省力・機械化適性、加工適性、病害虫抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発

担当：大豆育種研究近中四サブチーム

##### ・豆腐加工適性に優れ重要病害虫抵抗性を強化した機械化適性品種の育成

豆腐加工適性が高く、地域の主要病害に抵抗性で、機械化適性にも優れた品種育成のための交配、選抜を行うとともに、新旧品種及び育成系統の耐倒伏性の評価及び狭畦密植無培土栽培に対する適

応性を検討した。育成系統の収量性は基幹品種並みで、蛋白質含量も一部を除いて目標とする「フクユタカ」と同等以上であり、目標水準に達した系統を開発した。また、育成系統は押倒し試験や密植条件で倒伏程度が少なく、狭畦密植無培土栽培でも相対的に多収で、特に「四国 2 号」は安定して多収性を示した。

次年度は、「四国 1 号」の現地試験と実需者による豆腐加工適性評価を実施して品種化を目指す。

・地域ニーズに対応した特殊用途品種の育成

白味噌用系統の「四国 3 号」を奨励品種決定調査（奨決）等に供試するとともに、特殊用途向け品種の育成を目指した交配、選抜を実施した。「四国 3 号」は実需者による加工試験で赤味噌にも適していることが実証され、また、複数県の奨決で収量性や外観品質が良好と評価され、次年度、広島県で奨決現地試験を実施することとなった。一方、青臭みの原因となるリポキシゲナーゼを欠失し、実用形質も優れた「四国 10 号」を新たに開発した。

次年度は、これらの系統を管内府県に配布して各地域への適応性を検討する。

・豆腐加工適性に影響を及ぼす大豆種子成分の解明とそれに基づく制御技術の開発

前年までに開発した少量の大豆種子サンプルによる豆腐加工方法を従来法と比較するため、延べ 7 品種・系統を供試して加工した豆腐の物性を比較した。この結果、両方法で加工した豆腐の物性に正の相関が認められ、開発した手法が豆腐加工適性評価に適用できるとことを実証した。

次年度は、開発した方法を豆腐加工現場に適用するため、実需者の原料大豆を本法により加工、評価し、実需者の意見聴取を行う。

・褐斑形成・種子伝染に着目したダイズモザイクウイルス抵抗性の遺伝様式の解明と DNA マーカーの開発

SMV 抵抗性遺伝子に連鎖するマーカー開発及び QTL 解析を行うとともに、西日本における褐斑発生の原因ウイルスの解析を行った。マーカー開発に関しては、「Peking」由来の SMV 抵抗性遺伝子の近傍 DNA マーカーを開発し、褐斑・種子伝染抵抗性については QTL 解析を行い、連鎖地図を作成した。さらに、褐斑発生の原因の一つであるインゲンマメ南部モザイクウイルス（SBMV）に対する抵抗性の品種間差異についても明らかにした。

次年度は、連鎖地図全体のマーカー数を増やすとともに、主要な QTL 近傍のマーカー数を増やす。

(3) 田畑輪換の継続に伴う大豆生産力の低下要因の解明と対策技術の開発

・稲麦大豆二毛作地帯の田畑輪換の継続による大豆生産力の低下要因の解明と対策技術の開発  
担当：特命チーム員（田畑輪換研究チーム）

有機物連用処理の異なる圃場と田畑輪換履歴が異なる圃場において大豆の生産力の違いと、土壌の有機態窒素の変化について検討を行った。昨年度と同様に有機物連用処理により大豆の莢あたりの豆数が増加することで収量が増加した。また、大豆作付けの田畑輪換の継続が収量に及ぼす影響は今年度は明らかではなかったが、今年度より開始したコムギを冬作とした処理により収量が低下する傾向がみられた。有機態窒素の連続抽出定量では、昨年まで確認されたリン酸抽出画分の大豆作付け期間中の減少は見られず、夏季の少雨による乾燥が有機態窒素の変化に影響していると予想された。

(4) 病虫害抵抗性、省力・機械化適性、良食味等を有する野菜品種の育成

レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発

担当：レタスビッグベイン研究チーム

平成20年度は、昨年度に引き続き、ビッグベイン病抵抗性レタス育成系統の特性・適応性の評価、ビッグベインウイルスと媒介菌との相互作用における親和性因子の検討および土壌の汚染程度を定量化できる技術の開発を行うとともにビッグベイン病の発病を抑制する微生物の探索、分離を行った。抵抗性レタスの育成に関しては、新たに選定した2系統「SAKS3」、「SAKS4」について評価を行い、これまでに選定した「SAKS1」、「SAKS2」よりもビッグベイン病に対して抵抗性が強いこと、品質面においても大玉で、かつ球形が良好であることを確認した。ウイルスと媒介菌の相互作用に関しては、これまで曖昧であったレタス及びアブラナ科植物に感染する媒介菌 *Oplidium brassicae* の存在を初めて確認した（注：*O.brassicae* にはアブラナ科系統と非アブラナ科系統が存在するとされていたが、現在は前者を *O.brassicae*、後者を *O.virulentus* と種が分けられている）。また、昨年度までに作出した媒介菌で伝搬されない病原ウイルスの遺伝子解析を行い、この非伝搬株がセグメント2にコードされた48.5Kタンパク質内にアミノ酸置換が起きていることを確認した。媒介菌休眠胞子の抗体を作製し、その抗体が他のオルピディウム属菌とは反応せず、特異性が極めて高いことを確認した。これにより、土壌診断技術の開発の展望が開けた。土壌診断法の開発に関しては、レタス栽培圃場から約40種の細菌を分離し、その中からビッグベイン病の発病抑制効果を強く示す（防除価80%以上）菌を見出した。

次年度は、抵抗性品種として有望な「SAKS3」、「SAKS4」について、引き続き系統適応性検定試験を行い、命名登録を目指す。病原ウイルスの病理的解明として、①レタス及びアブラナ科植物に感染する *O.brassicae* のウイルス媒介性について明らかにする、②非伝搬性については現在作出中の新たな非伝搬株の遺伝子解析を行い、本年度得た知見と総合的に判断して非伝搬性に関わる遺伝子領域を特定する。土壌診断技術については、抗媒介菌血清の利用による土壌からの媒介菌検出技術を開発し、昨年度改良した媒介菌からの病原ウイルス検出法と組み合わせることによる土壌診断技術の開発を進める。また、分離した発病抑制効果を示す細菌については、その特性および微生物資材としての有用性を明らかにするとともに、育成系統「SAKS3」、「SAKS4」との併用による抑制効果増強の有無について検討する。

(5) 地域条件を活かした高生産性水田・畑輪作のキーテクノロジーの開発と現地実証に基づく輪作体系の確立

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

中山間地域における稲・麦・大豆2年3作体系の確立を目的として、現地実証試験を行いつつ、個別技術開発に取り組んだ。水稲では、鉄コーティング種子の大量製造を現地で実施し、実用性を確認した。また、種子重量に対して0.1、0.5倍の鉄コーティング処理は育苗期のいもち病や直播栽培時に発生するばか苗病に対して防除効果が認められることを明らかにした。大豆では、マルカメムシの加害により開花期の主茎長、総葉数、総節数が減少するが、有意な被害が生じる個体密度はかなり高いため、本種の防除は通常は不要であることを明らかにした。

次年度は、稲・麦・大豆2年3作体系の確立に向け、鉄コーティング種子の大量製造マニュアル作成、大豆及び大麦の播種精度向上技術の開発に取り組む。

## 2) 自給飼料を基盤とした家畜生産システムの開発

### (1) 直播適性に優れた高生産性飼料用稲品種の育成

担当：低コスト稲育種研究近中四サブチーム

- ・温暖地西部向け稲発酵粗飼料用品種の育成と消化性の改善された育種素材の開発

平成 20 年度は、高生産性飼料用稲品種の育成について、WCS を含む飼料用および米粉用の多収品種を育成するための交配、選抜、特性調査等を実施した。子実が少ない茎葉型の飼料稲用有望系統「中国飼 198 号」は「クサノホシ」より多収で、茎葉部の炭水化物（NFC）、糖、粗タンパク質（CP）の含量が高く、また、重心高が低く、稈が折れにくいいため、耐倒伏性に優れていた。

次年度は、「中国飼 198 号」について、平成 22 年度の新品種登録申請を行うため詳細な特性の調査を行う。また、茎葉型および穂重型の両タイプの耐倒伏性、耐病性のある多収品種の育成を継続する。

### (2) 地域条件を活かした飼料用稲低コスト生産技術及び乳牛・肉用牛への給与技術の確立

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

平成 20 年度は、飼料用稲を基軸とする耕畜連携システム確立のため、フォローアップ研究に取り組んだ。鳥取県現地実証農家による飼料用稲乾田直播栽培の取り組みを指導し、周辺農家の移植平均収量（10.1 ロール /10a）を上回る収量（11.2 ロール /10a）を達成した。大区画圃場における高速播種の要望に対応して、3.1m/s と通常の 3 倍近い高速播種でも安定した苗立ちを確保でき、12.1 ロール /10a と高い収量が得られることを明らかにした。単一から複数の集落営農による耕畜連携への移行により、専用機械の効率的稼働面積（15～20ha）の確保が可能となり、高い所得水準（32～39 千円 /10a）が期待できることを明らかにした。

次年度は、開発技術の現地定着に向けた支援を引き続き行うとともに、地域農業確立総合研究「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立」に取り組む。

### (3) 地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発

中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術

担当：粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム

平成 20 年度は、地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発を目指し、遊休農林地等での黒毛和種経産牛の放牧肥育技術確立のために、1) 越冬後のイタリアンライグラスの生育ステージによる飼料成分変動を明らかにすること、2) 黒毛和種経産牛の高増体を目的に、清酒粕の給与が脂肪酸代謝、ビタミン合成、粗飼料分解性細菌の増殖に及ぼす作用を明らかにすることについて重点的に研究を推進した。

その結果、1) イタリアンライグラスの超極早生・極早生品種は、早生品種に比べ冬季収量が多く栄養価が高くなりすぎないため繁殖牛に適していること及び、2) 液化仕込み清酒粕の給与が第一胃微生物を増加させるとともに経産牛の日増体量（DG）と去勢牛の血中ビタミン B 含量を向上させることを明らかにした。この他に、3) 優占種の異なる放牧草地においても野草の可消化養分総量（TDN）含量は繁殖牛に適した水準であり、ススキとチガヤ優占地では随伴種が TDN 及び粗タンパク質（CP）含量を適正値に近づける作用を有していること、4) 耕作放棄地放牧に適した導入草種や牧養力を予測するためのワークシートを開発したこと、5) 放牧仕上げした経産牛肉の

消費者型官能評価試験から、ヒレ肉は去勢牛と同等の評価であり、赤肉志向者は経産牛を舎飼したヒレ肉の評価が高いこと、6) 放牧仕上げにより $\alpha$ -リノレン酸や共役リノール酸 (CLA) を多く含む牛肉が生産できること、7) 黄体ホルモン製剤 (CIDR) 挿入時の安息香酸エストラジオール (EB) 投与量を半減しても、過剰排卵処置反応性、胚回収成績、胚回収後の繁殖成績に影響がないこと、8) 高齢牛、長期不受胎牛では過剰排卵処置の間隔を延長する方が効率的であること、9) 自然哺乳飼育においては、乳中ムチン型と生後 20 日齢までの DG、相対成長率に有意な差があること等を明らかにした。

次年度は、遊休農林地等を活用した黒毛和種経産牛の放牧技術を開発するため、水田裏作のイタリアンライグラスを用いた放牧期間延長技術を検討するとともに、耕作放棄地等における放牧牛の栄養状態と草の飼料価値等との関連性を検討する。すなわち、1) 播種時期を変えて同一品種を播種することにより、出穂時期の異なる個体を作成し、出穂時期の早晩による栄養価への影響を検討すること及び、2) 放牧牛の栄養状態と放牧時期、草の種類・飼料価値等との関係を明らかにし、指導・普及機関向けのマニュアルとして取りまとめ提示する。

#### (4) 家畜生産性向上のための育種技術及び家畜増殖技術の開発

・ウシの初期妊娠に関与する遺伝子群の解析と妊娠診断技術の開発

担当：特命チーム員（家畜育種増殖研究チーム）

妊娠初期の牛の末梢血白血球において抗ウイルスタンパク質 Mx の遺伝子発現量を調べた。また、妊娠認識物質であるインターフェロン・タウを子宮内に投与することで、末梢血白血球でインターフェロン応答遺伝子がどの程度発現するかを調査した。その結果、Mx 遺伝子は非妊娠牛に比べ妊娠牛の末梢血白血球で発現が高い傾向にあり、妊娠 18 日齢において特に顕著であった。また、インターフェロン・タウの子宮内投与によって、末梢白血球中のインターフェロン応答遺伝子の発現量が増加した。

次年度は、インターフェロン・タウの子宮内投与による各種遺伝子発現の変化と、DNA マイクロアレイによる初期妊娠牛の末梢白血球の遺伝子発現プロファイルについて検討する。

#### 3) 高収益型園芸生産システムの開発

##### (1) 中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発

担当：中山間傾斜地域施設園芸研究チーム

平成 20 年度より地域農業確立総合研究（中山間 20t 採りトマト）を開始し、産地の規模・標高に応じた実証試験地を広島県神石高原（高標高小規模産地）、愛媛県久万高原（高標高大規模産地）、山口県あぶ（低標高中規模産地）の各産地に設定し、各産地における高収量を可能とする作型の検討を始めた。公開した平張型ハウス施工マニュアルをもとに、上記実証試験地農家に約 3a 規模のハウスの設計・施工を行った。

自然災害対策技術の開発では、強風ハザードマップの作成手法の開発を目指して、計算領域に一定の流入風を与える方法で久万高原における台風 0423 号時のパイプハウス設置地点の風速推定を試みた。数値予報データを用いて計算した場合は異なり、風速を良好に推定することができなかった。ハウス内の暑熱緩和技術の開発では、1) 乾湿球温度差に基づき噴霧を制御する簡易な細霧冷房システムを作製し、循環扇および遮光シートを併用することにより、葉濡れを起こすことなく、高温期の施設内気温を外気温とほぼ同等またはそれ以下に制御することに成功した。2) CFD（数値流体力学）シミュレーションによって、屋根散水が温室内の気温に及ぼす冷却効果は、換気回数

が少なくなるにつれてその効果は大きくなり、換気回数が約 10 回 /h の場合は 2℃程度であることを明らかにした。灌水同時施肥法では、ソーラーポンプと極微量灌水施肥システムの組み合わせにより、液肥混入機のいらぬ装置とし、7 万円 /10a 程度の初期投資費用で設置できる低コスト養液栽培装置を作製した。棚田地帯の圃場整備の課題では、同地域のハウスへの水供給施設について調査を行ったところ、水質上の問題から用水路以外の水源を利用する農家が多かった。また灌漑水量の確保と除塵を目的に農家自らが中間貯水槽を作製しており、そのタイプは掘り込み式・組み立て式・既製品利用の三つに分類され、その貯水量は夏季日灌水量の各々 2～4、1～2、1 日分であった。中間貯水槽への導水には、必要最小口径の 3、4 ランク上の規格である 30mm、40mm のパイプが利用されていた。また、中山間・傾斜地圃場の立地条件を明らかにするため、トマト収量に關与する個体群受光特性に対する圃場傾斜の影響を解析し、群落内の光の減衰率は平地よりも傾斜地で小さい場合があることを明らかにした。このことは、傾斜地は平地よりも作物生産効率が高い可能性を示唆している。

次年度は、ハウス内の環境制御技術の開発では、乾湿球温度差に基づき噴霧を制御する細霧冷房システムを暑熱が問題となる低標高地の実証試験地ハウスへ導入しその効果について検証する。また、ハウス内の過湿による病害回避を目標に、循環扇の空気攪拌の効果を明らかにする。さらに、太陽光発電により得られた電力を用い、高温期の日中に施設内気温と比較して低温な空気を強制的にトマト生長点に誘導し、局所冷房する技術を開発する。一方、平張型ハウスの設計・施工では、立体栽培に対応したハウス構造、展張可能期間が長い屋根フィルムを張ることが可能な構造について検討し改良を加える。低段密植立体栽培では、20t/10a の収量を安定して確保するため栽培ベッドの棚幅や傾斜棚の傾きについて、作業性を考慮して構造を決定する。

## (2) 次世代型マルドリ方式を基軸とするかんきつ等の省力・高品質安定生産技術の確立

### 担当：次世代カンキツ生産技術研究チーム

平成 20 年度は、かんきつの樹体内水分環境に基づくかん水制御技術の開発を推進し、定植した苗木の効率的な生育促進や高品質果実生産への活用方法を検討した。また、雨水のかん水用水としての利用方法、揚水作業の省力・軽労化のための太陽光発電を利用した低コスト揚水システムの検討を行うとともに、収益を向上させる果実のブランド化に向けた流通・販売状況を調査・解析した。

かんきつの主枝体積含水率は、1 日の間で 13 時前後に最低となり、樹体内養水分を精密自動管理するシステムにおいて、この値を利用することにした。主枝体積含水率を点滴かん水により夏季の小雨環境下において適正に維持すると、保水性の低いレキ質土壌園で糖度が高く酸の少ない果実を生産できた。また、点滴かん水により定植した 1 年生苗木の主枝体積含水率を適正に維持するとともに、定植後 2 年目は全摘果し、魚粉を春と秋に施用すると、3 年目に 1 樹あたり約 10kg の果実を生産できた。傾斜地果樹園において再利用できる雨水は、シート敷設時と非敷設時の降水量と流出量の比較から降水量の 20%と推定され、雨水の利用にあたっては排水路技術を組み合わせた効率的な集水と適正容量の貯水施設の設置が必要であることを明らかにした。太陽光発電を利用した低コスト揚水システムについては、試作システムによる揚水量の測定を開始した。マルドリ方式を導入したうんしゅうみかん産地では、果実品質は向上しているものの、販売価格は生産者の希望販売価格と乖離しており、ブランド化による高価格販売戦略が必要なことを明らかにした。省力生産技術の開発に向けて、黄色のシートを敷設すると園地に飛来するテントウムシ類の成虫個体数が他の色のシートより 1.5 倍以上多くなり、薬剤散布量を削減できる可能性を示した。さらに、緩傾斜地園の樹列間に動力運搬車を走行させるための幅 0.6 ～ 1 m の作業道を造成可能な歩行型管

理機用アタッチメントを試作した。

次年度は、かんきつの高品質安定生産を支援する主枝体積含水率に基づく樹体内水分自動精密管理システムを開発するとともに、マルチ用カラーシートの光環境制御による農薬散布回数の削減効果を検証する。また、流通・販売において生産果実を高価格販売するために必要な要因を明らかにする。

### (3) カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発

担当：カバークロップ研究近中四サブチーム

・省力管理型草種のマルチ等の抑草資材を利用した畦畔法面への植栽・管理技術の開発

平成20年度は、生分解性防草シートを用いたグラウンドカバープランツのマット状の苗の植栽方法に関して、グラウンドカバープランツの根の成長および植栽による雑草の抑制について検討した。さらに選択性のある除草剤の処理が雑草の混在したグラウンドカバープランツ植栽地の植生に及ぼす影響について検討した。その結果、根によるシートの貫通性に草種間差がみられた。また、苗の植栽によりスギナ等の出芽が抑制されたが、チガヤは防草シートを貫通して成長するため、植栽前の防除が必要であった。フルアジホップP乳剤による宿根バーベナ、ヒメイワダレソウ、ツルマンネングサおよびクリーピングタイムの薬害はみられず、植生管理に有効であると考えられた。

次年度は植物素材のマルチ資材を利用したグラウンドカバープランツの植栽技術を検討する。

・草種の生態的特性を活用した畦畔法面植生の省力管理技術の開発

平成20年度は、シバを主体とする畦畔植生の成立過程を、1) 植物群落の高さと発生量の推移、2) 畦畔の植物群落の種構成に関する基礎知見を収集した。その結果、シバを植栽した畦畔は造成1.5年目で植物群落の草高および発生量は減少した。なお、群落を構成する植物の種数や多様度指数の推移に与えるシバの植栽の影響については一定の傾向は示されなかった。

次年度は低コストな植栽法を開発するため、造成初期のシバの被度の拡大促進技術の開発に着手する。造成年におけるシバの拡大を促進するための知見を、刈り取り頻度や植栽時の目土の種類がシバ被度の拡大に及ぼす影響として把握する。

### (4) 誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発

・植物に含まれる天然抗菌物質を利用した茎葉病害防除技術の開発

担当：特命チーム員（生物的病害制御研究チーム）

甘草抽出物によるイチゴ炭疽病菌の孢子発芽阻害を検定した結果、甘草抽出物 1,000 $\mu$ g/ml では発芽率 0.2%、10,000 $\mu$ g/ml では発芽率 0%（対照 89.3%）であった。甘草抽出物に含まれるグリチルリチン酸類の孢子発芽阻害効果は低く、特定のフラボノイド類の発芽阻害効果が高かった。キュウリべと病を対象に甘草抽出物に展着剤（ニーズ）を添加した場合の防除効果を露地圃場で検定した。べと病が激発した試験であったが、ニーズを加えると、防除価がより低下した。過去に別の3種類の展着剤についても同様の結果が得られており、甘草抽出物には展着剤は不要と判断した。チョウジ油、ヒバ油等については、ばか苗病等の水稻種子消毒試験を行った。一定の防除効果は認められるが、化学合成農薬には劣った。

次年度は、ビニルハウス内で甘草抽出物の防除試験を行う予定である。

・バイオフィューミゲーション（生物的くん蒸）による土壌病害防除技術の開発

担当：特命チーム員（生物的病害制御研究チーム）

平成20年度は、アブラナ科植物等の鋤き込みによるバイオフィューミゲーションと土壌の還元化

を利用する土壌還元消毒との併用効果の向上を目的として、土壌被覆法や鋤き込み条件を検討した。植物の鋤き込み・灌水時の被覆資材として気体が透過しやすいポリエチレンフィルムと透過しにくいガスバリア性フィルムを比較した結果、土壌の酸化還元電位の低下程度には明確な差が認められなかったが、処理後の雑草の生育はガスバリア性フィルムの区で少ない傾向があり、バイオフェューミゲーションにおいてガスバリア性フィルムが優れる可能性を示した。また、植物の鋤き込み量が少ないと酸化還元電位の低下が不十分なこともわかった。

次年度は、近隣の公設試験場と共同で現地圃場での効果を検討する。

#### (5) 土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発

・雌化バクテリア等を活用した土着天敵増強技術の開発

担当：特命チーム員（総合的害虫管理研究チーム）

有用天敵である寄生蜂の単為生殖化は、天敵増殖等の利用場面や優良天敵維持管理の最適化に役立つ。本課題は、雌化・単為生殖化を誘起するバクテリアを天敵寄生蜂に人為的に移植し、雌だけの系統にする技術を開発することを目的とする。平成 20 年度は、人工培養した雌化バクテリアをマイクロインジェクション法等で天敵寄生蜂の非感染系統に移植する技術の開発を試みたが、雌化個体を得ることができなかった。

次年度は、産雌性単為生殖化個体の創出およびマイクロインジェクション法の確立を引き続き試みる。

・飛翔能力を欠くナミテントウ系統を活用したアブラムシ類の生物的防除法の開発

担当：特命チーム員（総合的害虫管理研究チーム）

遺伝的に飛翔能力を欠くナミテントウ系統は、長期間の選抜の影響によって天敵としての品質、すなわち幼虫の生存率や成虫の産卵数等が低下している。平成 20 年度は、遺伝的に飛翔能力を欠くナミテントウ系統を複数確立し、系統間の交配によってこれらのパフォーマンスが回復するかどうかについて検証した。その結果、系統間の交配によって得られた個体はもとの系統のものよりも、生存率および産卵数が回復する傾向が見られた。

次年度は、生存や繁殖のパフォーマンスの回復の程度が大きい系統同士の組み合わせ及び、雌雄の組み合わせを明らかにし、高い品質を長期的に維持するための管理体制を構築する。

#### (6) 土壌生物相の解明と脱窒などの生物機能の評価手法の開発

・脱窒菌多様性の評価法確立と水田転換畑作物生産に及ぼす影響の解析

担当：特命チーム員（土壌生物機能研究チーム）

有機物施用や土壌型、栽培履歴の異なる土壌について、変性剤濃度勾配ゲル電気泳動（DGGE）により土壌に含まれる亜酸化窒素還元酵素遺伝子を指標とした脱窒菌の多様性の解析とアセチレン阻害法による脱窒活性の測定を行った。その結果、脱窒菌相は栽培履歴により分類され、田畑輪換により少しずつ変化した。また、堆肥施用により堆肥には含まれない特徴的な亜酸化窒素還元酵素遺伝子のバンドが強くみられるようになった。脱窒活性は土壌抽出 DNA 量と土壌硝酸含有量と相関があった。また、水田後の土壌で上昇した。また堆肥施用によりおよそ 1.2 倍上昇した。

(7) 野菜栽培における土壌微生物、天敵の機能解明と難防除病害虫抑制技術の開発

・コナジラミ類媒介ベゴモウイルスの多試料検定、早期判定可能な診断技術の開発

担当：特命チーム員（野菜 IPM 研究チーム）

全国的に発生の拡大が懸念されているトマト黄化葉巻病について、安価で、作業も簡便であり多試料検定に適している血清学的診断法の開発に取り組んでいる。平成20年度は、作製した抗体のELISA法への適用ならびにその実用性評価に取り組んだ。その結果、昨年度精製したIgGおよび作製したアルカリフォスファターゼ標識抗体を、DAS-ELISA法とTAS-ELISA法に適用することが可能となった。TYLCV感染トマト葉磨砕液での検出希釈限界はDAS-ELISA法で6400倍、TAS-ELISA法で12,800倍であり、TAS-ELISA法の感度が高かった。TAS-ELISA法はタバココナジラミの保毒検定および発症前の感染トマトの検定にも使用可能であり実用性があると示唆された。

次年度は、本血清診断法を用いた罹病トマト内でのTYLCVの移行、増殖様式の解析を行う。

(8) 有機性資源の農地還元促進と窒素溶脱低減を中心にした農業生産活動規範の推進のための土壌管理技術の開発

閉鎖系水域の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発

担当：広域農業水系保全研究チーム

閉鎖系水域の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発(214q.3)の中期計画は「閉鎖系水域における水質保全を目指して、地形連鎖による自然浄化作用を組み込んだ窒素流出モデルと農業系・生活系・工業系に由来する負荷源別時系列モデルを開発し、負荷低減技術導入効果を解明する」であり、平成20年度研究計画は、「閉鎖系水域の窒素流出モデルについては、地形連鎖を考慮した畜産由来窒素流出モデルの開発と検証を行うとともに、負荷低減に向けて鉄処理有機物の調製と窒素流出低減効果の検証を行う」である。

平成20年度は、1)「閉鎖系水域における農業系、生活系、工業系に由来する環境負荷流出実態の解明と時系列モデルの開発」では、岡山・香川陸域から瀬戸内海へ流出する窒素・リンの負荷量を河川経由流出、地下水経由流出、海域への直接流出に分けて推定し、海域へ直接流出する負荷量が河川経由の負荷量と同等またはそれ以上であることを示した。2)「農耕地における面源負荷の推定と負荷削減技術導入シナリオに基づく効率的な水質改善方策の策定」では、農地を含む流域スケールの環境負荷推定モデルを作成し、琵琶湖流域の水田で滋賀県が推進している「環境こだわり農業」を行う場合、作付け期間中における窒素、リンの排出負荷量は最大でそれぞれ26%および41%低減できるものと予測した。3)「地形連鎖による自然浄化作用を組み込んだ畜産由来窒素流出モデルの開発と負荷低減策の提言」では、山間部から平野に至る地形連鎖の中で生じる自然浄化作用を組み込んだ地形連鎖窒素フローモデルをもとに、畜産由来排水の水田貯留による水質浄化予測モデルを開発するとともに、さらに溜め池から水田を経由して河川に流入する場合の水質浄化予測モデルについてパラメータ精度を向上させた。4)「有機質資材等を活用した窒素流出低減技術の開発」では、窒素流出低減資材として鉄処理木炭を選抜するとともに、本資材の硝酸イオン吸着能は、リン酸、硫酸イオンによってもほとんど阻害されないことを明らかにした。また、日射量に対応して灌水量が変化する日射対応型拍動自動灌水装置を用いた低流量点滴灌水施肥を導入することにより、化成肥料の施肥量を5割程度削減できること、本灌水施肥に富栄養化地下水を利用すれば、茶の栽培において窒素施肥量をさらに1~2割削減できることを明らかにした。

次年度は、負荷低減個別技術の導入効果をモデル流域において予測するとともに、富栄養化地下水の農業での再利用技術を確立し、香川県における導入可能マップを作成する。

(9) 草地飼料作における減肥・減農薬の環境対策技術の検証と新たな要素技術の開発

・窒素吸収量の多い植物の探索と窒素吸収機能の評価

担当：特命チーム員（飼料作環境研究チーム）

平成 20 年度は、圃場において、最低限の灌水を行う対照区、および高頻度の灌水を行う灌水区の灌水処理 2 水準、10 アール当たり 30 kg および 60 kg の窒素を施用する窒素施肥処理 2 水準を設置し、サトウキビ系統 KRSp93-19、エリアンサス系統 IJ76-319、ソルガム品種天高の栽培を行った。灌水処理は 8 月に行い、9 月上旬に収穫調査を行った。天高においては対照区と比較して灌水区の収量が増加する傾向が見られたが、IJ76-349 および KRSp93-19 の 60 kg 窒素施用区においては収量に対する灌水の有意な効果は得られなかった。

次年度は、土壌水分試験を継続して行うとともに、今年度行った堆肥実証試験初年目の試料分析とデータ解析を行う。

(10) 中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発

担当：環境保全型野菜研究チーム

害虫防除技術として、天敵シヨクガタマバエを利用したバンカー法によるアブラムシ防除対策について検討し、バンカー植物と代替餌アブラムシの組合せとしてオオムギとムギクビレアブラムシ、ソルゴーとヒエノアブラムシの組み合わせが最適であり、夏秋栽培では、後者の組み合わせが有望であった。また、紫外線を可視光に変える光質変換被覆資材は紫外線除去フィルムと同様なアブラムシ被害回避効果および成育促進効果が期待できることを論文公表した。さらに、ヤガ類防除に有効な緑色蛍光灯終夜照明をイチゴに施した場合の反応を検討し、黄色蛍光灯と比較して花芽分化への悪影響が緑色蛍光灯では小さく、品種により悪影響の程度が異なることを示し、成果情報とした。

環境ストレス制御による省力的栽培技術として、イチゴでのセル成形苗利用技術を検討し、土耕栽培で苗を早期に定植する際は、頂花房・一次腋花房の出蕾遅延を回避するために、定植前の土壌中の残存窒素量を硝酸イオン濃度 60mg/kg 乾土以下とする必要があること、定植前マルチング資材としてタイベックシートの利用が有効であること等を明らかにし、関連成果と合わせ技術マニュアルとして取りまとめた。さらに、イチゴ高設栽培の培地を気化潜熱を活用して冷却し、収穫の遅延や中休みを回避する技術開発を進め、透湿防水シートを用い、これが培地表面ではマルチの役割を、培地の下面では送風空気の通路の役割を果たすように展張する方法を開発し特許出願した。

一方、土壌微生物相多様化を活用して土壌病害を軽減する技術開発を進めている。この目的のために、細菌 DNA を根から抽出する手法を検討し、植物根の細菌群集構造解析に役立てようとした。その結果、ガラスビーズで細胞を破碎するビーズ法が適しており、従来法と比べ迅速かつ簡便、安価に DNA を抽出できること、および、ビーズ法で抽出された DNA は、細菌の 16S rDNA の PCR-DGGE 解析に供試できることを明らかにして論文・成果情報として公表した。また、土壌微生物密度推定のために役立つ Visual BASIC プログラムを開発するとともに、土壌バイオマス窒素測定手法についての知見を論文発表した。

軽労化技術としては有機物の局所施用を行う際に作業機械（マルチャ等）に取り付けて活用できる速度連動施肥ユニットを開発して成果情報とした。

また、中山間地域における小規模多品目野菜経営への環境保全型技術導入の事例について解析し、虫害対策技術ニーズが非常に大きいこと、技術導入事例のうち 7 割で収量改善につながったことを示した。

次年度は、アブラムシ防除のための天敵利用技術およびシソ青枯病の二次伝染防止技術の開発を、

産地条件を反映させながら公設試等と連携して推進する。同様に、景観植物の混作による天敵維持技術、カラシナ鋤込みによる土壌病害回避技術、光質変換フィルムなどの機能性資材の利用による生長制御技術、きく切り花の一斉収穫体系技術についても、他機関と連携しつつ開発を進める。

#### 4) 環境変動に対応した農業生産技術の開発

##### (1) 気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発

暖地・温暖地における気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発

担当：暖地温暖化研究近中四サブチーム

###### ・気候変動予測に対応した地域気象資源賦存量の把握技術の開発

気候変動予測モデルで推定される将来の気候値は空間解像度が粗いため、これを適地判定などで使用される 1km メッシュサイズまでダウンスケールし、西日本を対象に温暖化時のメッシュ気候値を作成する。平成 20 年度は、アメダス観測値から領域気候モデルのモデルバイアスを補正し、気温の 1km メッシュ気候図の作成法を開発した。さらに、畜産への温暖化影響予測のため、湿球温度のモデルバイアス補正法を開発した。これらの手法を用いて西日本における 1km メッシュ気候図（気温・湿度）を作成した。

###### ・作物生理生態応答に基づく温暖化条件下の収量・品質予測手法の開発

平成 20 年度は、温暖化条件下に予想される夏期の水供給の不安定化に備え、早期落水条件下における水稲収量・品質の予測技術の向上を目指し、栽培試験を行った。出穂期以前に落水処理した早期落水条件では湛水条件と比較して、光合成・蒸散量の低下が見られた。また、白未熟粒割合が大きくなっており、登熟期の光合成量の低下が収量に影響を及ぼしたと考えられた。また、葉身窒素濃度と光合成・蒸散量には高い相関が見られ、落水による葉身窒素濃度の低下が、水稲品質に及ぼす影響が示唆された。

次年度は、落水の時期や施肥体系の変動が収量・品質に及ぼす影響の検討を進める。

###### ・イネ葉表面の微細水滴リモートモニタリング技術の検討

温暖化条件下では降水パターンの変動が予想され、極めて狭い範囲に多量の降水が集中する豪雨の多発等が懸念されている。このため、風通しの悪い中山間の農地では作物の水濡れが解消されにくくなる場所も生じ、病害リスクが高まる可能性がある。そこで、既存の手法では効率的に把握できなかった遠隔農地の作物の水濡れ状況のモニター手法を開発し、病害リスク低減を支援できる要素技術に発展させる。平成 20 年度は、CCD 顕微カメラを遠隔駆動するシステムを試作し、画像のピントを遠隔から修正できることを示し、イネの葉表面の顕微画像から水濡れを判別する手法を検討した。

次年度は、画像処理手法を改良し、フィールド運用での問題点を明らかにする。

##### (2) 高品質安定生産のための農業気象災害警戒システムの開発

###### ・気象ロボットを用いた小麦赤かび病の早期警戒システムの開発

担当：特命チーム員（農業気象災害研究チーム）

平成 20 年度は、小麦赤かび病の防除を適期に行うため、リアルタイムのアメダスデータを用いて開花期（1 回目の防除適期）を予測し、予測結果を生産者に伝えるシステムを構築した。生産者は予測された防除適期を WEB 上で閲覧することが出来る。また、赤かび病感染後のかび毒蓄積に関する試験では、感染後の濡れ時間が 150 時間以下ではかび毒の蓄積は少ないが、濡れ時間が 150 時間を超すと、濡れ時間に比例してかび毒が蓄積するとの結果を得た。

次年度は、開花期の予測精度を向上させるとともに、システムの改良を行う。また、かび毒に関しては、本年度と同様の接種試験を行い、再現性を確認する。

## ○次世代の農業を先導する革新的技術の研究開発

### 5) 先端的知見を活用した農業生物の開発及びその利用技術の開発

#### (1) イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発

担当：特命チーム員（稲収量性研究チーム）

##### ・高温下での水稻の炭素・窒素動態と登熟障害米発生メカニズムの解明

夏季の高温による玄米の部分的な白濁や割れ、粒重低下のメカニズム解明を目的とする。平成20年度は、高温下における穎果間での同化産物の競合を評価するために穂上の全粒を対象とした粒重増加過程を解析し、登熟の遅い穎果ほど高温によって生長速度が高まり、登熟期間が短縮することを明らかにした。また、穎果の生長に関与するアブシジン酸（ABA）含量が、高温下で低下することを明らかにした。一方、胴割れ米については、寒冷地と同様に温暖地においても登熟初期の高温によって発生が助長されることを確認した。

次年度は、高温下での弱勢な穎果の生長促進の原因や外観品質との関連を調査するとともに、高温で低日射の条件がABA含量に及ぼす影響についても調査を進める。また、温暖地における胴割れ米の発生動向を調査するとともに、胴割れ耐性の品種間差を効率的に評価する手法の開発に着手する。

##### ・温度条件が収量とソース・シンク能の関わりに及ぼす影響の評価

収量性に関与する茎葉中非構造化炭水化物（NSC）の蓄積に関するQTLの座乗領域の絞り込みを進め、第5染色体上のQTLについては約4cMのマーカー間まで座乗領域を狭めた。また、多収品種の中国地域における生育・収量特性を調査するとともに、複数の肥効調節型肥料を用いた最適な窒素供給下で超多収栽培の実証を試みた。その結果、1100g/m<sup>2</sup>を超える高収量を3品種系統で達成し、実証栽培においては全刈り収量1000g/m<sup>2</sup>以上を記録した。

次年度もQTLの絞り込みを継続するとともに、このQTLの高温条件下での作用発現を確認する。また、多収品種の収量、登熟性の年次・地域間差の要因を解析し、現地等において超多収栽培を実証する。

##### ・イネ登熟過程における老化に関する生理機構及び遺伝子領域の解明

ササニシキ/ハバタキ染色体断片置換系統群（CSSLs）の葉身の老化程度を評価し、さらに老化程度が低い数系統について窒素動態の調査を行った。その結果、葉身の老化に関与するQTLの座乗領域を複数推定した。また、老化程度が小さく多収の多収系1026は、登熟後半になっても止葉に窒素を維持していることを明らかにした。

次年度は、老化に関与するQTL領域の絞り込みを行うとともに、ササニシキ/ハバタキCSSLsの老化程度の年次間差の評価、老化程度が異なる系統の窒素動態の解析を行う。

(2) イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発

担当：米品質研究近中四サブチーム

- ・可消化タンパク質低減米等特別用途向き水稻育種素材の開発と品種育成
- ・タンパク質変異米の特性及び品質形成機構の解明
- ・米の用途拡大のための新規複合脂質の構造決定と大量抽出法の確立
- ・ビタミン類を多く含む稲系統の探索とその遺伝子機能の解明

特徴ある米品質を持つ品種・系統の選抜・作出を実施している他、機能性成分の抽出方法の開発、米粉パン等の米粉加工食品に向く米の選定と加工特性の研究を行っている。

「可消化タンパク質低減米等特別用途向き水稻育種素材の開発と品種育成」では、平成20年度は、巨大胚かつ低アミロース形質を持ち、巨大胚粳米品種の「はいいぶき」より多収の「中国胚202号」を育成した。葉もち圃場抵抗性は強で、縞葉枯病に対して抵抗性である。玄米粉として水に浸漬したときの $\gamma$ -アミノ酪酸(GABA)の生成量は、「ヒノヒカリ」の3~5倍あり、「はいいぶき」と同等である。胚芽が完全に除去されるまで精米した米を炊飯したときの食味は「日本晴」より明らかに優り、家庭用精米機「サタケマジックミル」の胚芽米モード搗精した米の食味は、「はいいぶき」より優った。

次年度は、「中国胚202号」の岡山県津山市および岡山県瀬戸内市での試作を行い、品種化に向けたデータを取得する。

「タンパク質変異米の特性及び品質形成機構の解明」では、米粉に向くと推定される胚乳白濁系統のデンプン含有率、アミロース含有率を明らかにした。乳白変異系統は乾式ピンミルで製粉しても損傷デンプンと粒子径が小さくなり、膨らみが良い酵素処理気流粉碎で調製した米粉に近い比容積を示した。

次年度は、白濁変異系統の精米特性・成分特性を詳細に調査すると共に、選抜手法を検討する。また、屑米や飼料米の分析点数を増やして環境要因で生じる白濁米の製粉特性を調査する。

パン生地でモノマー化すると考えられた13 kDa付近のたんぱく質はアレルゲン様たんぱく質であり、パン加工の副材料の食塩によって可溶化することがわかった。グルテリン割合が減少しプロラミン割合が増大している米粉で作成した米粉パンの比容積は大きいことがわかった。

次年度は、パン生地のグルテリンやプロラミン量を測定し、米たんぱく質のパンの比容積への関与を明らかにするとともに、たんぱく質組成変異系統の種子構造や製粉特性を評価し、たんぱく質組成の変異の製パン性への影響を明確にする。

(3) 稲病害虫抵抗性同質遺伝子系統群の選抜と有用 QTL 遺伝子集積のための選抜マーカーの開発

- ・DNA マーカーを利用した陸稲由来のいもち病抵抗性と縞葉枯病抵抗性の同質遺伝子系統・集積系統の育成

担当：特命チーム員（稲マーカー育種研究チーム）

DNA マーカーを利用して「コシヒカリ」および「ヒノヒカリ」の同質遺伝子系統の作出を進めている。平成20年度は「コシヒカリ」に2個の縞葉枯病抵抗性遺伝子 *Stva*、*Stvb* およびいもち病抵抗性遺伝子 *Pi34* を導入して育成した「中国 II2 号」について、栽培特性等の「コシヒカリ」との同質性を確認した。また、3個のいもち病抵抗性遺伝子について「ヒノヒカリ」による同質遺伝子系統育成のための戻し交配を進め、菌の接種および DNA マーカーによる選抜を行った。

次年度は、「中国 II2 号」の品種登録出願に必要な栽培特性や抵抗性等の調査を引き続き行う。また、「ヒノヒカリ」同質遺伝子系統育成のための戻し交配・選抜を更に進める。

## 6) IT活用による高度生産管理システムの開発

### (1) フィールドサーバの高機能化と農作物栽培管理支援技術の開発

- ・車載センサ・圃場設置センサによるハイブリッド栽培管理情報収集技術の開発

担当：特命チーム員（フィールドモニタリング研究チーム）

平成 20 年度は、移動機械や可搬型機器に搭載されたメッシュ栽培管理ソフト（PFUManager）が収集した地点データを栽培管理情報蓄積・発信サーバにアップロードする際のデータ書式および変換機能を開発した。具体的には、PFUManager の地点データを GPX（GPS exchange format）拡張形式でドキュメント化することとし、データ変換出力機能を追加した。さらに、GPX 拡張形式から ESRI シェイプ形式への変換機能も追加して、収集データの作業計画管理支援ソフトでの利用を可能にした。

次年度は、圃場等に設置されたフィールドサーバネットワークを経由して、GPX 拡張形式の地点データを収集・蓄積するサーバソフトを開発する。

- ・現場情報収集及び技術情報活用のためのモバイル情報処理ソフトウェアの開発

担当：特命チーム員（フィールドモニタリング研究チーム）

平成 20 年度は、既開発の「カスタマイズ可能な農業記録システム」における地図表示機能、数式処理機能等を統合して応用性を高め、農業記録システムを地図ベースで利用できるようにするための地図提供サービスの構築を図った。具体的には、既開発のシステムおよび地図表示機能、数式処理機能の再構成を行いつつ、既開発のシステムについても機能追加や訂正を行い、また、全国の地図画像を提供するサイトを構築した。

次年度は、新版の開発と全体の最適化を行う。また、地域農業確立総合研究の応募課題において本システムをベースにしたシステムが組み込まれるので、本課題と並行して機能追加を図る。

### (2) 生産・流通 IT化のための農業技術体系データベース及び意思決定支援システムの開発

担当：生産支援システム研究近中四サブチーム

- ・Web サービス連携による適正営農設計支援システムの開発
- ・中山間地における農地管理支援システムの開発

平成 20 年度は、水稻生育予測モデルが使用する予測パラメータの精度改善、広域分散圃場における作業計画管理支援ソフトの改良と普及促進、分布型モデルによる瀬戸内海流域の水収支の解析等を行った。

具体的には、Web サービス連携により構成される営農支援システムの一環として、平成 19 年度までに全国対応へ拡張した水稻生育予測サービスが使用する品種別予測モデルパラメータを、最新の「全国奨励品種決定データ 2007」を用いて再計算し予測精度を改善した。また、平成 19 年度までに開発した作業計画管理支援ソフトに収穫以降出荷までの生産出荷管理機能や携帯端末を用いた作業記録ソフトとの連携機能等を追加するとともに、引き続き一般公開・無償配布することにより利用者からのフィードバックを得てソフト改良に反映した。さらに、普及関係機関の協力を得ながら農業者に対する研修・講習会を実施し、普及拡大に努めた。水収支の解析は、流域スケールでの環境負荷評価の一環として物質輸送に大きな役割を果たす水収支の把握を目的とし、空間的な分布や変動を評価するために 1km メッシュを基本単位とした分布型モデルのプログラムを独自に作成した。これを広島県の芦田川、太田川、岡山県の吉井川、香川県の土器川流域に適用して水収支を評価した。また、備讃地域（岡山・香川県）の全窒素、全リン、COD（化学的酸素要求量）の発生源別の負荷量を推定し、河川流域・海域直接流域別に整理した。

次年度は、水稻生育予測モデルパラメータの地帯別・道府県別のさらなる精度改善を図るとともに、実証現地や一般利用者からのフィードバックを踏まえた作業計画管理支援ソフトの改良とマニュアルの整備を重点的に行う。また、水収支の解析は、モデルを改善して精度の向上を図るとともに、発生負荷量を加味して環境負荷評価に適用できるように機能の拡張を図る。さらに、モデルで使用する人口・土地利用等、対象年次（1995～2005年）の相違を反映させたデータを作成し、経年的な推定精度の向上につなげる。

## 7) 自動化技術等を応用した軽労・省力・安全生産システムの開発

### (1) 農作業の高精度化・自動化等による高度生産システムの開発及び労働の質改善のための評価指標の策定

・傾斜地における収穫物自動搬送システムの開発

担当：特命チーム員（高度作業システム研究チーム）

自動搬送を行う要素技術として開発したバラ積み搬送法が収穫物の品質に与える影響を評価するため、ウンシュウミカンを対象として貯蔵試験を行った。その結果、バラ積み搬送を行うと果重の損失が3%程度大きくなったが、果実損傷や腐敗果の発生、糖度の減少などその他の形質には慣行の搬送法との間に差異は認められなかった。収穫後に果実品質を低下させる要因として、貯蔵時の容器について調査したところ、通気性のあるコンテナとダンボールでは、果実腐敗や糖度等の形質に関して悪影響は認められなかった。

また、自動運転中の安全性を確保するため、画像による周辺認識技術の開発を開始し、自動運転時のリスク分析、画像取得法の検討を行った。

次年度は、コンテナ積替え、品質低下要因の解明、画像から人などの障害物を検出するアルゴリズムの開発を行う。

## 8) 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けたバイオマスの低コスト・高効率エネルギー変換技術の開発

### (1) バイオエタノール原料としての資源作物の多収品種の育成と低コスト・多収栽培技術の開発

・サトウキビの省力・低コスト栽培技術の開発

担当：広域農業水系保全研究チーム（資源作物開発チーム 課題支援）

耕作放棄地不良環境圃場におけるサトウキビの収量、雑草生育、病害虫発生等の基礎データを取得するため、3年間耕作放棄地であった圃場においてサトウキビ新植栽培試験の収穫調査を行った。製糖用品種 NiTn18 の原料茎重および全糖収量は対照圃場のものと比較して遜色なかったが、高バイオマスモデル系統 KR98-1001 ではかなり差が見られた。耕作放棄地を耕地化する処理を比較すると、雑草発生量と収量に差がなかったのに対し、労力とコストは「除草剤処理+焼却」処理の方が少なかったことから、「除草剤処理+焼却」処理の方が有効であった。

次年度は、耕作放棄地におけるサトウキビ株出し栽培に伴う雑草・病害虫発生の解析、成育および収穫調査を行う。

## ● 食の安全・消費者の信頼確保と健全な食生活の実現に資する研究

### ○ ニーズに対応した高品質な農産物・食品の研究開発

#### 9) 高品質な農産物・食品と品質評価技術の開発

##### (1) 直播適性に優れ、実需者ニーズに対応した低コスト業務用水稲品種の育成

担当：低コスト稲育種研究近中四サブチーム

- ・耐倒伏性、病害複合抵抗性を付与した温暖地西部での低コスト栽培向き水稻品種の育成

低コスト業務用水稲品種の育成については、「日本晴」熟期を中心に病害複合抵抗性で直播栽培に適した良食味品種や低アミロース品種を育成するための交配、選抜、特性調査等を実施した。平成 20 年度は、良質、良食味で縞葉枯病および穂いもち病に強い「日本晴」熟期の「中国 200 号」、「ヒノヒカリ」熟期の「中国 201 号」を新配付系統として選定した。岡山県内 2 カ所の生産者団体圃場で低アミロース系統「中国 192 号」の適応性を検討し、有望であると判断した。

次年度は、「中国 192 号」について、平成 22 年度の新品種登録申請を行うため詳細な特性の調査を行う。また、「日本晴」熟期を中心とした耐倒伏性、耐病性、良食味品種の育成を継続する。

##### (2) めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発

担当：めん用小麦研究近中四サブチーム

- ・小麦粉粒度の制御因子の解明と低タンパク質含量小麦の製粉性の向上

除タンパク質および除脂質した軟質小麦デンプン顆粒にはピュロインドリン（硬軟質性に関わるタンパク質、PIN と略す）がほとんど吸着しないことから、PIN は他の化合物との結合を介してデンプン顆粒に吸着することが考えられる。その可能性の高い化合物として極性脂質が挙げられる。そこで、軟質および硬質小麦デンプン顆粒表層の糖脂質組成を解析した。

その結果、軟質小麦と硬質小麦では、デンプン顆粒表層のグリセロ糖脂質（MGDG、DGDG）含量に大きな差異があり、PIN とグリセロ糖脂質との結合を介してデンプンに吸着する可能性が示唆された。

次年度は、軟質および硬質小麦デンプン顆粒表層のリン脂質組成を解析する。また、デンプン顆粒吸着性 PIN と脂質の会合体形成の有無、およびデンプン顆粒吸着性 PIN（と極性脂質の会合体）のデンプン顆粒への化学結合様式を解析する。

- ・硬質化により製粉性（篩抜け性）を向上させた、やや低アミロースの温暖地西部向けめん用早熟小麦品種の育成

平成 20 年度は、製粉性を向上させた、やや低アミロースの温暖地西部向けめん用早熟小麦品種の育成を進めるとともに、近年要望の高まっている菓子用軟質通常アミロース系統、気候変動に対応した秋播型系統、低カドミウム系統の開発にも取り組んだ。またグルテニンサブユニットや小麦粉粒度が二次加工適性に与える影響の解析を継続した。

その結果、そうめんに適し、製粉性（篩抜け性）の優れるやや低アミロースの早熟・硬質系統「中国 157 号」が奈良県で有望と認められ、「ふくはるか」と命名して品種登録出願した。また、やや低アミロース、穂発芽性極難、極早生の日本めん用系統「中国 159 号」を新配付系統として関係府県に配付を開始した。さらに、小麦粉粒度がゆでめんの厚みや破断力に及ぼす影響を解析した。

次年度は、新品種「ふくはるか」の普及を図るとともに、製粉性が高く早熟な、通常アミロース系統、秋播型系統、低カドミウム系統の育成を進める。また DNA マーカーを用いて日長反応性遺伝子 Ppd-A1,B1 を導入した早生デュラムコムギ系統を選抜する。

・小麦ふすまの高付加価値化技術の開発

ふすまの自己消化によるアンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害ペプチドの反応効率を上げるために、水系溶媒によるふすまの洗浄およびヘキサンのによる脱脂など、反応前処理条件を検討した。また ACE 阻害ペプチドの生成に関与する内在性プロテアーゼの性質を調べるとともに、粗製造ペプチド画分の高血圧自然発症ラット（SHR）血圧に及ぼす効果を調べた。

その結果、検討した前処理条件では、ヘキサンによる脱脂（20～30℃）および水溶液（中性～酸性）による洗浄処理が阻害活性の増加に有効であった。酸性プロテアーゼおよびセリンプロテアーゼが ACE 阻害ペプチドの生成に寄与することが明らかになった。粗製造物は単回投与試験において、SHR の血圧を用量依存的に低下させた。

次年度は、ACE 阻害ペプチドの構造を決定し、精製ペプチドの SHR の血圧に及ぼす影響を調べる。また内在酵素の貯蔵安定性を調べる。

(3) 実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種の育成と加工・利用技術の開発

担当：パン用小麦研究近中四サブチーム

・製パンに適した高分子量及び低分子量グルテニンサブユニットを持つ温暖地西部向け早熟小麦系統の開発

グルテニンサブユニットおよび硬軟質性と製パン性との関係を解析し、農業特性と製パン性に優れるパン用系統を選抜した。また、極低アミロース性が製パン性に与える効果について試験を行った。その結果、生産力検定予備試験からミナミノカオリ同等以上の物性を示すパン用系統を選抜した。めん用品種に、硬質性、*Glu-D1d* を導入し、*Glu-A1c*（欠失）を排除することで農業特性に優れるパン用品種の開発を促進できると考えられた。極低アミロース小麦はパンの老化を遅延する効果が認められた。甘味種小麦を含む新規小麦系統育成のため、連続戻し交配と DNA マーカー選抜を行い BC2F1 種子を得た。次年度は、パン用の新配布系統の選定を進め、農業特性および製パン性等を詳細に調査する。秋播性のパン用系統の選抜を行うほか、グルテニンサブユニットとピュロインドリリン遺伝子の加工適性への効果を更に分析する。

・製パン・製麺性に係わる DNA マーカーの開発による高品質小麦品種選抜法の改善

低分子量グルテニン・サブユニット（LMW-GS）遺伝子型の系統選抜をおこなうとともに、生地物性に関与すると考えられるグリアジンタンパク質遺伝子型の解析とカタログ化を行った。その結果、近農研の育成系統と作物研の DH 系統について、グルテニン・サブユニット と硬軟質関連タンパク質（PIN-a, PIN-b）遺伝子型について遺伝子型が決定された。グリアジンタンパク質については、*Gli-D1* 遺伝子座にコードされる  $\omega$  グリアジンに注目し、ニシノカオリ型とミナミノカオリ型に分類するとともに、戻し交雑系統を用いてミナミノカオリ型のものが生地物性を高める傾向にあることを明らかにし、ミナミノカオリ型のものを判別する DNA マーカーを開発した。また、LMW-GS 遺伝子型については、その命名法について国際共同研究を進めた。

次年度は、ミナミノカオリ型の  $\omega$  グリアジン（*Gli-D1*）の生地物性に対する効果について、*Glu-A1* 欠失の無い条件で解析するための系統作出を行う。また、他のグリアジンについても品種間差異を明らかにし、生地物性に対する効果を解析するとともに、DNA マーカー化を行う。

・モチ性を含む低アミロース性パンコムギの特性とその形成機構の解明

モチ性／ウルチ性の準同質遺伝子系統を用いて、アミロペクチンの構造、穀粒の化学成分組成等を解析した。その結果、パンコムギのモチ性／ウルチ性の準同質遺伝子系統から分離したアミロペクチンには、分子量の違いによる側鎖長分布の違いは認められなかった。また、低アミロース性準

同質遺伝子系統を増殖した。

次年度は、測定法の検討とともに、準同質遺伝子系統を用い、Wx-D1 座の遺伝子型がアミロペクチンの構造、澱粉および穀粒の化学成分組成に与える影響を解析する。

#### (4) 大麦・はだか麦の需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発

担当：大麦・はだか麦研究チーム

平成 20 年度の研究計画は「二条裸麦「四国裸 103 号」の品種登録出願を行うとともに、栽培試験により普及見込み地域で品質を明らかにする。プロアントシアニジンフリー（以下 *ant*）ともち性の形質を兼ね備えた系統の選抜を行い、硬軟質性や精麦品質との関係解析を行う。炊飯や焙煎処理を行った時のビタミン E 同族体の変動について検証する」である。

成果の概要は以下のとおりである。「四国裸 103 号」は大粒で主要病害に強く、一般栽培品種としては日本初の二条裸麦「ユメサキボシ」として品種登録出願した。「ユメサキボシ」の普及対象地域の栽培試験で得られた粒の品質分析を行い、千粒重と砕粒率との間に有意な相関 ( $r=0.78^{**}$ ) があり、千粒重が 40g 以下のサンプルでは砕粒率が 5% 以下に抑えられていることを見いだした。奨励品種決定調査に供試した 9 系統（「四国裸 103 号」、「四国裸 109 号」～「四国裸 116 号」のうち「四国裸 111 号」は試験を終了とした。多収で高精麦白度の「四国裸 117 号」、「四国裸 118 号」および食感に優れるもち性と *ant* 遺伝子を有してポリフェノール含量が少ないために炊飯麦が褐変しにくいという形質を備えた「四国裸糯 119 号」を新配付とした。

穂発芽検定の条件を 18℃ として、穂発芽抵抗性のある *ant* 系統開発の可能性を示すとともに、多検体を扱うために必要な発色の安定するポリフェノール含量定量法の開発を行った。炊飯麦の保温後の色相変化については、*ant* 系統は通常系統と異なり色相値の  $a^*$  および白度は、他の通常の系統に比べて保温による影響が小さく、ほとんど変化しないこと、また  $b^*$  は保温時間の増加に伴って低下することを示した。さらに炊飯や焙煎などの加工を行ってもビタミン E 同族体は 80% 以上残存することおよび麦茶中にはほとんど含まれていないことを示した。

次年度は、「四国裸糯 119 号」を品種登録出願する。穂発芽抵抗性の強い六条裸麦系統との交配を繰り返し、抵抗性の強い *ant* 系統は休眠性に関わる既報 QTL についての解析を行う。ポリフェノール含量定量および炊飯麦色相測定方法については追試を行い、炊飯麦の保温による褐変測定の中で黄色みに関わる  $b^*$  の変化に注目して解析を行う。農業特性の優れる焼酎用等のはだか麦の開発に有用な DNA マーカー 3 種（新規縞萎縮病抵抗性、うどんこ病抵抗性、閉花性）の実用化・育種利用を行う。大麦・はだか麦の新たな機能性を明らかにするために抽出物の抗酸化力の測定及び脂肪細胞分化作用を示す画分の精製を行う。

#### (5) 乳肉の美味しさ等の品質に影響を与える因子の解明と新たな評価法の開発

牛の肉質形成過程のプロテオーム解析

・黒毛和種の骨格筋形成関連物質の網羅的解析

担当：特命チーム員（食肉プロテオーム研究チーム）

濃厚飼料多給と比較して短期放牧（試験 1）した牛で遅筋割合の増加が認められた半腱様筋において、その増加メカニズム解明のために、発現タンパク質の網羅的解析を行った結果、これを支持する酵素等の増減が両区の筋漿タンパク質画分で認められた。一方、濃厚飼料多給と比較して粗飼料多給（試験 2）で舎飼肥育した牛では、肉量の減少傾向が認められたが、赤肉割合の増加傾向および調理時の肉汁保持が示唆された。また、脂肪酸組成割合についても、両区で変化が認められた。

次年度は、濃厚飼料多給および粗飼料多給で舎飼肥育した牛について、骨格筋で発現タンパク質の網羅的解析および遺伝子の発現解析を実施し、両区の牛肉特性を比較する。

## 10) 農産物・食品の機能性の解明と利用技術の開発

### (1) 野菜・茶の免疫調節作用、生活習慣病予防作用を持つ機能性成分の評価法と利用技術の開発

・脂肪細胞に着目した野菜の生活習慣病予防成分の解明

担当：特命チーム員（野菜・茶機能性研究チーム）

脂肪細胞を小型化させメタボリックシンドロームの予防作用を有する野菜成分を見いだすことを目的として、今回ショウガ、ブロッコリ、シコクビエについて検討した。各抽出物を前駆脂肪細胞に添加して培養すると小型の脂肪細胞となり脂肪細胞分化を促進させることがわかった。その時、メタボ予防に関わるアディポネクチン等の遺伝子の発現上昇が認められた。また、ショウガ等抽出物は脂肪細胞分化に必須である核内受容体 PPAR  $\gamma$  を活性化した。これらの結果からショウガ等はある種の糖尿病治療薬と同じ作用メカニズムを有していることがわかった。

次年度においても野菜成分の脂肪細胞機能への作用について遺伝子発現、核内受容体を含めて解析していく。

### (2) かんきつ・りんご等果実の機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発

・核内受容体を標的とするかんきつ等果実成分の肥満等生活習慣病予防作用の解明

担当：特命チーム員（健康機能性研究チーム）

本研究ではメタボリックシンドロームの予防、改善につながる脂肪細胞機能を調節するカンキツ抽出物およびポリフェノール成分を探索している。平成20年度は、カンキツの香気成分であるシトラール、およびカンキツには含まれないがサクラネチンがそれぞれ脂肪細胞分化を促進することを明らかにした。また、シトラールは脂肪細胞の分化および機能に重要な核内受容体 PPAR  $\gamma$  のリガンドとなる可能性も見いだしている。一方、サクラネチンは脂肪細胞分化を負に制御している転写因子の発現を抑制する働きをもち、これが脂肪細胞分化を促進する効果の一因であると考えられた。

次年度は、これら成分の動物レベルでの効果を検証することに重点を置いて研究を行う。

## ○ 農産物・食品の安全確保のための研究開発

### 11) 農産物・食品の信頼確保に資する技術の開発

#### (1) 農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発

担当：品種識別・産地判別研究チーム

小麦、大麦・裸麦、いんげん等の各種加工品について、DNA マーカーの精度の向上と判別可能な適用品種の拡大を図り、加工品における判別技術の妥当性を自己検証した。その結果、小麦については、国内市場に流通する42品種間や主要パン用品種等を判別する SNP マーカーを開発した。また、外国品種に特異的に検出される SSR マーカーを開発し、国産小麦との簡易判別と混入率測定への利用の可能性を見出した。また、市販の DNA 抽出キットを改良することで、小麦粉、麺類、食パン、菓子類からの DNA 抽出が可能となった。大麦・裸麦については、これまでに検索した品種判別マーカーを用いて、国内で流通する国内33品種、外国15品種の多型データをカタログ化し、国内で流通する外国産大麦のほぼ100%まで適用品種を拡大した。また、大麦・裸麦加工製品13製品（レトルト、押し麦、ホットケーキミックス他）の品種判別では、はったい粉を除く全製品で

可能であった。インゲンマメについては、レトロトランスポゾンを用いた L438 配列解析の中で品種間での挿入多型を見出した。また、チャについては、配列の系統分化解析により活発に転移したと見られる 2 グループを同定した。アズキについては、LAMP 法による検出に適したプライマーを設計し、餡等を対象とする簡易・迅速な品種同定法の確立に目処が付いた。

次年度は、小麦、大麦・裸麦、茶、インゲン等の各種加工品について、実用化に向けた品種内多型の有無の確認や作物種（品目）及び品種特異的マーカーを開発する。

## ● 美しい国土・豊かな環境と潤いのある国民生活の実現に資する研究

### ○ 農村における地域資源の活用のための研究開発

#### 1 2) バイオマスの地域循環システムの構築

##### (1) 温暖地における油糧作物を導入したバイオマス資源地域循環システムの構築

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

バイオマス資源を利用した地域循環システムの構築を目的として、水田転換畑において現地実証試験を行いつつ、研究開発に取り組んだ。ヒマワリの密播による減収問題を解決するため、1 粒点播が可能なヒマワリ用播種ロールを完成させ、耕うん同時簡易畝立て播種による湿害回避技術や機械除草技術と組み合わせることで、234kg/10a（防鳥対策をした坪刈り平均）の収量が得られることを実証した。また、作土を乾燥状態に保つことにより、生育が改善され、根の発達が良好で、AM 菌の共生率も大幅に増大することを現地で確認した。

次年度は、ヒマワリの排水対策技術及び省力播種技術の現地実証、ヒマワリ搾油残さの乳牛への給与技術開発に取り組む。

### ○ 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発

#### 1 3) 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発

##### (1) 草地生態系の持つ多面的機能の解明

・西日本地域における半自然草地の生物多様性評価と管理

担当：特命チーム員（草地多面的機能研究チーム）

全国の調査データをもとに、シバ型草地において植物種の豊富さを簡易に推定する方法を提案した。また、中国地域の代表的な草原域において、TWINSPAN により草地タイプを分類し、識別種と被度の高い種を抽出した。さらに、各調査地のフロラリストを統合化し、中国地域レベルでの指標種開発のためのデータベース構築に着手した。遺伝子関係では、草原性絶滅危惧植物ヒゴタイの遺伝的多様性が、伝統的な秋の採草が実施されている生育地では比較的良好であること、また、中国地方に比べて阿蘇地方の自生個体群は遺伝的多様性の低い集団が多いことを明らかにした。

次年度は、地方レベルあるいはサイトレベルで、草地タイプごとの依存種や識別種を暫定的な指標種として検索するとともに、種多様性や希少種との関連性、認識の容易さや現地での再現性を検証する。

##### (2) 野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発

担当：鳥獣害研究チーム

自立的な被害防止を実行できる農家を育成することを目的として、野生動物の行動を解明するとともに、その結果をふまえて獣害を受けにくい環境作りや鳥獣害を防止しやすい栽培技術の開発を

行った。また、一部を住民参加型の公開試験とし、試験の進捗状況を展示しつつ地域住民に技術移転し、住民の自立的な対策への動機付けの効果を検証した。

行動の解明ではイノシシに対し忌避物質及び忌避作物の検索を行った結果、キャベツ、サツマイモ葉の嗜好性が高く、シソ、オナモミはまったく食餌しなかった。ハクビシンでは、弛んだロープや直径 0.8mm のワイヤー上を歩行移動することができるなど高い運動能力が確認された。イノシシは苦味については、0.16%カフェインから忌避を、また甘味については 0.12%ショ糖から嗜好したが、ハクビシンの場合は苦味については 0.04%カフェインから忌避し、甘味嗜好反応は 0.64%ショ糖から観察され、種間で大きな差が認められた。イノシシ新生児（1～2ヶ月齢）は遊泳が可能であったが、陸に上げられる場合は、可能な限り陸に上がることを選択した。

獣害を受けにくい環境作りでは、ワイヤーメッシュを平置きにした上に目隠しシートを張って、足下を不安定にした障害物（浮き柵）によってイノシシの行動が抑制されることが確認された。餌の手前に浮き柵を置いた調査 3 地点のうち 2 地点では、それぞれ延べ 70 回、97 回、イノシシが出没し、餌をとろうとしたが浮き柵を越えることは出来なかった。他の 1 地点でも 177 回で 18 回の侵入にとどまり、浮き柵の設置は傾斜地などで有効であると判断された。草地更新が行われて若い牧草が繁茂する採草地が存在する場合、イノシシはその採草地を集中的に利用したが、草地更新がない場合は、複数の採草地を分散して利用することが明らかとなった。

営農管理技術の開発では、カキ(西条)の超低樹高化のための切り戻し作業を 6 月に行った場合、7、8 月の作業と比較して良好な結果母子を多数確保できた。低面ネット（目あい 25cm）に誘引した際の結果母枝による充足目あい数は、6 月切り戻しで 85.4 であり、7 月と 8 月切り戻しの 76.7 および 78.3 と比較して有意に多かった。カキ及び技術開発中のキウイフルーツ、ウメ等の試験圃場での技術移転による動機付けの結果、開試験受講者の 65%（26 人 / 40 人）が各自の圃場での低樹高化に着手した。サツマイモでは主要 12 品種中、葉の切れ込みが深く形状が異なる鹿屋紫をサルがサツマイモと認識できず、引き抜き被害を免れた。また、畝面に竹を敷き詰めたサツマイモの畝マルチ栽培はサルやイノシシの被害を受けにくく、果菜類のスーパーセル苗（肥料制限苗）は慣行苗と比較してイノシシの嗜好性が低かった。

### (3) 農業・農村の持つやすらぎ機能や教育機能等の社会的解明

担当：農業・農村のやすらぎ機能研究チーム

平成 20 年度は、①農業体験学習の効果は児童に累年的に発現するとした仮説の検証と、複数事例に基づく効果の検証、②農作業体験等に関わる NPO 法人の社会的な意義や役割に基づく類型化の検討を行った。得られた結果は以下の通りである。

①小学生を対象とした農作業体験学習の教育効果の発現プロセスを解明するため、各学年 1 名ずつで構成される集団活動での発言頻度や内容を解析し、児童は班長になるまでに栽培と小集団の指導技術を漸進的に習得すること、このことから異学年集団学習とこれに適する農作業体験学習の組み合わせは集団リーダーの育成機能を持つことを解明した。また、効果の検証手法の確立と、農作業体験学習の機能発揮に適する取り組み方を明らかにするため、参与観察を続けている小学校での児童作文を構文解析しソシオグラムとして描くことにより、児童の興味や関心の構造を可視化でき、活動の効果の比較や確認および児童の興味や関心を拓げる体験活動の特定が可能になることを示した。②農作業体験が持つ機能の発揮に向け、体験を促進する取組における NPO 法人の活用場面を、自産自消（近くの田や畑で自分で作った農作物を自分の家庭で消費すること）に取り組むコミュニティの形成、地域の再生に取り組む社会的企業の創出、農業の後継者の育成を行う共同事業

の設立、と試行的に類型化した。

次年度は、①農業体験学習の教育的効果を解明するため、平成 17～19 年度に大阪市の小学校において実施した参与観察で収集した児童の作文データのテキストマイニングに基づき、農業体験学習の累年的活動による教育的効果と効果の発現プロセスを明らかにする。②農作業体験が持つ諸機能の発揮を促進するため、援農システムの運営面での特徴点や課題を整理し、農作業体験の組織化に向けた NPO 法人の活用方策を提示する。

# Ⅲ 平成20年度 研究予算課題一覧

## ●農業の競争力強化と健全な発展に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 農業の生産性向上と持続的発展のための研究開発		
1) 地域の条件を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 地域の条件を活かした水田・畑輪作を主体とする農業経営の発展方式の解明		
近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定		
1 農業施策の変化に対応した農家就業選択行動の予測モデルの開発	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
2 新規創設経営の育成支援策の策定	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般)
3 広域的連携による地域資源管理主体の確保方策の解明	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般)
4 条件不利地域における農村型ビジネスモデルの策定	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
5 都市農村ネットワークを活用した交流産業の経済的効果の解明	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般)
6 地域流通販売条件の活用による中小規模産地育成方策の解明	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金 (一般)
(2) 省力・機械化適性、加工適性、病害虫抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発		
1 豆腐加工適性に優れ重要病虫害抵抗性を強化した機械化適性品種の育成	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
2 地域ニーズに対応した特殊用途品種の育成	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
3 豆腐加工適性に影響を及ぼす大豆種子成分の解明とそれに基づく制御技術の開発	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
4 褐斑形成・種子伝染に着目したダイズモザイクウイルス抵抗性の遺伝様式の解明と DNA マーカーの開発	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
(3) 田畑輪換の継続に伴う大豆生産力の低下要因の解明と対策技術の開発		
1 稲麦大豆二毛作地帯の田畑輪換の継続による大豆生産力の低下要因の解明と対策技術の開発	特命チーム員(田畑輪換研究チーム)	運営費交付金 (一般)

平成20年度研究予算課題一覧

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
(4) 病虫害抵抗性、省力・機械化適性、良食味等を有する野菜品種の育成		
レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発		
1 種内交配によるレタスビッグベイン病抵抗性品種の早期育成	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
2 機能性成分高含有レタス等の品種育成	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
3 <i>Olpidium brassicae</i> 菌によるレタスビッグベインウイルス並びにミラフィオリレタスウイルスの媒介機構解明	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
4 レタスビッグベイン病を媒介する <i>Olpidium brassicae</i> 菌検出法の開発及び発病予測モデルの構築	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
5 菌媒介阻害によるレタスビッグベイン病の制御技術の開発	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
6 弱毒ウイルス利用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発	レタスビッグベイン研究チーム	農林水産省委託費 (競争的資金)
(5) 地域条件を活かした高生産性水田・畑輪作のキーテクノロジーの開発と現地実証に基づく輪作体系の確立		
近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発		
1 中山間中小規模水田地帯における水田輪作営農モデルの策定	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
2 中山間地域の気象・不整形区画圃場に対応した大豆・麦用高精度播種技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
3 鉄コーティング種子を用いた水稲湛水直播栽培と不耕起播種機を用いた麦・大豆栽培による低コスト水田輪作システムの構築	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 兵庫県立農林水産技術総合センター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
4 鉄コーティング種子を活用した超省力直播技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 北海道立中央農業試験場 * 広島県立総合技術研究所農業技術センター * 広島大学 * 金子農機(株)	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)
5 鉄コーティング処理によるイネ細菌病の発病抑制機構の解明とその活用技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 広島県立総合技術研究所農業技術センター	運営費交付金 (一般) 民間受託費
6 ダイズ葉腐病等水田輪作に伴う病害の制御技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
7 土壌水分条件が青立ちに及ぼす影響の解明とその対策技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)
8 カメムシの加害による青立ち等大豆被害の要因解明と対策技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 山口県農林総合技術センター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
9 シコクビエ安定多収系統の選定と湛水栽培方法の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
<b>2) 自給飼料を基盤とした家畜生産システムの開発</b>		
(1) 直播適性に優れた高生産性飼料用稲品種の育成		
1 温暖地西部向け稲発酵粗飼料用品種の育成と消化性の改善された育種素材の開発	低コスト稲育種研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
(2) 地域条件を活かした飼料用稲低コスト生産技術及び乳牛・肉用牛への給与技術の確立		
近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発		
1 直播技術を組み合わせた飼料用稲の飛躍的低コスト生産技術の確立	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
2 工業的生産を可能にする高発芽率・低コスト鉄コーティング法の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
3 自給飼料の増産と専用収穫機械の利用率向上による低コスト麦類収穫・調製技術の確立	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
4 高泌乳牛への飼料用稲の多給技術と地域資源を活用した乳用種去勢牛肥育技術の確立と乳・肉の評価	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 鳥取県畜産試験場 * 広島県立総合技術研究所畜産技術センター	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
5 耕畜連携による自給飼料生産・利用の資源循環システムの策定と定着方策の解明	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 大阪経済大学	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)

平成20年度研究予算課題一覧

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
<p>(3) 地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発</p> <p>中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術</p> <p>1 近畿中国四国地方に多い中山間地域の小規模分散型土地条件下(耕・草・林地等多様な土地の複合的な放牧利用)における黒毛和種経産牛の肥育技術の開発</p> <p>2 食品工業副産物等の地域飼料資源による、放牧肥育経産牛への栄養補給技術の開発</p> <p>3 放牧等の粗飼料多給により生産された牛肉の栄養・機能性成分の解明による差別化</p> <p>4 放牧肥育雌牛の採卵牛としての有効利用技術の開発と省力的な素牛生産技術の開発</p>	<p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム * 畜産草地研究所 * 広島県立総合技術研究所畜産技術センター * 山口県農林総合技術センター畜産技術部</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム 企画管理部</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般)</p>
<p>(4) 家畜生産性向上のための育種技術及び家畜増殖技術の開発</p> <p>1 ウシの初期妊娠に関与する遺伝子群の解析と妊娠診断技術の開発</p>	<p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム(兼任(家畜育種増殖研究チーム))</p>	<p>運営費交付金(一般)</p>
<p>3) 高収益型園芸生産システムの開発</p>		
<p>(1) 中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発</p> <p>1 風力や太陽光エネルギーの効率的利用のための賦存量評価に基づくハイブリッド小風力発電エネルギー等の安定的利用技術の開発</p> <p>2 生産施設の適正配置のための棚田の立地特性等に基づく自然災害リスク評価と対策技術の開発</p> <p>3 斜面風、湧水及び天水などの活用によるハウス内の暑熱緩和技術の開発</p> <p>4 冷水育苗技術を活用した栽培技術の開発</p> <p>5 高低差を利用した給液装置のフィードフォワード制御による安定多収を目指した養液栽培技術の開発</p> <p>6 省エネルギーに対応した間欠式自動給水装置による低コスト・高収益を目指した灌水同時施肥法の開発</p>	<p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * 島根大学</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * 広島県立総合技術研究所農業技術センター</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)</p> <p>運営費交付金(一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費(競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般)</p>

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
7 生産施設導入のための作業性を考慮した棚田の再整備技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度)
8 中山間・傾斜地の自然エネルギーを利用した小規模施設生産システムの構築	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度)
9 光・風資源等を利用した施設園芸における省力・快適作業システムの開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * 愛媛県農業試験場	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費 (一般)
10 トマトの養液栽培のための計測・分析不要な肥料節減養水分管理技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ))
(2) 次世代型マルドリ方式を基軸とするかんきつ等の省力・高品質安定生産技術の確立		
1 安定した高品質果実生産と秀品率向上のための樹体養水分精密自動管理システム(次世代型マルドリ方式)の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 山口大学 * 静岡県柑橘試験場 * 和歌山県果樹試験場 * 香川県農業試験場 * 愛媛県果樹試験場	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ)
2 点滴かん水施肥施設を利用した新防除法等による樹体の省力管理技術ならびに窒素量制御による土壌の環境保全型管理技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
3 樹体養水分適正管理に基づく樹体の生育促進により未収益期間を短縮し、移植作業が不要な早期成園化技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 福岡県農業総合試験場	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
4 傾斜地果樹園において営農規模拡大を図るための園地改造や自動化等による省力・軽労、安全化技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 和歌山県果樹試験場	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
5 次世代マルドリ導入及び園地保全のための傾斜地樹園地の用排水対策技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
6 産地ブランド確立のための産地構造改善計画手法の策定	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 和歌山県農業試験場 * 愛媛県農業試験場 * 広島県立総合技術研究所農業技術センター * 香川県農業試験場	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ)
(3) カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発		
1 省力管理型草種のマルチ等の抑草資材を利用した畦畔法面への植栽・管理技術の開発	カバークロップ研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) その他 (科学技術振興機構)

平成20年度研究予算課題一覧

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
2 草種の生態的特性を活用した畦畔法面植生の省力管理技術の開発	カバークロップ研究 近中四サブチーム 環境保全型野菜研究 チーム 中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム * 和歌山県農業試験場 * 鳥取県農業試験場 * 愛媛県農業試験場 * 愛媛大学 *(株)ゾイシアンジャパ ン *(株)ニッカリ *(株)クミアイ化学工業 *(財)日本植物調節剤研 究協会	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費 (競争的資金)
(4) 誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発		
1 植物に含まれる天然抗菌物質を利用した茎葉病害防除技術の開発	特命チーム員(生物 的病害制御研究チー ム)	運営費交付金 (一般) その他 (科学技術振興機構)
2 バイオフィューミゲーション(生物的くん蒸)による土壌病害防除 技術の開発	特命チーム員(生物 的病害制御研究チー ム)	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
(5) 土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発		
1 雌化バクテリア等を活用した土着天敵増強技術の開発	特命チーム員(総合 的害虫管理研究チー ム) * 広島県立総合技術研 究所農業技術センター	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費 (一般) (競争的資金) 民間受託費 その他 (科研費)
2 飛翔能力を欠くナミテントウ系統を活用したアブラムシ類の生物 的防除法の開発	特命チーム員(総合 的害虫管理研究チー ム)	運営費交付金 (一般)
(6) 土壌生物相の解明と脱窒などの生物機能の評価手法の開発		
1 脱窒菌多様性の評価法確立と水田転換畑作物生産に及ぼす影響の 解析	特命チーム員(土壌 生物機能研究チーム)	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
<p>(7) 野菜栽培における土壌微生物、天敵の機能解明と難防除病害虫抑制技術の開発</p> <p>1 コナジラミ類媒介ベゴモウイルスの多試料検定、早期判定可能な診断技術の開発</p>	<p>レタスビッグベイン研究チーム(兼任(野菜 IPM 研究チーム))</p>	<p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)</p>
<p>(8) 有機性資源の農地還元促進と窒素溶脱低減を中心とした農業生産活動規範の推進のための土壌管理技術の開発</p> <p>閉鎖系水域の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発</p> <p>1 閉鎖系水域における農業系、生活系、工業系に由来する環境負荷流出実態の解明と時系列モデルの開発</p> <p>2 農耕地における面源負荷の推定と負荷削減技術導入シナリオに基づく効率的な水質改善方策の策定</p> <p>3 地形連鎖による自然浄化作用を組み込んだ畜産由来窒素流出モデルの開発と負荷低減策の提言</p> <p>4 有機質資材等を活用した窒素流出低減技術の開発</p>	<p>広域農業水系保全研究チーム</p> <p>広域農業水系保全研究チーム</p> <p>広域農業水系保全研究チーム</p> <p>広域農業水系保全研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p>
<p>(9) 草地飼料作における減肥・減農薬の環境対策技術の検証と新たな要素技術の開発</p> <p>1 窒素吸収量の多い植物の探索と窒素吸収機能の評価</p>	<p>広域農業水系保全研究チーム(兼任(飼料作環境研究チーム))</p>	<p>運営費交付金(一般)</p>
<p>(10) 中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発</p> <p>1 土着天敵を用いたバンカー法等による害虫防除技術の開発</p> <p>2 輪作の導入による天敵維持、作型多様化を利用した生産安定化技術の開発</p> <p>3 高精度施用機構によるペレット有機物の局所施用技術の開発</p> <p>4 環境ストレス制御を利用した野菜の省力的栽培技術の開発</p>	<p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費(競争的資金)</p>

平成20年度研究予算課題一覧

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
5 気象条件と環境調節を活用した山菜等の低温要求性作物の軽労早出し技術の開発	環境保全型野菜研究チーム *徳島県立農林水産総合技術支援センター	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費(競争的資金)
6 高軒高傾斜ハウスの構造や簡易な誘引器具等を活用した果菜類生産の省力管理技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般)
7 機能性資材を利用した光環境制御による生長制御、害虫防除技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)
8 土壌微生物相多様化等を活用した土壌病害軽減技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)
9 野菜の内部品質制御要因の抽出	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
10 開花斉一化技術と小型収穫機開発によるキク等切り花の一斉収穫体系の確立	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
11 環境調和型生産技術の農家への導入条件の解明と導入効果の評価	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
<b>4) 環境変動に対応した農業生産技術の開発</b>		
<b>(1) 気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発</b>		
暖地・温暖地における気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発		
1 気候変動予測に対応した地域気象資源賦存量の把握技術の開発	暖地温暖化研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) その他(科研費)
2 作物生理生態応答に基づく温暖化条件下の収量・品質予測手法の開発	暖地温暖化研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般)
<b>(2) 高品質安定生産のための農業気象災害警戒システムの開発</b>		
1 気象ロボットを用いた小麦赤かび病の早期警戒システムの開発	特命チーム員(農業気象災害研究チーム)	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金) その他(科研費)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 次世代の農業を先導する革新的技術の研究開発		
5) 先端的知見を活用した農業生物の開発及びその利用技術の開発		
(1) イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発		
1 高温下での水稻の炭素・窒素動態と登熟障害米発生メカニズムの解明	特命チーム員（稲収量性研究チーム）	運営費交付金（一般） （所内支援制度） 農林水産省委託費（一般）
2 イネ登熟過程における老化に関する生理機構及び遺伝子領域の解明	特命チーム員（稲収量性研究チーム）	運営費交付金（一般） 民間受託
(2) イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発		
1 可消化タンパク質低減米等特別用途向き水稻育種素材の開発と品種育成	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）
2 タンパク質変異米の特性及び品質形成機構の解明	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金（一般） （所内支援制度） 農林水産省委託費（一般）
3 米の用途拡大のための新規複合脂質の構造決定と大量抽出法の確立	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金（一般） （所内支援制度）
4 ビタミン類を多く含む稲系統の探索とその遺伝子機能の解明	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金（一般）
(3) 稲病害虫抵抗性同質遺伝子系統群の選抜と有用 QTL 遺伝子集積のための選抜マーカーの開発		
1 DNA マーカーを利用した陸稲由来のいもち病抵抗性と縞葉枯病抵抗性の同質遺伝子系統・集積系統の育成	低コスト稲育種研究近中四サブチーム(兼任(稲マーカー育種研究チーム))	運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）
6) IT活用による高度生産管理システムの開発		
(1) フィールドサーバの高機能化と農作物栽培管理支援技術の開発		
1 車載センサ・圃場設置センサによるハイブリッド栽培管理情報収集技術の開発	生産支援システム研究近中四サブチーム(兼任(フィールドモニタリング研究チーム))	運営費交付金（一般） （機構交付金プロ）
2 現場情報収集及び技術情報活用のためのモバイル情報処理ソフトウェアの開発	生産支援システム研究近中四サブチーム(兼任(フィールドモニタリング研究チーム))	運営費交付金（一般）

平成20年度研究予算課題一覧

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
<p>(2) 生産・流通 IT 化のための農業技術体系データベース及び意思決定支援システムの開発</p> <p>1 Web サービス連携による適正営農設計支援システムの開発</p> <p>2 中山間地における農地管理支援システムの開発</p>	<p>生産支援システム研究近中四サブチーム</p> <p>生産支援システム研究近中四サブチーム</p>	<p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般)</p> <p>運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)</p>
<p>7) 自動化技術等を応用した軽労・省力・安全生産システムの開発</p> <p>(1) 農作業の高精度化・自動化等による高度生産システムの開発及び労働の質改善のための評価指標の策定</p> <p>1 傾斜地における収穫物自動搬送システムの開発</p> <p>2 小区画・傾斜地等における作業者の特性に適した農作業の提示、軽労化・安全性向上技術の開発</p>	<p>次世代カンキツ生産技術研究チーム(兼任(高度作業システム研究チーム))</p> <p>特命チーム員(高度作業システム研究チーム)</p>	<p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般)</p>
<p>8) 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けたバイオマスの低コスト・高効率エネルギー変換技術の開発</p> <p>(1) バイオエタノール原料としての資源作物の多収品種の育成と低コスト・多収栽培技術の開発</p> <p>1 サトウキビの省力・低コスト栽培技術の開発</p>	<p>広域農業水系保全研究チーム</p>	<p>農林水産省委託費(一般)</p>

●食の安全・消費者の信頼確保と健全な食生活の実現に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ニーズに対応した高品質な農産物・食品の研究開発		
9) 高品質な農産物・食品と品質評価技術の開発		
(1) 直播適性に優れ、実需者ニーズに対応した低コスト業務用水稲品種の育成		
1 耐倒伏性、病害複合抵抗性を付与した温暖地西部での低コスト栽培向き水稲品種の育成	低コスト稲育種研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(2) めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発		
1 小麦粉粒度の制御因子の解明と低タンパク質含量小麦の製粉性の向上	めん用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ) (所内支援制度)
2 硬質化により製粉性(篩抜け性)を向上させた、やや低アミロースの温暖地西部向けめん用早熟小麦品種の育成	めん用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(3) 実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種の育成と加工・利用技術の開発		
1 製パンに適した高分子量及び低分子量グルテニンサブユニットを持つ温暖地西部向け早熟小麦系統の開発	パン用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) その他 (科研費)
2 製パン・製麺性に係わる DNA マーカーの開発による高品質小麦品種選抜法の改善	パン用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費 (競争的資金)
3 モチ性を含む低アミロース性パンコムギの特性とその形成機構の解明	パン用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般) その他 (科研費)
(4) 大麦・はだか麦の需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発		
1 早熟・安定多収で精麦白度に優れたはだか麦品種の育成	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)
2 焼酎・味噌醸造用等の用途別はだか麦系統の開発	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
3 大麦・はだか麦等に含まれる健康機能性成分の特性解明	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
<p>(5) 乳肉の美味しさ等の品質に影響を与える因子の解明と新たな評価法の開発</p> <p>牛の肉質形成過程のプロテオーム解析</p> <p>1 黒毛和種の骨格筋形成関連物質の網羅的解析</p>	<p>特命チーム員（食肉プロテオーム研究チーム）</p>	<p>運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）</p>
<p><b>10) 農産物・食品の機能性の解明と利用技術の開発</b></p>		
<p>(1) 野菜・茶の免疫調節作用、生活習慣病予防作用を持つ機能性成分の評価法と利用技術の開発</p> <p>1 脂肪細胞に着目した野菜の生活習慣病予防成分の解明</p>	<p>特命チーム員（野菜・茶機能性研究チーム）</p>	<p>運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）</p>
<p>(2) かんきつ・りんご等果実の機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発</p> <p>1 核内受容体を標的とするかんきつ等果実成分の肥満等生活習慣病予防作用の解明</p>	<p>特命チーム員（健康機能性研究チーム）</p>	<p>運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）</p>
<p><b>○ 農産物・食品の安全確保のための研究開発</b></p>		
<p><b>11) 農産物・食品の信頼確保に資する技術の開発</b></p>		
<p>(1) 農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発</p> <p>1 小麦品種及び加工品の DNA マーカーによる判別技術の開発</p> <p>2 DNA マーカーを用いた大麦・裸麦の品種及び加工用原料の判別技術の開発</p> <p>3 レトロトランスポゾンを用いた加工製品における原料品種識別技術の開発</p>	<p>品種識別・産地判別研究チーム * 香川県農業試験場 * 北海道立中央農業試験場 * 大阪府立食とみどりの総合技術センター</p> <p>品種識別・産地判別研究チーム * 愛媛県農業試験場</p> <p>品種識別・産地判別研究チーム</p>	<p>運営費交付金（一般） （所内支援制度） 農林水産省委託費（一般）</p> <p>運営費交付金（一般） （所内支援制度） 農林水産省委託費（一般）</p> <p>運営費交付金（一般）</p>

●美しい国土・豊かな環境と潤いのある国民生活の実現に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 農村における地域資源の活用のための研究開発		
1 2) バイオマスの地域循環システムの構築		
(1) 温暖地における油糧作物を導入したバイオマス資源地域循環システムの構築		
近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発		
1 麦作跡ヒマワリ作における土壌・雑草管理技術開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金(一般)
2 搾油残さの飼料利用技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金(一般)
3 中山間地域のヒマワリ・麦作付け体系における窒素・炭酸ガス循環システムの評価	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム * 島根県農業試験場	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
○ 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発		
1 3) 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発		
(1) 草地生態系の持つ多面的機能の解明		
1 西日本地域における半自然草地の生物多様性評価と管理	特命チーム員(草地多面的機能研究チーム)	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
(2) 野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発		
1 自立的対策実施農家育成のための営農管理技術の開発	鳥獣害研究チーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)
2 I T 技術を活用した野生動物の行動様式と農作物被害発生要因の解明	鳥獣害研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
3 物理障壁を用いた野生獣による農業被害防護技術の開発	鳥獣害研究チーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)
(3) 農業・農村の持つやすらぎ機能や教育機能等の社会的解明		
1 都市農村交流および食と農に関する諸活動がもたらす農業・農村の多面的効果の解明	農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) その他(科研費)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
2 農業体験学習による農産物理解・健全な食生活の促進方策の解明	農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	運営費交付金 (一般) その他 (科研費)
3 農業経営及び農村における非営利的活動が果たす農村安定化、活性化論理の解明	農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	運営費交付金 (一般)
4 農作業体験等がもつ諸機能の活用に関わる NPO 法人等の役割と連携方策の解明	農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度)

## ●研究活動を支える基盤的研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 遺伝資源の収集・保存・活用		
1 4) 遺伝資源の収集・保存・活用		
(1) 遺伝資源の収集・保存・活用		
作物遺伝資源の特性評価及び育種素材化		
1 稲遺伝資源の特性評価及び育種素材化	低コスト稲育種研究近中四サブチーム 米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
2 麦類遺伝資源の特性評価及び育種素材化	めん用小麦研究近中四サブチーム 大麦・はだか麦研究チーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
3 豆類遺伝資源の特性評価及び育種素材化	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
4 資源作物遺伝資源の特性評価及び育種素材化	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム 研究支援センター 業務第1科	運営費交付金 (ジーンバンク)
野菜遺伝資源の特性評価及び育種素材化		
1 レタス遺伝資源の特性評価及び育種素材化	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (ジーンバンク)

## IV 研究情報活動

### 1. 主な研究成果

研究成果情報名	提出研究チーム等
<p><b>【技術・普及】</b></p> <p>乾田条播直播栽培による飼料用稲の生産技術体系</p> <p>小麦加工食品の使用品種表示の確認に利用できる SSR マーカー</p> <p>大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボシ」</p> <p>水田転換畑に対応したヒマワリの高精度播種技術</p> <p>高品質なウンシュウミカンを連年安定生産するための土壌と樹体の一体管理技術体系</p> <p>放牧を活用した黒毛和種経産牛肉の高付加価値化技術</p>	<p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>品種識別・産地判別研究チーム</p> <p>大麦・はだか麦研究チーム</p> <p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>次世代カンキツ生産技術研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p>
<p><b>【技術・参考】</b></p> <p>製粉性と製めん適正の優れる日本めん用硬質小麦新品種「ふくはるか」</p> <p>シルバーポリマルチがタマネギ「ソニック」のケルセチン含量と生育に及ぼす影響</p> <p>畝立て・施肥・マルチの同時作業を対象とした速度連動施肥制御システム</p> <p>新規参入者に対するグループ活動における相互支援の特徴と効果</p>	<p>めん用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>地域営農・流通システム研究チーム</p>
<p><b>【研究・普及】</b></p> <p>傾斜地と平地のトマト個体群の受光特性の違い</p>	<p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p>
<p><b>【研究・参考】</b></p> <p>乳白様変異米を乾式粉碎すると損傷デンプンが少なく粒径の細かい米粉になる</p> <p>大豆品種「サチユタカ」子実のしわや裂皮は豆腐の加工適性に影響しない</p> <p>サクラネチンは脂肪細胞分化および脂肪細胞へのグルコース取り込みを促進する</p> <p>脂肪細胞分化を促進し核内受容体を活性化するシコクビエ</p> <p>製粉歩留の高い「きたほなみ」は外表皮と胚乳細胞壁が薄い</p> <p>硬質小麦のピュロインドリン遺伝子型は子実硬度や加工適性に影響する</p> <p>コムギへのオオムギ属 5H 染色体の導入は子実硬度を低下させる</p> <p>マルカメムシが栄養生長期のダイズ生育に与える影響</p> <p>細菌群集構造解析のための植物根からの迅速かつ簡便な DNA 抽出法</p> <p>領域気候モデルを用いた 1 km メッシュ温暖化予測データの作成方法</p>	<p>米品質研究近中四サブチーム</p> <p>大豆育種研究近中四サブチーム</p> <p>特産作物機能性グループ 特命チーム員 (健康機能性研究チーム)</p> <p>特産作物機能性グループ</p> <p>パン用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>パン用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>パン用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>暖地温暖化研究近中四サブチーム</p>

研究成果情報名	提出研究チーム等
<p>乾田化した耕作放棄田の土壌炭素変動</p> <p>イチゴに対する緑色蛍光灯終夜照明の影響の品種間差異</p> <p>草量推定に必要なサンプル数</p> <p>液化仕込み清酒粕は粗飼料の乾物分解率を上昇させる</p> <p>ヤギは牛の好まない草地雑草スイバを好食する</p> <p><b>【行政・参考】</b></p> <p>GISと表計算ソフトを組み合わせた窒素流達負荷量のモデル評価法</p> <p>モチ性裸麦「ダイシモチ」に対する実需者の評価</p> <p>チョウの食草オミナエシを保全するススキ型草地の管理技術</p> <p>レッドデータブック掲載植物種数からみた山陰地方の草原環境の特徴</p> <p>シバ型半自然草地における植物種の豊富さ簡易調査法</p>	<p>暖地温暖化研究近中四サブチーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>広域農業水系保全研究チーム</p> <p>地域営農・流通システム研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p> <p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p>

**【分類】**

技術・普及：普及に移しうる成果

- ・ 農業者が営農に直接利用できる成果
- ・ 企業が製品化して農業生産現場に普及できる成果
- ・ 検査機関等で活用される成果

技術・参考：その他参考となる成果

- ・ 普及技術の核となる成果

研究・普及：普及に移しうる成果

- ・ 研究現場で広く利用される成果
- ・ 社会に直接貢献する科学的な成果

研究・参考：その他参考となる成果

- ・ 研究を進めるための基礎的な成果
- ・ 新しい基礎的知見を与える成果
- ・ 新たな研究素材開発の成果

行政・普及：普及に移しうる成果

- ・ 行政の施策・事業を通して農業、農村及び消費者に貢献する成果

行政・参考：その他参考となる成果

- ・ 行政施策の参考となる成果

## 2. 研究成果の発表

### 1) 原著論文

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	農地維持型集落営農におけるリーダーの経営理念と組織の運営	河野 章(愛媛県)、 山本和博(愛媛県)、 網藤芳男	2008.06	農業経営研究	46(1),25-30
2	酵母等醸造副産物の反すう家畜の飼料化に関する研究	安藤 貞、家藤治幸(酒類総研)	2008.12	農業農村工学会資源循環研究部会論文集	4,149-158
3	Development of transgenic rice ( <i>Oryza sativa</i> L.) expressing wheat high-molecular-weight and low-molecular-weight glutenin subunit proteins	Etsuko Araki, Tatsuya M. Ikeda, Yasunari Ohgihara (横浜市立大)、 Atsushi Toyoda (理研)、 Hiroshi Yano	2008.06	Breeding Science	58,121-128
4	傾斜畑用土揚げ機	大黒正道	2008.07	農業機械学会誌	70(4),16-17
5	Stress of beef steers transported at a commercial space allowance	Toshie Ishiwata (麻布大)、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.06	Animal Behaviour and Management	44,171-175
6	Compliance rate of livestock vehicles with welfare standards, and behavior of feeder cattle at loading ramp	Katsuji Uetake (麻布大)、 Toshie Ishiwata (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.06	Animal Science Journal	79,401-406
7	第15章 農作物被害対策－イノシシの被害管理	江口祐輔	2008.06	日本の哺乳類学2 中大型哺乳類・霊長類(東京大学出版会)	*,401-426
8	Pecking behaviour of laying hens in single-tiered aviaries with and without outdoor area.	Tsuyoshi Shimmura (麻布大)、 Tomokazu Suzuki (麻布大)、 Satoshi Hirahara (神奈川畜技)、 Yusuke Eguchi、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.07	British Poultry Science	49,396-401
9	Seasonal and sex differences in area preference and behavior of young cattle just after long distance transport	Toshie Ishiwata (麻布大)、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.08	Animal Science Journal	79,504-509
10	Steer stress levels during long distance transport throughout the year in Japan	Toshie Ishiwata (麻布大)、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.08	Animal Science Journal	79,510-517
11	Function of Tongue-Playing of Cattle in Association With Other Behavioral and Physiological Characteristics	Toshie Ishiwata (麻布大)、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)、	2008.09	Journal of Applied Animal Welfare Science	11,358-367
12	Physical conditions in a cattle vehicle during spring and autumn conditions in Japan, and reactions of steers to long distance transport	Toshie Ishiwata (麻布大)、 Katsuji Uetake (麻布大)、 Yusuke Eguchi、 Toshio Tanaka (麻布大)	2008.10	Animal Science Journal	79,620-627
13	運動場への開放とγ-アミノ酪酸(GABA)投与による離乳子豚の飼育管理由来ストレス軽減効果－社会性評価指標の検討－	中村幸造(麻布大)、 植竹勝治(麻布大)、 吉田善廣((株)ファーマフーズ)、 江口祐輔、田中智夫(麻布大)	2009.03	Animal Behaviour and Management	45,9-18
14	LAWEPSによる台風時のパイプハウス地点の風速推定	福本昌人、柴田昇平、吉村垂希子	2008.04	システム農学	24,85-92
15	マイクロ波の後方散乱係数と積雪水量との関係	福本昌人	2008.08	農業農村工学会論文集	256,17-24
16	紫外線を可視光に変える光質変換被覆資材が葉根菜類の成育に及ぼす影響	濱本 浩、植野耕造(東罐興産)、 山崎敬亮	2008.06	農業気象	64(2),81-86
17	Improvement of human thermal comfort in greenhouses with insect-proof screens	Teruaki Shimazu (岐阜大)、 Hiroshi Hamamoto、 Toshihisa Okada、 Takashi Ikeda (明治大)、 Kazuo Tanaka	2008.09	Acta Horticulturae	797,193-198
18	Light interception by tomato plants ( <i>Solanum lycopersicum</i> ) grown on a sloped field.	Tadahisa Higashide	2009.02	Agricultural and Forest Meteorology	149,756-762

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
19	土壌バイオマス窒素測定におけるペルオキシ二硫酸カリウム分解-紫外吸光度法およびニンヒドリン発色法の評価	小森冨香、堀 兼明、宮丸直子(沖縄農研)、須賀有子、福永亜矢子、池田順一	2009.02	日本土壌肥料学会誌	80(1),37-40
20	職務作成プログラム「MPN(最確値)法による土壌微生物密度推定のためのVisual BASIC プログラム」の利用マニュアル	堀 兼明、須賀有子、小森冨香、福永亜矢子、池田順一	2009.03	近畿中国四国農業研究センター研究資料	6,31-45
21	レーザー光の減衰現象を利用した局所的な換気の評価 -果樹用ガラス実験温室を対象として-	星 典宏、平岡潔志、島崎昌彦、森永邦久、畔柳武司	2008.09	農業施設	39(2),105-112
22	四国の棚田における施設栽培のための水供給施設の実態	細川雅敏、内田晴夫、福本昌人、吉村亜希子	2008.08	近畿中国四国農業研究	14,3-8
23	日本水稲育種目標	飯田修一	2008.05	北方水稲	38(3),179-180
24	Identification and variation of glutelin $\alpha$ polypeptides in the genus <i>Oryza</i> assessed by two-dimensional electrophoresis and step-by-step immunodetection	Nadar Khan (京都大)、Tomoyuki Katsube-Tanaka (京都大)、Shuichi Iida、Takeshi Yamaguchi (鳥取大)、Junichi Nakano (鳥取大)、Hisashi Tsujimoto (京都大)	2008.11	Journal of Agricultural and Food Chemistry	56,4955-4961
25	温暖地向き低グルテリン酒米品種「みずほのか」の育成	飯田修一、春原嘉弘、出田 収、松下 景、前田英郎、根本 博、石井卓朗、吉田泰二、中川宣興(元近農研)、坂井 真、古川幸子(黄桜(株))、水間智哉(黄桜(株))、清川良文(黄桜(株))、若井芳則(黄桜(株))	2009.02	近畿中国四国農業研究センター研究報告	8,45-62
26	これならできる獣害対策	井上雅央	2008.12	農文協	25,181
27	First report of Melon yellow spot virus infecting balsam pear ( <i>Momordica charantia</i> L.) in Japan	Shigeharu Takeuchi (高知農技セ)、Yoshifumi Shimomoto (高知農技セ)、Koichi Ishikawa	2009.02	Journal of General Plant Pathology	DOI 10.1007/s10327-0143-7
28	A Novel Pair of HMW Glutenin Subunits from <i>Aegilops searsii</i> Improves Quality of Hexaploid Wheat	Monika Garg (鳥取大)、Hiroyuki Tanaka (鳥取大)、Naoyuki Ishikawa、Kanenori Takata、Mikiko Yanaka、Hisashi Tsujimoto (鳥取大)	2009.01	Cereal Chemistry	86(1),26-32
29	養液栽培における排水再利用法の検討	笠原賢明、吉川弘恭、東出忠桐、伊吹俊彦	2009.02	近畿中国四国農業研究センター研究報告	8,91-101
30	地域農業の組織化における飼料イネ導入の効果	加藤克明	2008.06	農林業問題研究	44(1),92-98
31	ダイズ・バレイショ等の最新技術	河合 章	2009.02	生物機能を活用した病害虫・雑草管理と肥料削減：最新技術集(中央農業総合研究センター)	3
32	平成19年度問題別研究会及び試験研究推進会議の概要	菊地淳志	2008.09	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	50,72-74
33	溶媒への溶解度の差を用いた沈殿によるコムギ子実タンパク質分画法	木村秀也、山内 稔	2008.04	日本土壌肥料学雑誌	79(2),199-202
34	ナギナタガヤ草生ミカン園における秋肥窒素の吸収特性	石川 啓(愛媛果試)、木村秀也	2008.06	農作業研究	43(2),53-58
35	ナギナタガヤ草生ミカン園における枯死ナギナタガヤ由来窒素の吸収特性	石川 啓(愛媛果試)、木村秀也	2008.12	農作業研究	43(4),179-186
36	Effects of Root-Zone Heating in Early Morning on Celery Growth and Electricity Cost	Takafumi Kinoshita、Tadahisa Higashide、Masatake Fujino、Toshihiko Ibuki、Yoshiaki Kasahara	2008.11	Acta Horticulturae	801, 1029-1033
37	Changes in nutritive value of Italian ryegrass ( <i>Lolium multiflorum</i> Lam.) during overwintering period.	Hidekazu Kobayashi、Yoshitaka Takahashi、Kazunori Matsumoto、Yasuhiko Nishiguchi、	2008.04	Plant Production Science	11(2),228-231
38	Salt secretion in Rhodes grass ( <i>Chloris gayana</i> Kunth) under conditions of excess magnesium.	Hidekazu Kobayashi、Yoshikuni Masaoka(広島大)	2008.06	Soil Science & Plant Nutrition	54(3),393-399
39	Control of weeds, plant diseases, and pest insects with fertilizers.	Hidekazu Kobayashi	2008.12	Research Advances in Soil Science & Plant Nutrition	1,1-7

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
40	Ion secretion via salt glands in Poaceae.	Hidekazu Kobayashi	2008.12	Japanese Journal of Plant Science	2(1,2),1-8
41	ポーラスカップを利用した蒸発計の開発	黒瀬義孝	2008.12	中国・四国の農業気象	21,2-7
42	Simulation of Microclimate in a Sloping Greenhouse using CFD	Takeshi Kuroyanagi, Yuji Nagasaki, Yoichi Nakamoto, Hiroaki Tanaka, Toshihiko Ibuki	2008.12	Acta Horticulturae	801,909-916
43	Presence of neuropeptideY in somatotrophs of cattle	Hideki Ogasawara (東北大)、 Hisashi Aso (東北大)、 Yasuhiro nagai (東北大)、 Kazunori Matsumoto、 Sachi Tanaka (東北大)、 Kouichi Watanabe (東北大)、 Shyuichi Ohwada (東北大)、 Takahiro Yamaguchi (東北大)	2008.06	Domestic Animal Endocrinology	35,274-280
44	Development of a multiplex method to discriminate between Neochrysocharis formosa (Hymenoptera: Eulophidae) reproductive modes	Tetsuya Adachi-Hagimori (広島大)、 Kazuki Miura	2008.08	Journal of Economic Entomology	101, 1510-1514
45	A new cytogenetic mechanism for bacterial endosymbiont-induced parthenogenesis in Hymenoptera	Tetsuya Adachi-Hagimori (広島大)、 Kazuki Miura、 Richard Stouthamer (カリフォルニア大)	2008.12	Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	275, 2667-2673
46	Male rescue maintains low frequency parthenogenesis-inducing Wolbachia infection in Trichogramma populations	Kazuki Miura、 Takeshi Yamanaka (農環研)、 Yoshiito Suzuki、 Yohsuke Tagami (静岡大)、 Andrew Paul Davies (JSPS)	2009.03	Population Ecology	51,227-236
47	廃ガラス発泡体混合土壌の物理的特性	望月秀俊、平野亜津子 (鳥取大)、 中澤亮二 (都立産技研セ)、 留森寿士 (鳥取大)、 稲永 忍 (鳥取産技セ)	2008.07	人間と環境	34(2),104-112
48	Effects of NaCl concentration on the Thermal Conductivity of Sand and Glass Beads with Moisture Contents below Field Capacity	Hidetoshi Mochizuki、 Masaru Mizoguchi (東京大)、 Tsuyoshi Miyazaki (東京大)	2008.12	Soil Science & Plant Nutrition	54(6),829-838
49	Heat pipe phenomenon in soil under reduced air pressure	Iwao Sakaguchi (名古屋大)、 Toshihiko Momose (セントメリー大)、 Hidetoshi Mochizuki、 Tatsuaki Kasubuchi (山形大)	2009.02	European Journal of Soil Science	60,110-115
50	Recent advances and problems in malt-ing barley breeding in Japan	長嶺 敬、加藤常夫 (栃木県)	2008.10	Japan Agricultural Research Quarterly	42(4),237-244
51	大麦の種子・麦芽の機能性成分含量の品種間差異と製麦による変化	長嶺 敬、加藤常夫 (栃木農試)、 五月女敏範 (栃木農試)、 金子成延、野方洋一	2008.12	栃木県農業試験場研究報告	60,1-7
52	用語解説「平張型傾斜ハウス」	長崎裕司	2008.07	農業経営通信	236,7
53	平張型傾斜ハウス施工法を活用した片屋根型ハウスの設計および施工法	長崎裕司、畔柳武司、田中宏明、 中元陽一、伊吹俊彦	2009.02	近畿中国四国農業研究センター研究資料	6,21-29
54	中山間地における果樹作の機械化技術	中元陽一、田中宏明	2009.03	農業機械学会誌	71(2),12-16
55	Production of amino acids and g-amino acid by autolysis reactions from wheat bran.	Yoichi Nogata、 Takashi Nagamine	2009.02	Journal of Agricultural and Food Chemistry	57(4), 1331-1336
56	タンパク質変異米水稻品種の米粒内における種子貯蔵タンパク質の分布	大平陽一、竹田博之、佐々木良治	2009.01	日本作物学会紀事	78(1),58-65
57	中山間地域における小規模多品目野菜経営の実態と課題—独自認証取得農家に対するアンケートに基づいて—	尾島一史	2008.06	農林業問題研究	44(1),150-155
58	大豆有望系統「四国1号」と「サチユタカ」の播種期に対する反応の比較	岡部昭典、菊池彰夫、猿田正恭	2008.12	日本作物学会四国支部会報	45,38-39
59	Effect of total cholesterol, glucose and blood urea nitrogen on embryo quality in post-partum superovulated suckling Japanese Black cattle	Rajani Pradhan (広島大)、 Kazunaga Oshima、 Yoshinori Ochiai、 Takatoshi Kojima、 Naoyuki Yamamoto、 Mohamed Elshabrawy Ghanem (広島大)、 Nobukazu Nakagoshi (広島大)	2008.05	Reproductive Medicine and Biology	7,55-62

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
60	Concentration of macrophage colony-stimulating factor (M-CSF) in bovine peripheral blood during pregnancy	Kazunaga Oshima, Kazuhiro Yoshihara, Takatoshi Kojima, Masanori Komatsu, Naoyuki Yamamoto	2008.08	The Journal of Veterinary Medical Science	70,799-805
61	遊休農林地の立地環境に適合したシバ草地造成法	大谷一郎	2009.02	近畿中国四国農業研究センター研究報告	8,1-44
62	生産者の米マーケティング戦略と管理の特質	齋藤仁蔵	2008.04	農林統計協会	*,1-236
63	モチ性裸麦「ダイシモチ」の生産動向と実需者の意向	齋藤仁蔵、柳澤貴司	2009.03	近畿中国四国農業研究センター研究資料	6,1-19
64	Sakuranetin induces adipogenesis of 3T3-L1 cells through enhanced expression of PPARgamma2	Takeshi Saito, Daigo Abe, Keizo Sekiya	2008.08	Biochemical and Biophysical Research Communications	372(4),835-839
65	Flavanone exhibits PPARg ligand activity and enhances differentiation of 3T3-L1 adipocytes	Takeshi Saito, Daigo Abe, Keizo Sekiya	2009.01	Biochemical and Biophysical Research Communications	380(2), 281-285
66	Functional response of the lady beetle <i>Harmonia axyridis</i> (Pallas) (Coleoptera: Coccinellidae) on the aphid <i>Myzus persicae</i> (Sulzer) (Homoptera: Aphididae)	Tomokazu Seko, Kazuki Miura	2008.08	Applied Entomology and Zoology	43,314-345
67	Residence period of a flightless strain of the ladybird beetle <i>Harmonia axyridis</i> Pallas (Coleoptera: Coccinellidae) in open fields	Tomokazu Seko, Ken-ichi Yamashita(兵庫農総技セ)、Kazuki Miura	2008.10	Biological Control	47,194-198
68	Performance of a micro-wind generator located on a slope in the mountainous area of Shikoku.	Shohei Shibata	2009.03	Journal of Agricultural Meteorology	65(1),11-17
69	新規参入者のグループ活動における相互支援	島 義史	2008.06	農業経営研究	46(1),129-132
70	Characteristics of canopy evapotranspiration from a small heterogeneous grassland using thermal imaging	Seiji Shimoda, Takehisa Oikawa (筑波大)	2008.05	Environmental and Experimental Botany	63,102-112
71	Soil carbon content and stable isotope ratio in abandoned agricultural fields: land use change from paddy to upland grass in Higashi-Hiroshima, Japan	Seiji Shimoda	2008.12	農業気象	64,289-293
72	Seasonal contribution of C3 and C4 species to ecosystem respiration and photosynthesis estimated from isotopic measurements of atmospheric CO2 at a grassland in Japan	Seiji Shimoda, Shohei Murayama (産総研)、Wenhong Mo (農環研)、Takehisa Oikawa (筑波大)	2009.02	Agricultural and Forest Meteorology	149,603-613
73	Response of ecosystem CO2 exchange to biomass productivity in a high yield grassland	Seiji Shimoda, Gilzae Lee(韓国農科院)、Tomoko Yokoyama ((株)エックス都市研)、Jianjun Liu(中国西北科技大)、Makoto Saito(国立環境研)、Takehisa Oikawa(筑波大)	2009.03	Environmental and Experimental Botany	65,425-431
74	Effect of different organic amendments on the resistance and resilience of the organic matter decomposing ability of soil and the role of aggregated soil structure	Chie Fujino (東京農工大)、Satoko Wada (東京農工大)、Tomohiko Konoike (東京農工大)、Koki Toyota (東京農工大)、Yuko SUGA, Jun-ichi IKEDA	2008.08	Soil Science & Plant Nutrition	54(4),534-542
75	細菌群集構造解析のための植物根からの迅速かつ簡便な DNA 抽出法	須賀有子、堀 兼明、小森冨香、福永亜矢子、池田順一、豊田剛己 (東京農工大)	2008.10	土と微生物	62,121-125
76	日本麵用小麦の生地物性に対する Glu-A1 と Glu-D1 対立遺伝子の相互作用と Glu-A1 対立遺伝子の PCR マーカーの開発	高田兼則、谷中美貴子、池田達哉、石川直幸	2008.06	育種学研究	10(2),41-48
77	普及活動における「経営問題」指導の現状分析方法	高橋太一	2008.06	農業経営研究	46(1),47-52
78	有機農産物流通の変化と有機農業経営の流通活動	高橋太一	2008.12	有機農業研究年報	8,145-162
79	シバ型草地確立過程におけるシバ-ワラビ型草地の植生変化と刈取りの影響	高橋佳孝、井出保行、小林英和、早坂貴代史	2008.10	日本草地学会誌	54(3),230-235

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
80	種の保存と景観保全－阿蘇草原の維持・再生の取り組み－	高橋佳孝	2009.01	ランドスケープ研究	72(4),394-398
81	集落営農法人による中山間地水田輪作の実態と課題－品目横断的経営安定対策の麦・大豆二毛作への影響－	棚田光雄	2008.06	農林業問題研究	44(1),85-91
82	A model of root elongation by dynamic contact interaction	Hiroshi Nakashima (京都大)、 Yasuhito Fujita (京都大)、 Hiroaki Tanaka、 Juro Miyasaka (京都大)	2008.10	Plant Root	2,58-66
83	農産物直売活動の立地的要因と地域経済効果の解明	原田節也 (美作大)、 人見哲子 (美作大)、 友國宏一、河田員宏 (岡山県農試)	2008.10	美作大学地域生活科学研究報告	4*
84	放牧利用年数の異なる水田転換草地の埋土種子相	堤 道生、板野志郎	2008.04	日本草地学会誌	54,57-60
85	シバ型半自然草地における植物種の豊富さ簡易調査法	堤 道生、高橋佳孝、板野志郎	2009.01	日本草地学会誌	54(4),344-347
86	Village leaders and rural development in Bangladesh	Kazuo Ando (京都大)、 Haruo Uchida、 Habibur Rahman (バングラ農大)、 S.M.Altaf Hossain (バングラ農大)	2008.07	Japan Agricultural Research Quarterly	42(3),145-150
87	寒地型牧草地は冬季にイノシシの餌場になる	上田弘則、高橋佳孝、井上雅央	2008.10	日本草地学会誌	54,244-248
88	Risk factors affecting the probability of damage by sika deer in plantation forests in Yamanashi Prefecture, Japan	Takeshi Honda (山梨県)、 Hironori Ueda、 Kiyoshi Takiguchi (山梨県)	2008.11	Landscape and Ecological Engineering	4,97-102
89	アメダスに準じた50mメッシュ月平均気温平年値図の作成法とその利用	植山秀紀	2008.07	システム農学	24(別3),191-198
90	Estimating monthly mean air temperature using a radiative cooling scale	Hideki Ueyama	2008.11	Theoretical and Applied Climatology	94,175-185
91	Comparison between two methods of raising daughter plants on initial growth and photosynthetic rate in strawberry	Keisuke Yamazaki、 Hiroshi Hamamoto、 Takashi Ikeda (明治大)	2008.10	Acta Horticulturae	771,157-160
92	水稲の湛水直播に関する土壌肥科学的的研究	山内 稔	2008.10	日本土壌肥科学雑誌	79(5),437-440
93	四万十川の一流域における窒素、リン、無機イオンの濃度変動および負荷流出特性	吉田正則、村上敏文、吉川省子、 藤原伸介	2009.02	近畿中国四国農業研究センター研究報告	8,75-89
94	Effects of Plug Transplanting on Growth and Bolting of Spinach	Yuko Yoshida、 Takahiro Fujiwara (ジャパン・アグロノミスト(株))、 Hiroshi Kumakura	2008.06	Proceedings of the International Symposium on Seed Enhancement and Seedling Production Technology	*145-149
95	遮光栽培したハウレンソウにおけるアスコルビン酸含量の遮光除去後の変動	吉田祐子、濱本 浩、福永亜矢子、 藤原隆広 (ジャパン・アグロノミスト(株))、熊倉裕史	2008.07	園芸学研究	7(3),399-405
96	熱融着性ポリエステル繊維で固化した培地で育苗した花壇苗の特性とこの苗を用いた簡易な壁面緑化の検討	豊原憲子 (大阪環境農総研)、 吉川弘恭、末留 昇 (京都農総研)、 後藤丹十郎 (岡山大)、 南村佐保 (京都農総研)、 島 浩二 (和歌山農総技術セ)	2008.08	日本緑化工学会誌	34(1),103-108
97	Variable pore connectivity factor model for gas diffusivity in unsaturated, aggregated soil	Augustus C. Resurreccion (埼玉大)、 Per Moldrup (オルボー大)、 Ken Kawamoto (埼玉大)、 Seiko Yoshikawa、 Dennis E. Rolston (カリフォルニア大)、 Toshiko Komatsu (埼玉大)	2008.04	Vadose Zone J.	7,397-405
98	Linear model to predict soil-gas diffusivity from two soil-water retention points in unsaturated volcanic ash soils	Augustus C. Resurreccion (埼玉大)、 Toshiko Komatsu (埼玉大)、 Ken Kawamoto (埼玉大)、 Masanobu Oda (埼玉大)、 Seiko Yoshikawa、 Per Moldrup (オルボー大)	2008.06	Soils and Foundations	48(3),397-406
99	丸亀平野二毛作水田域における湧水中の硝酸態窒素の変動	吉川省子、山本 博、吉田正則、 石原 暁 (元四国農試)	2008.10	日本土壌肥科学雑誌	79(5),461-470
100	備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明	笹田康子 (香川県)、吉川省子、 高橋英博、鷹野 洋 (岡山県)、 高橋 暁 (産総研)、湯浅一郎 (産総研)、 小野寺真一 (広島大)	2008.12	香川県環境保健研究センター所報	7,43-47

2) 学会発表等

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	キウイフルーツ幼果抽出物が脂肪細胞分化とアディポサイトカイン発現に及ぼす影響	阿部大吾、齋藤 武、久保康隆(岡山大)、関谷敬三	2009.03	日本農芸化学会 2009 年度大会(要旨集)	*234
2	ナスのソルゴー障壁栽培における害虫および天敵相	安部順一朗、熊倉裕史	2008.05	関西病虫害研究会報 創立90周年記念号	50,201
3	Improvement in the practical use of an aphidophagous gall midge, <i>Aphidoletes aphidimyza</i> (Diptera: Cecidomyiidae), in greenhouses	Junichi Yukawa(九州大)、Junichiro Abe	2009.02	3rd International Symposium on Biological Control of Arthropods ISBCA09	*
4	グルテン添加米粉パンの比容積に影響する米粉の性状	荒木悦子、池田達哉、芦田かなえ、高田兼則、谷中美貴子、鈴木保宏(作物研)、飯田修一	2008.09	日本食品科学工学会 第55回大会講演集	*82
5	米粉クッキーの性質に与える品種や米粉特性の影響	井川佳子(広島大)、谷川美紅(広島大)、芦田かなえ	2008.08	日本調理科学会大会平成20年度大会研究発表要旨集	*83
6	胚乳白濁突然変異系統から得られる米粉の性状	芦田かなえ、荒木悦子、飯田修一、池田達哉	2008.09	日本食品科学工学会第55回大会講演集	*83
7	品種の異なる米粉を用いたフォー様麺の調製工程と性質	高嶋郁子(広島大)、芦田かなえ、猪谷富雄(県立広島大)、青木法明、井川佳子(広島大)	2008.09	Journal of Applied Glycoscience	55(suppl),32
8	Effects of separation of resources on behaviour, physical condition and production of laying hens in furnished cages.	Toshio Tanaka (麻布大)、Tsuyoshi Shimmura (麻布大)、Toshihide Azuma (麻布大)、Yusuke Eguchi、Katsuji Uetake (麻布大)	2008.07	Poultry Science Association (PSA) Annual Meeting. Ontario, Canada. July 2008	pp65. poster session (TP412).
9	Form but not frequency of beak use in hens is changed by housing system.	Tsuyoshi Shimmura (麻布大)、Tomokazu Suzuki (麻布大)、Toshihide Azuma (麻布大)、Satoshi Hirahara (神奈川畜技)、Yusuke Eguchi、Katsuji Uetake (麻布大)、Toshio Tanaka (麻布大)	2008.08	The 42th International Congress of the International Society for Applied Ethology. Dubrin, Ireland. August 2008.	pp184. poster session (92).
10	Effects of social rank and familiarity on dust-bathing of domestic fowl.	Toshio Tanaka (麻布大)、Tsuyoshi Shimmura (麻布大)、Tomo Nakamura (麻布大)、Toshihide Azuma (麻布大)、Yusuke Eguchi、Katsuji Uetake (麻布大)	2008.08	The 42th International Congress of the International Society for Applied Ethology. Dubrin, Ireland. August 2008.	pp186. poster session (94).
11	A proposal for overall assessment of laying hens - comparisons of our science-based with environment-based and animal-based assessment -.	Tsuyoshi Shimmura (麻布大)、Satoshi Hirahara (神奈川畜技)、Yusuke Eguchi、Katsuji Uetake (麻布大)、Toshio Tanaka (麻布大)	2008.09	The 4th International Workshop on the Assessment of Animal Welfare at Farm and Group Level (WAFI), Belgium. September 2008.	poster session. Ghent,
12	Development of an Electrically-driven Apparatus Measuring a Force-displacement Curve for the Evaluation of Root Lodging Resistance in Rice ( <i>Oryza Sativa</i> L.)	Hiroshi Fujimoto	2008.04	5th International Crop Science Congress (Abstracts)	*246
13	小麦加工食品の原料品種判別法の開発 III. SSR マーカーを用いた国産小麦と輸入銘柄小麦との効率的判別法	藤田由美子、石川直幸、矢野 博	2008.10	育種学研究	10(別2),322
14	SSR マーカーを用いた国産小麦と輸入銘柄小麦の効率的識別法	藤田由美子、石川直幸、矢野 博	2008.11	日本 DNA 多型学会第 17 回学術集会抄録集	*36
15	地形条件による強風特性の違いに関する観測的研究	福本昌人、柴田昇平、吉村亜希子	2008.05	システム農学会 2008 年度春季大会(要旨集)	*69-70
16	タマネギのケルセチン含量や生育などからみた家畜糞堆肥施用条件の検討	福永亜矢子、小森冨香、須賀有子、池田順一、堀 兼明	2008.09	日本土壌肥料学会 2008 年大会(講演要旨集)	54,112
17	Effect of <i>Zoysia japonica</i> growth on the emergence of <i>Digitaria ciliaris</i> in levee vegetation.	Akihide Fushimi、Ichiro Otani	2008.04	雑草研究	53(別),151
18	紫外線一可視光光質変換資材が施設内へのアブラムシの侵入、増殖に及ぼす影響	濱本 浩、植野耕造(東罐興産)、太田 泉、安部順一朗、山崎敬亮	2008.06	園芸学研究	7(別2),558
19	早朝群落内補光用の蛍光灯を縦置きと横置きにした場合の3段取りトマトの収量比較	濱本 浩、山崎敬亮	2009.03	日本農業気象学会 2009 年度全国大会講演要旨	*

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
20	オランダにおけるトマトの収量および収量構成に対する過去50年の育種の影響	東出忠桐、 Ep Heuvelink (Wageningen UR)	2008.09	園芸学研究	7(別2),172
21	傾斜地のトマト個体群の受光態勢	東出忠桐	2009.03	園芸学研究	8(別1),114
22	ウンシュウミカン樹の落葉と枝体積含水率の変化	平岡潔志、瀧下文孝、國賀 武、 星 典宏	2008.09	日本土壤肥料学会 2008 年大会 (講演要旨集)	54,139
23	かん水量の異なるブドウ'デラウェア'の樹体水分を TDR センサーで評価する	倉橋孝夫 (島根農技セ)、 平岡潔志	2008.09	園芸学研究	6(別2),*
24	愛媛県における アスパラガスハウス土壌の現状	横田仁子 (愛媛農研)、 大森誉紀 (愛媛農研)、 堀 兼明	2008.09	日本土壤肥料学会 2008 年大会 (講演要旨集)	54,139
25	A Water Stress Indicator using Cobalt (II) chloride for Simple and Visual Estimation of Water Status in Satsuma Mandarin Trees	Norihiro Hoshi, Kunihisa Morinaga, Hideharu Yokoi (Life Care R&D Inc.), Eriko Hamade (Life Care R&D Inc.), Sinnoy Kusaba (農水省)、 Masahiko Shimazaki	2008.10	International Society of Citriculture	*
26	Chugoku 188: A rice has easy digestive proteins content under 50%	Shuichi Iida, Osamu Ideta, Kei Matsushita, Hideo Maeda, Yoshihiro Sunohara	2008.10	Second International Symposium on Rice and Disease Prevention	*,96
27	International collaboration for unifying Glu-3 nomenclature systems in common wheat	Tatsuya M. Ikeda, Gérard Branlard (INRA, France), Roberto J. Peña (CIMMYT, Mexico), Kanenori Takata, Li Liu (CAAS, China), Zhonghu He (CAAS, China), Silvia E. Lerner (UNICEN, Argentina), María A. Kolman (UNICEN, Argentina), Hisashi Yoshida, William J. Rogers (CONICET, Argentina)	2008.08	11th International Wheat Genetics Symposium proceedings	*
28	ニガウリおよびスイカにおけるメロン黄化えそウイルス (MYSV) の自然発生	竹内繁治 (高知農技セ)、 下元祥史 (高知農技セ)、 石川浩一	2008.04	日本植物病理学会報	74(3),225
29	TAS-ELISA 法によるキュウリおよびミナミキイロアザミウマからのメロン黄化えそウイルス (MYSV) の検出	石川浩一、 楠元智子 (愛媛農林水研)、 河野敏郎 (日植防研)、	2008.04	日本植物病理学会報	74(3),219
30	窒素多施用条件下で栽培したイネ科作物の窒素濃度	石川葉子、渡邊修一、安藤象太郎	2008.06	日本土壤肥料学会講演要旨集	54,94
31	露地キュウリにおけるキュウリ黄化えそ病の発生と伝染源からの距離の関係	楠元智子 (愛媛農林水研)、 崎山進二 (愛媛農林水研)、 石川浩一	2008.04	日本植物病理学会報	74(3),216
32	多段テラスを造成した畦畔法面の1人用草刈り作業法の検討	亀井雅浩、奥野林太郎、窪田 潤、 高橋仁康、大谷一郎、伏見昭秀、 三谷誠次郎 (鳥取農試)	2008.05	農作業研究 (日本農作業学会平成20年度春季大会号)	43(別1),101-102
33	(口頭報告) 農作業体験に関わる援農システムの形態と課題	加藤克明	2008.11	第56回日本農村生活研究大会報告要旨	*,25-26
34	少量の大豆種子で豆腐加工適性を評価する方法 その4: 既存法との比較	川瀬真市朗、竹田博之、窪田 潤、 木村秀也、猿田正恭、高田吉丈、 菊池彰夫、岡部昭典	2009.03	日本作物学会、第227回講演会 (日本作物学会紀事別冊)	78(別1),*
35	マルカメムシのダイズ被害	菊地淳志、小林秀治	2008.10	平成20年度日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部合同例会	**
36	ホソヘリカメムシの加害ステージとダイズの青立ちとの関係	菊地淳志	2009.03	第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*,82
37	嫌気培養条件下での土壌の脱窒活性の発現と PCR-DGGE 法による脱窒菌相の解析	木村秀也	2008.09	日本土壤肥料学会 2008 年大会 (講演要旨集)	54,52
38	組換えウシインターフェロン・タウの子宮内投与が末梢白血球の Mx 遺伝子発現に及ぼす影響	小島孝敏、木村康二、大島一修、 山本直幸	2009.03	日本畜産学会第110回大会講演要旨集	**

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
39	Profiles of Carotenoids in Citrus Species, their Relatives and Hybrids	Takeshi Kuniga, Naoko Nakajima, Satoshi Ota, Hikaru Matsumoto, Masaya Kato (静岡大), Atsushi Imai, Naofumi Hiehata (長崎果試), Yoshinori Ikoma, Hirohisa Nesumi, Toshio Takahara, Toshio Yoshida	2008.10	11th International Citrus Congress (ICC 2008) Program and Abstracts	289
40	航空機熱赤外センシングによる水ストレス観測～航空機リモートセンシングによる丹波黒大豆の広域圃場情報収集～	馬河紘子(パスコ), 須藤健一(兵庫農試), 黒瀬義孝、橘 菊生(パスコ), K.K. ミシュラ(パスコ), 島村秀樹(パスコ)	2008.05	日本リモートセンシング学会 第44回学術講演会	*265-268
41	分生孢子懸濁液接種後の濡れ時間とかび毒との関係	黒瀬義孝	2008.09	赤かび病研究会資料	*24-25
42	"丹波黒"ダイズ栽培圃場における水収支モデルの開発	本間香貴(京都大農), 岡井仁志(京都農総研), 尾崎耕二(京都農総研), 黒瀬義孝、土井正彦(奈良農総セ), 中井 謙(滋賀農技振セ), 須藤健一(兵庫農総セ), 牛尾昭浩(兵庫農総セ), 竹田博之、御子柴北斗(京都大農), 白岩立彦(京都大農), 田中朋之(京都大農)	2008.09	日本作物学会第226回講演会	*
43	小麦・シロガネコムギにおける赤かび病感染後の濡れ時間とかび毒蓄積との関係	黒瀬義孝	2008.12	中国・四国の農業気象	21,10-12
44	簡易土壌水分計による黒大豆の灌水指標作成	黒瀬義孝	2009.03	日本農業気象学会2009年度 全国大会講演要旨	*
45	CFD解析による地床全面水耕ネギ栽培時の低棟ハウス内環境の推定	畔柳武司, 越智資泰(広島総研農技セ), 今井俊治(広島総研農技セ), 長崎裕司	2008.08	2008年度農業施設学会大会 講演要旨集	*93-94
46	ネギ水耕栽培での施設全面ベッドにおける低棟ハウスの形状と棟高の検討	越智資泰(広島総研農技セ), 畔柳武司、長崎裕司、 今井俊治(広島総研農技セ)	2008.09	園芸学研究	7(別2)*
47	循環扇による空気攪拌範囲の機種間差の比較	畔柳武司	2009.03	園芸学研究	8(別1), 116
48	"Haiibuki", a Rice Variety with Giant Embryo, Accumulates High Amount of Gaba.	松下 景、荒木悦子、川瀬眞市朗、 春原嘉弘、飯田修一	2008.10	Second International Symposium on Rice and Disease Prevention (Program & Abstracts)	*109
49	ブータン品種 Chumroo に由来する新規のイネいもち病真性抵抗性遺伝子 Pi46(t) のマッピング	松下 景、Thinlay (ブータン国立 植物防疫センター)、小泉信三、 芦澤武人、安田伸子、春原嘉弘、 飯田修一、出田 収、藤田佳克	2008.10	育種学研究	10(別2),266
50	子実の少ない飼料イネ系統は茎葉部の糖含量と耐倒伏性が高い	松下 景、神田則昭、高桑将滋、 河野幸雄、新出昭吾、藤本 寛、 飯田修一、出田 収、春原嘉弘	2009.03	育種学研究	11(別1)*
51	DNA バーコードを利用した捕食歴の解析方法: オオハサミムシコナガ幼虫系を例に	三浦一芸、渡部真也(広島大), 河野勝行	2008.06	第13回農林害虫防除研究会	*32
52	Genome hitchhikers: genetic constraints imposed on hosts by parthenogenesis-inducing Wolbachia fixation are alleviated by crossing with uninfected lines	Andrew Paul Davies (JSPS), Tetsuya Adachi-Hagimori (広島大), Kazuki Miura	2008.06	5th International Wolbachia conference Abstract	*110
53	Detection of a new cytogenetic mechanism for bacterial endosymbiont-induced parthenogenesis in Hymenoptera	Tetsuya Adachi-Hagimori (広島大), Kazuki Miura, Richard Stouthamer (カリフォルニア大)	2008.06	5th International Wolbachia conference Abstract	*116
54	Diversity of Wolbachia combination in an inbreeding beetle, <i>Xylosandrus germanus</i> , in Japan	Yuuki Kawasaki (名古屋大), Masaaki Ito (名古屋大), Kazuki Miura, Hisaki Kajimura (名古屋大)	2008.06	5th International Wolbachia conference Abstract	*84

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
55	Wolbachia distribution in Orius: correlation with host phylogeny and population structure	Masaya Watanabe (広島大)、 Yohsuke Tagami (静岡大)、 Kazuki Miura	2008.06	5th International Wolbachia conference Abstract	*86
56	導入天敵の生態リスク評価を考える	三浦一芸	2008.08	第18回天敵利用研究会講演要旨集	*20
57	ヒメハナカメムシ類と Wolbachia の共進化：種内・種間における Wolbachia 水平感染と組換えの可能性	渡部真也 (広島大)、 田上陽介 (静岡大)、 三浦一芸	2008.08	第10回日本進化学会大会プログラム・要旨集	*67
58	DNA バーコードの生態学・害虫管理への応用	三浦一芸	2008.09	日本昆虫学会第68回大会講演要旨	*91
59	各種薬草類抽出液の抗菌活性とキュウリ炭疽病に対する発病抑制効果について	宮川久義、大野裕和 (丸善製薬(株)総合研究所)	2008.08	日本植物病理学会報	74(3),185
60	大阪府東淀川流域におけるため池から河川に流れ込む水への水田の浄化効果	望月秀俊、志村もと子、 森 達摩 (大阪環農総研)、 相子伸之 (大阪環農総研)、 柴原藤善 (滋賀農技振セ)	2008.08	農業農村工学会大会、平成20年度(要旨集)	*
61	大阪湾流域における窒素負荷量算定モデルの開発と評価	望月秀俊、志村もと子、 森 達摩 (大阪環農総研)、 柴原藤善 (滋賀農技振セ)	2008.08	近畿アグリハイテク・シンポジウム 食と水環境を考えるシンポジウム、第44回	*
62	小学校における農業体験学習の今日的意義	室岡順一	2008.11	第56回日本農村生活研究大会報告要旨	*23-24
63	大麦在来品種「横綱」がもつ縮萎縮病抵抗性遺伝子に固有の一塩基欠失変異	長嶺 敬、沖山 毅 (栃木農試)、 渡辺浩久 (栃木農試)、 五月女敏範 (栃木農試)、 高橋飛鳥、柳沢貴司	2008.10	育種学研究	10(別2),273
64	トマト栽培における省力管理技術の開発—傾斜ハウスにおける誘引作業の省力化—	長崎裕司、畔柳武司、中元陽一、 田中宏明、笠原賢明、伊吹俊彦	2008.05	農作業研究	43(別1),105-106
65	シソ青枯病の二次伝染を防止する加熱装置組み込み収穫機の開発—効率的加熱方式の検討—	長崎裕司、松崎建文、 小谷基文 (愛媛農試)、 崎山進二 (愛媛農試)、 豊田和範 (マメトラ四国機器)、 山下 淳 (愛媛大)、 疋田慶夫 (愛媛大)、 川崎哲郎 (愛媛大)	2008.05	農作業研究	43(別1),11-12
66	中山間地における平張型ハウスのオーダーメイド設計・施工技術の開発—平張型ハウスの現地施工実証と課題—	長崎裕司、畔柳武司、中元陽一、 田中宏明	2008.08	2008年度農業施設学会大会講演要旨集	*97-98
67	温暖地西部における超多収水稻の生育・収量および乾物生産特性	長田健二、佐々木良治、大平陽一、 吉永悟志	2009.03	日本作物学会第227回講演会(日本作物学会紀事)	78(別1)*
68	固化培地を用いたポットレス栽培と培地送風処理が盛夏期育苗したパンジーの生育開花に及ぼす影響	中野善公、木下貴文、吉川弘恭、 前田茂一 (奈良農総セ)、 後藤丹十郎 (岡山大)	2008.09	日本生物環境工学会2008年松山大会講演要旨	*250-251
69	炭酸ガスとアミノレブリン酸含有肥料の組み合わせ処理が花き苗の生育と品質に及ぼす影響	前田茂一 (奈良農総セ)、 竹本哲行 (京都農総研)、 中野善公、仲 照文 (奈良農総セ)	2008.09	園芸学研究	7(別2),312
70	小麦種子の硬軟質性と Puroindoline の発現状態との関係	野方洋一	2009.03	日本農芸化学会2009年度大会(要旨集)	*,*
71	カンキツのフラボノイド組成と品種分類	野方洋一、坂本宏司 (広島食工技)、 白土宏之、石井利直 (中村学園大)、 太田英明 (中村学園大)	2009.03	日本農芸化学会2009年度大会(要旨集)	*,*
72	リアルタイム RT-PCR による <i>Olpidium virulentus</i> からのミラフィオリタスビッグベインウイルス (MLBVV) の定量化	野見山孝司、大崎秀樹、石川浩一	2008.04	日本植物病理学会報	74(3),220
73	ジルコニアビーズを用いて破碎した <i>Olpidium virulentus</i> 休眠胞子からのミラフィオリタスビッグベインウイルス (MLBVV) の検出	野見山孝司、大崎秀樹、石川浩一	2008.09	2008年度日本植物病理学会関西支部会(要旨)	*30
74	Nitrogen fertilizer application based on the estimated growth stage and leaf nitrogen status to control digestible protein content in rice grain of the low glutelin rice cultivar LGCsoft	Youichi Ohdaira, Hiroyuki Takeda, Ryouji Sasaki	2008.04	5th International Crop Science Congress (Abstracts)	*74
75	脱落した飼料イネ種籾の越冬後の出芽率に及ぼす耕起時期と薬剤処理の影響	大平陽一、佐々木良治	2008.07	日本作物学会中国支部研究集録	49,16-17

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
76	水稻の登熟過程における葉色の低下に関する品種間差異の簡易評価方法の検討	大平陽一、佐々木良治、長田健二	2009.03	日本作物学会紀事	78(別1)*
77	透過光を用いた屋外での葉色測定法の黒大豆への適用	奥野林太郎、竹田博之、三浦健志(岡山大)	2008.12	中国・四国の農業気象	21,38-39
78	Dynamics of Agricultural R&D and Extension System in Australia	Kohei Oro	2008.07	Institute of Australian Geographers Conference 2008	*,11
79	Realities of a "farmer-driven" R&D system: An analysis of agricultural innovation processes in Australia:	Kohei Oro	2008.11	Annual Meeting of Agri-Food Research Network	14,23-24
80	Effect of restricted suckling on superovulatory response and reproductive performance in early postpartum Japanese Black cows	Kazunaga Oshima、Yoshinori Ochiai、Rajani Pradhan(広島大)、Takatoshi Kojima、Naoyuki Yamamoto	2008.07	Reproduction in Domestic Animals	43,Supplement 3,57
81	Bllood metabolites, quality of embryos and conception in early postpartum superovulated suckling Japanese Black cattle	Rajani Pradhan(広島大)、Kazunaga Oshima、Yoshinori Ochiai、Takatoshi Kojima、Naoyuki Yamamoto、Mohamed Elshabrawy Ghanem(広島大)、Nobukazu Nakagoshi(広島大)	2008.09	The 13th Animal Science Congress of the Asian-Australasian Association of Animal Production Societies (Proceeding)	*,1-4
82	Effect of GnRH and estradiol benzoate injection on superovulatory response in early postpartum suckling Japanese Black cows	Kazunaga Oshima、Yoshinori Ochiai、Takatoshi Kojima、Naoyuki Yamamoto	2009.01	Reproduction, fertility and Development	21,*
83	防草シートを用いた在来草種の植栽における培土への吸水性樹脂混入及び客土の影響	大谷一郎、伏見昭秀	2008.04	雑草研究	53(別),39
84	農業生産法人が野菜販売のために設立したLLPの実態と特徴	齋藤仁藏	2008.09	平成20年度日本農業経営学研究大会報告要旨	*,152-153
85	サクラネチンによる脂肪細胞の分化及びグルコース取り込みの促進	齋藤 武、阿部大吾、関谷敬三	2008.09	2008年度日本農芸化学会中四国支部大会(第22回講演会)要旨集	*,41
86	ダイズのSMV-A2系統抵抗性遺伝子のマッピング	猿田正恭、高田吉丈、河野雄飛、菊池彰夫、岡部昭典	2008.08	育種学研究	10(別2),320
87	Relationship between leaf nitrogen content in rice plant and the nodal position of the last visible primary tiller on the main stem	Ryouji Sasaki、Youichi Ohdaira、Hiroyuki Takeda	2008.04	5th International Crop Science Congress (Abstracts)	*,13
88	水稻の粒重増加速度に及ぼす高温の影響と穂上位置による差異	佐々木良治	2008.12	中国・四国の農業気象	21,120
89	イネ葉表面の顕微画像から濡れを判別するシステムの開発	佐藤恵一	2008.12	中国・四国の農業気象	20,36-37
90	非線形回帰によるAMeDAS気温変化特性の解析(II)	佐藤恵一	2008.12	中国・四国の農業気象	21,32-35
91	脂肪細胞機能に及ぼす各種シコクビエ系統の影響	関谷敬三、杉浦 誠、齋藤 武、阿部大吾	2008.09	日本食品科学工学会第55回大会講演集	*,100
92	コメンテータ、委員として	関谷敬三	2008.09	糖転移ヘスベリジン・ビタミンP研究会設立記念公開セミナー(株式会社林原生物化学研究所)	約100名
93	雑穀シコクビエによる脂肪細胞分化と脂肪分解の促進	関谷敬三、杉浦 誠、齋藤 武、阿部大吾	2008.10	第29回日本肥満学会抄録集	*,276
94	核内受容体PPARsを活性化するシコクビエ	関谷敬三、杉浦 誠、齋藤 武、阿部大吾	2009.03	2009年度日本農芸化学会大会要旨集	*,226
95	飛ばないナミテントウにおいて長期の選抜が生存や繁殖にもたらす影響とその対策	世古智一、三浦一芸	2008.06	第13回農林害虫防除研究会	*,31
96	イチモンジセセリにおける繁殖形質の個体群間変異:移動のコストは小卵多産をもたらすのか?	世古智一	2008.10	個体群生態学会、第24回(プログラム・講演要旨集)	*,19

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
97	天敵を利用した露地野菜でのアブラムシ防除：飛ばないナミテントウの位置づけ	世古智一	2009.03	平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議生産環境推進部会問題別研究会「高度管理手法による作物病虫害制御技術」資料	*36
98	飛翔能力に対する人為選抜がナミテントウ <i>Harmonia axyridis</i> の歩行活動量に及ぼす影響	中山 慧(岡大院環境・進化生態)、世古智一、高月淳一(岡大農)、宮竹貴久(岡大院環境・進化生態)、三浦一芸	2009.03	第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*62
99	ウシ培養筋芽細胞における筋管形成因子の探索	柴田昌宏、松本和典、大江美香、中島郁世、室谷 進、千国幸一	2008.12	BMB2008 講演要旨集	*315
100	Estimation of the Microatmosphere of May, 2006 in the northern region of Loess Plateau of China with RAMS (Regional Atmospheric Modeling System)	Shohei Shibata	2008.09	CAS-JSPS Core University Program Japan-China Joint Open Seminar on Combating Desertification and Development in Inland China of Year 2008 Abstracts	*34
101	傾斜地利用型環境調節システムによる夏秋トマトの生産性へ及ぼす局所冷房の効果	柴田昇平、米谷俊彦(岡山大)、田中丸重美(岡山大)、松村伸二(香川大)、菅谷 博	2008.12	中国・四国の農業気象	21,12-13
102	ドップラー雨量計と転倒ます型および貯水型降水量計との比較	菅谷 博、柴田昇平、横山宏太郎、小南靖弘	2008.12	中国・四国の農業気象	21,78-79
103	農業公社主導の新規参入支援における課題	島 義史	2008.09	平成20年度日本農業経営学研究大会報告要旨	*156-157
104	瀬戸内地域の休耕地の土壤炭素と 13C	下田星児	2008.09	日本土壤肥料学会 2008 年大会(講演要旨集)	54,18
105	Soil carbon content and stable isotopic composition of abandoned agricultural fields in western Japan	Seiji Shimoda	2008.10	Joint Annual Meeting between GSA, SSSA, ASA, CSSA, GCAGS, and HGS	DVD
106	不均一植生を対象とした炭素安定同位体フラックス測定の問題点	下田星児、村山昌平(産総研)、岸本文紅(農環研)、及川武久(筑波大)	2008.11	日本農業気象学会 2008 年度シンポジウム・日本農業気象学会関東支部例会(講演要旨集)	5,15
107	水稲の葉身・穂の 13C と登熟期水管理の関係	下田星児、木村秀也	2008.12	中国・四国の農業気象	21,46-47
108	Distribution of carbon isotopic composition in rice grain and leaf	Seiji Shimoda	2009.03	The International Symposium on Agricultural Meteorology 2009(講演要旨集)	**
109	2年間休耕後の植生と土壤炭素の変化	下田星児	2009.03	日本生態学会第56回大会(講演要旨集)	56,*
110	新規オーキシン生合成阻害剤の探索と機能解析	添野和雄、石井貴広(理研PSC)、立川 巴(理研PSC)、吉田茂男(理研PSC)、藤岡昭三(理研ASJ)、浅見忠男(東京大院・農生科・応生化)、嶋田幸久(理研PSC)	2009.03	日本農薬学会第34回大会講演要旨集	*143
111	オーキシン生合成阻害剤を用いた生合成経路の解析	添野和雄、石井貴広(理研PSC)、立川 巴(理研PSC)、吉田茂男(理研PSC)、藤岡昭三(理研ASJ)、浅見忠男(東京大院・農生科・応生化)、嶋田幸久(理研PSC)	2009.03	第50回日本植物生理学会年会要旨集	*201
112	マイクロアレイデータの大規模解析からオーキシン生合成阻害剤の開発へ	郷田秀樹(理研PSC)、添野和雄、佐々木絵里子(理研PSC、東京大院・農生科・応生化)、吉田茂男(理研PSC)、藤岡昭三(理研ASJ)、浅見忠男(東京大院・農生科・応生化)、嶋田幸久(理研PSC)	2009.03	日本農薬学会第34回大会講演要旨集	*142
113	AtGenExpress ホルモンデータの解析とオーキシン生合成阻害剤の発見	郷田秀樹(理研PSC)、添野和雄、佐々木絵里子(理研PSC、東京大院・農生科・応生化)、吉田茂男(理研PSC)、藤岡昭三(理研ASJ)、浅見忠男(東京大院・農生科・応生化)、嶋田幸久(理研PSC)	2009.03	第50回日本植物生理学会年会要旨集	*201
114	湛水栽培におけるシコクビエ在来系統の変異と特性	杉浦 誠、渡邊修一	2008.10	熱帯農業研究	1(別2),31-32

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
115	シコクビエ (Eleusine coracana (L.) Gaertn.) を用いた発泡酒の開発	妙田貴生 (東京農大)、杉浦 誠、永島俊夫 (東京農大)	2008.10	熱帯農業研究	1(別2),33-34
116	田植機を利用したシコクビエの移植栽培の可能性	杉浦 誠	2008.11	日本作物学会四国支部会報	*,*
117	Comparison of the effects of puroindoline penotypes on grain and flour properties using near isogenic lines.	Kanenori Takata, Tatsuya M Ikeda, Mikiko Yanaka, Naoyuki Ishikawa	2008.08	Proceedings of 11th international Wheat Genetics Symposium	*,253
118	Characterization of Elymus humidus as a candidate for genetic resource of wheat water tolerance	Tsuneo Sasanuma (山形大)、Kanenori Takata, Kentaro Kawaguchi, Atsui Oyanagi	2008.08	Proceedings of 11th international Wheat Genetics Symposium	*,42
119	Genetic variation of wheat landraces in Afghanistan	Youhei Terasawa (横浜市大)、Kanenori Takata, Taichi Kawahara (京都大)、Tomohiro Ban (横浜市大)、Tetsuo Sasakuma (国際農林業共同協会)、Tsuneo Sasamuma (山形大)	2008.08	Proceedings of 11th international Wheat Genetics Symposium	*,52
120	ムギ類耐湿性遺伝資源としての日本在来野生ムギ類ミズタカモジの遺伝学的特徴及びその育種利用へむけた取り組み	笹沼恒男 (山形大)、高田兼則、川口健太郎、小柳敦史	2008.09	第226回日本作物学会講演会要旨集	*,226
121	ピュロインドリン遺伝子型がコムギの子実硬度やコムギ粉品質へ及ぼす影響	高田兼則、松中 仁、谷中美貴子、石川直幸、池田達哉	2008.10	日本育種学会第114回講演要旨集	*,281
122	中央アジア在来品種コムギにおける高分子量グルテニンサブユニットの変異	寺沢洋平 (横浜市大)、高田兼則、川原太八 (京都大)、加藤鎌司 (岡山大)、平野 久 (横浜市大)、笹隈哲夫 (国際農林業共同協会)、笹沼恒男 (山形大)	2008.10	日本育種学会第114回講演要旨集	*,188
123	Development of a saponin rich soybean: Changes of seed saponin contents in introducing the genes controlling the saponin composition polymorphism.	Nana Tatsuzaki (岩手大)、Ippei Tayama (岩手大)、Yoshitake Takada, Gyuhwa Chung (Chonnam National University)、Keisuke Kitamura (北大院農)、Chigen Tsukamoto (岩手大)	2008.04	5th International Crop Science Congress (Abstracts)	*,215
124	Study of the chemical structure of new saponins found in wild soybeans [Glycine soja (Sieb. & Zucc.)] by the combination of genetical, chemical, and LC-MS/MS profile analyses.	Chigen Tsukamoto (岩手大)、Ryoko Saito (岩手大)、Ippei Tayama (岩手大)、Hiroko Sasama (岩手大)、Yoshitake Takada, Masao Ishimoto, Gyuhwa Chung (Chonnam National University)、Keisuke Kitamura (北大院農)	2008.04	5th International Crop Science Congress (Abstracts)	*,215-216
125	Estimation of the mutation site of a soyasapogenol A-deficient soybean [Glycine max (L.) Merr.] by LC-MS/MS profile analysis.	Hiroko Sasama (岩手大)、Yoshitake Takada, Masao Ishimoto, Keisuke Kitamura (北大院農)、Chigen Tsukamoto (岩手大)	2008.08	The Cornucopia Fall 2008 including Agricultural and Food Chemistry Division abstracts for the 236th American Chemical Society National Meeting	*,AGFD29
126	ダイズのイソフラボン含量に関与するQTL:異なる栽培年次、播種期並びに種子部位における発現QTLの比較	高田吉丈、黄 太暎 (北大院農)、湯本節三、喜多村啓介 (北大院農)、石本政男	2008.10	日本育種学会第114回講演要旨集	10(別2),264
127	大豆サポニン糖鎖配列制御遺伝子の発現と種子胚軸サポニン合成量の関係	龍崎菜々 (岩手大)、田山一平 (岩手大)、高田吉丈、石本政男、喜多村啓介 (北大院農)、塚本知玄 (岩手大)	2008.10	第29回種子生理生化学研究会講演要旨集	*,12-13
128	ダイズにおけるSSRマーカーの効率的ジェノタイプピング	黄 太暎 (北大院農)、佐山貴司 (特別研究員等)、高田吉丈、中本有美 (特別研究員等)、鈴木彩子 (特別研究員等)、喜多村啓介 (北大院農)、石本政男	2008.10	育種学研究	10(別2),57

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
129	High-throughput genotyping of SSR markers in soybean	佐山貴司(特別研究員等)、 黄 大暎(北大院農)、 高田吉丈、 中本有美(特別研究員等)、 鈴木彩子(特別研究員等)、 喜多村啓介(北大院農)、 石本政男	2009.01	Plant and Animal Genome XVII Conference	*370
130	ダイズサポニンのC-22位の糖鎖組成に 関与する遺伝子座の精密連鎖地図と 原因候補遺伝子	佐山貴司(特別研究員等)、 高田吉丈、加藤 信、 龍崎菜々(岩手大)、 中本有美(特別研究員等)、 鈴木彩子(特別研究員等) 塚本知玄(岩手大)、 石本政男	2009.03	日本育種学会大 115 回講演 会育種学研究	*
131	有機農業経営からみる国産有機農産物 流通チャンネルと流通活動の多様性	高橋太一	2008.12	日本有機農業学会大会シンポ ジウム セッション2 報告 資料	*20-24
132	裸麦における炊飯・保温白度の低下に 関わる要因	高橋飛鳥、高山敏之、長嶺 敬、 柳沢貴司	2008.10	日本育種学会第 114 回講演 要旨集	10(別2)*
133	オオムギの加熱後褐変におけるタンパク 質含量の影響	高山敏之(栃木農試)、高橋飛鳥、 渡辺修一、柳沢貴司	2009.03	日本育種学会第 115 回講演 会要旨集	*
134	Grasping of Agricultural Land Area in Catchment Basin Using GIS	Hidehiro Takahashi	2008.06	AOGS2008	*IWG06-A007
135	Effect of Flood Discharge on Nutrient Discharge in Seto Inland Sea Catch- ments, western Japan	Shin-ichi Onodera (広島大)、 Mitsuyo Saito (広島大)、 Misa Sawano (広島大)、 Hidehiro Takahashi、 Ryuji Kikagawa (広島大)、 Seiko Yoshikawa	2008.06	AOGS2008	*IWG06-A008
136	Effect of Surface Water-Groundwater Interaction on Dissolved N and P in Suburban River Basin, western Japan	Misa Sawano (広島大)、 Shin-ichi Onodera (広島大)、 Mitsuyo Saito (広島大)、 Yuta Shimizu (広島大)、 Hidehiro Takahashi、 Yasuyuki Hirayama (広島大)、 Koji Kodera (法政大)	2008.06	AOGS2008	*IWG06-A014
137	グリッド型モデルによる瀬戸内海流域 における水収支解析	高橋英博、吉川省子、 小野寺真一(広島大)	2008.10	システム農学	24(別1),55-56
138	生物・文化の多様性とバイオマス資源 の持続的利用	高橋佳孝	2009.03	第 56 回日本生態学会(講演 要旨集)	*,*
139	管理方法の違いによる三瓶山草原の植 生構造	井上雅仁(三瓶自然館)、 高橋佳孝、堤 道生	2009.03	第 56 回日本生態学会(講演 要旨集)	*,*
140	草原性絶滅危惧植物ハナシノブの全残 存集団の網羅的遺伝解析	横川昌史(京都大)、 兼子伸吾(京都大)、 瀬井純雄(阿蘇花野協会)、 高橋佳孝、井鷲裕司(京都大)	2009.03	第 56 回日本生態学会(講演 要旨集)	*,*
141	生物的土壌消毒による土壌病害の防除	竹原利明	2008.09	日本植物病理学会土壌伝染病 談話会、第 24 回(土壌伝染 病談話会レポート No.24)	*70-81
142	カラシナ等機能性植物を用いた土壌還 元消毒によるナス青枯病防除効果	広田恵介(徳島農総セ)、 水口晶子(徳島農総セ)、 竹原利明	2008.11	四国植物防疫研究協議会第 53 回大会要旨集	*,*
143	四国地域におけるブルーベリーの展 葉・開花時期と低温遭遇時間との関連	瀧下文孝、平岡潔志、國賀 武	2008.07	園芸学会中四国支部研究発表 要旨	47,21
144	Characterization of Fruit Sugar Ac- cumulation and Maturity in Harumi Mandarin.	Fumitaka Takishita、 Kiyoshi Hiraoka、 Noboru Muramatsu、 Makoto Uchida	2008.08	Proceedings of the Interna- tional Symposium on citrus and other tropical and sub- tropical fruit crops	773,95-101
145	基盤地図情報 25000 切り取りサイトの 開発	寺元郁博	2008.10	システム農学	24(別2),59-60
146	Effects of herbage species on the spa- tial heterogeneity of biomass in grazed pasture: Kentucky bluegrass vs. white clover	Michio Tsutsumi、 Michiru Fukasawa、 Noriko Tachi (東北大)、 Shiro Itano、 Takami Kosako (農林水産技術会議)、 Hideharu Tsukada	2008.06	Multifunctional Grasslands in a Changing World	1,524

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
147	Temperate grassland provides winter food for wild boar	Hironori Ueda, Yoshitaka Takahashi, Masateru Inoue	2008.08	International Symposium on Wild Boars	*,109
148	寒地型牧草地での草地更新とイノシシによる採食被害	上田弘則、高橋佳孝、井上雅央	2008.09	日本哺乳類学会 2008 年度大会 (要旨集)	*,164
149	中山間地域におけるメッシュ気候図の活用	植山秀紀	2008.05	システム農学会 2008 年度春季大会 (要旨集)	*,67-68
150	MRI-CGCM2 の温暖化予測値から作成した 1km メッシュ気候図による九州の育成雌牛への影響	植山秀紀、足立幸穂 (筑波大)、 木村富士男 (筑波大)	2008.10	システム農学	*,37-38
151	西日本地域を対象とした温暖化予測値にもとづく 1km メッシュ気候図の作成	植山秀紀、足立幸穂 (筑波大)、 木村富士男 (筑波大)	2008.12	中国・四国の農業気象	21,24-25
152	農山村における人材の存在構造に関する分析—福島県内のある集落の事例—	渡部博明	2009.03	日本農業経済学会 2009 年度 (要旨集)	*,*
153	土壌のリン酸緩衝液抽出性有機物に対する鉄・アルミニウム添加の影響	渡邊修一、吉川省子、石川葉子	2008.08	日本土壌肥料学会講演要旨集	54,136
154	塩化鉄処理木炭の硝酸イオン吸着能に対する硫酸イオン、リン酸イオン共存の影響	渡邊修一、吉川省子	2008.11	2008 年度 (第 104 回) 日本土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	*,29
155	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「環境に配慮した小規模移動放牧にける繁殖和牛の飼養管理技術」について	山本直幸	2008.09	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「環境に配慮した小規模移動放牧にける繁殖和牛の飼養管理技術」公開シンポジウム及び現地検討会～耕作放棄地の解消と未利用草資源の復権を図る～講演要旨集	*,2-4
156	黒毛和種牛における乳タンパク質ムチン遺伝子型の哺乳期子牛発育への影響	山本直幸、小島孝敏、大島一修、 落合寿成	2008.09	第 46 回肉用牛研究会北海道大会講演要旨集	*,61-62
157	ウシにおける急性ストレス反応と末梢血中オキシトシン濃度との関係	矢野健一 (生物研)、 伊藤秀一 (東海大)、 山本直幸、北川紗雪 (宇都宮大)、 岡村裕昭 (生物研)	2009.03	日本畜産学会第 110 回大会講演要旨集	*,148
158	終夜照明した緑色または黄色光の照度がイチゴ数品種の育成に及ぼす影響	山崎敬亮、熊倉裕史、 山田 真 (パナソニック電工)、 石渡正紀 (パナソニック電工)、 濱本 浩	2008.09	日本生物環境工学会講演要旨	*,238-239
159	頂花房収量や根の活着等から推定される促成イチゴにおけるセル成型苗の育苗適日数	山崎敬亮、熊倉裕史、濱本 浩	2008.09	平成 20 年度園芸学会秋季大会講演要旨	7(別 2),508
160	高温および水ストレスがイチゴ果実成長および品質に与える影響	米澤和輝 (明治大)、 齋藤隆明 (明治大)、 池田 敬 (明治大)、 山崎敬亮	2008.09	平成 20 年度園芸学会秋季大会講演要旨	7(別 2),547
161	水稲の湛水直播に関する土壌肥料学的研究	山内 稔	2008.09	日本土壌肥料学会 2008 年大会 (講演要旨集)	54,234
162	鉄コーティング水稲種子の近傍で発生する 2 価鉄イオンの作用	藤原加奈子 (広島大)、 山内 稔、山本真之 (広島総技研)、 正岡淑那 (広島大)	2008.09	日本土壌肥料学会 2008 年大会 (講演要旨集)	54,130
163	六条性裸麦の高β-グルカン含量系統の選抜	柳澤貴司、高山敏之 (栃木県)、 高橋飛鳥、長嶺 敬	2008.10	育種学研究	10(別 2),285
164	二条ハダカムギ「四国裸 103 号」の栽培法	箕田豊尚 (埼玉県)、柳澤貴司、 長嶺 敬、戸倉一泰 (埼玉県)	2008.12	日本作物学会関東支部会報	23,64-65
165	大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボン」の育成	柳澤貴司、長嶺 敬、高橋飛鳥、 高山敏之 (栃木県)、土井芳憲、 松中 仁、藤田雅也、杉浦 誠、 土門英司 (生物研)、 伊藤昌光 (退職)、石川直幸	2009.03	育種学研究	11(別 1),*
166	Addition of chromosome 5H of Hordeum species to wheat enhances grain softness	Mikiko Yanaka, Kanenori Takata, Tatsuya M. Ikeda	2008.09	The 11th International Wheat Genetics Symposium proceedings	*,258
167	農林水産物の DNA 鑑定の現状と展望	矢野 博	2008.07	起源と表示に関する分析技術勉強会 (講演要旨)	*,9
168	農作物における DNA 鑑定の現状と展望	矢野 博	2008.10	第 1 回 DNA 鑑定学会大会講演要旨	*

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
169	農産物における DNA 鑑定の実用化の現状と展望	矢野 博	2008.11	東京大学海洋研究所 共同利用シンポジウム:海と畑と森の DNA 多型研究 (講演要旨)	*8
170	2005 年農林業センサスから見た中国地域農業の動向—大規模農家の増加傾向について—	安武正史	2008.08	平成 20 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議・営農部会・問題別研究会	*
171	地域循環型社会形成における物質循環と経済性—ヒマワリの活用意義について—	安武正史	2008.10	第 58 回地域農林経済学会報告要旨集	*
172	窒素、リン流達負荷量算定モデルによる環境こだわり農業の効果予測	吉田正則、大林博幸(滋賀農技セ)、大久保卓也(琵琶湖研)、吉川省子、柴原藤善(滋賀農技セ)	2008.11	2008 年度(第 104 回)日本土壌肥料学会関西支部講演会関西土壌肥料協議会講演会要旨集	*9
173	農産物直売所における需給ミスマッチに関する一考察	吉田晋一	2008.10	第 58 回地域農林経済学会報告要旨集	*
174	早生黒大豆系エダマメの夏作ホウレンソウ前作物としての播種時期の検討および直播栽培と移植栽培の比較	吉田祐子、濱本 浩、池田順一、熊倉裕史	2008.09	園芸学研究	7(別2),511
175	NO3-N Variation of Spring Water in an Alluvial plane, Western Japan	Seiko Yoshikawa、Hiroshi Yamamoto、Masanori Yoshida、Shinichi Onodera (広島大)、Hidehiro Takahashi、Yasuko Sasada (香川県)、Akira Ishihara (元四国農試)	2008.06	Asia Oeania Geosciences Society	*IWG06-A011
176	Water and Nutrient Dynamics in Land-Ocean Asia, Bisan Seto, central Seto Inland Sea, Japan	Shinichi Onodera (広島大)、Seiko Yoshikawa、Hidehiro Takahashi、Satoru Takahashi (産総研)、Mitsuyo Saito (愛媛大)、Ichiro Yuasa (産総研)	2008.06	Asia Oeania Geosciences Society	*IWG06-A010
177	備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明—香川県	笹田康子(香川県)、吉川省子、高橋英博、鷹野 洋(岡山県)、高橋 暁(産総研)、湯浅一郎(産総研)、小野寺真一(広島大)	2008.09	水環境学会	*
178	備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明—岡山県	鷹野 洋(岡山県)、吉川省子、高橋英博、笹田康子(香川県)、高橋 暁(産総研)、湯浅一郎(産総研)、小野寺真一(広島大)	2008.09	瀬戸内海研究フォーラム	*
179	GIS を活用した備讃瀬戸海域での栄養塩動態に関する研究	三好順也(産総研契約研究員)、高橋 暁(産総研)、三島康史(産総研)、湯浅一郎(産総研)、吉川省子	2008.09	瀬戸内海研究フォーラム	*
180	瀬戸内海沿岸都市流域における地下水流動と栄養塩輸送 - 丸亀平野の例—	小野寺真一(広島大)、齋藤光代(愛媛大)、清水裕太(広島大)、吉川省子	2008.09	日本水文科学会	*
181	備讃地域陸域からのチッソ、リン、COD の河川經由/海域直接負荷量と沿岸水質の関係	吉川省子、高橋英博、高橋 暁(産総研)、笹田康子(香川県)、鷹野 洋(岡山県)、湯浅一郎(産総研)、小野寺真一(広島大)	2008.10	日本陸水学会第 73 回大会講演要旨集	*101
182	岡山・香川陸域から備讃瀬戸に流入する水、チッソ、リン、COD 量の変動	吉川省子、笹田康子(香川県)、鷹野 洋(岡山県)、高橋英博、石川 博(契約研究員)、小野寺真一(広島大)	2008.10	土壌物理学会講演要旨集	*58-59

3) 著書

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	ビールムギの品種と選択	長嶺 敬、 宮川三郎(元東北研)	2008.05	年版農業技術作物 2008 (農山漁村文化協会)	*139-148
2	新形質ムギービールムギ、食糧用オオムギ	長嶺 敬	2008.05	年版農業技術作物 2008 (農山漁村文化協会)	*159-160
3	オオムギ 加工の歴史・動向と農村加工	長嶺 敬、 土井芳憲	2008.11	食品加工総覧追録 5号 (農山漁村文化協会)	9,183-185
4	オオムギ 加工特性と加工用途 総論	長嶺 敬	2008.11	食品加工総覧追録 5号 (農山漁村文化協会)	9,187 の 1 -188 の 7
5	超多収イネ品種の条件	長田健二	2009.02	農業技術大系・作物編 ( (社) 農山漁村文化協会 )	基本編, 255-260
6	はじめに がんばる産地・地産地消活動による活性化	高橋太一	2008.12	三恵社	*1-8
7	おわりに がんばる産地・地産地消活動による活性化	高橋太一	2008.12	三恵社	*178-182
8	消える日本の自然 草原	高橋佳孝	2008.09	消える日本の自然(恒星社厚生閣)	*14-27;118-127
9	森林環境 2009「生物多様性の日本」 草原の生物多様性を活かす	高橋佳孝	2009.02	森林環境 2009「生物多様性の日本」 (森林文化協会)	*29-41
10	バイオフィューミゲーションと還元土壌消毒を組み合わせたトマト萎凋病防除技術	竹原利明	2009.02	生物機能を活用した病害虫・雑草管理と肥料削減：最新技術集	*62-65

4) その他

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名、イベント名、対象者等	巻(号)、頁、 参加者数
1	日本在来のシヨクガタマバエを利用したアブラムシ類防除技術の開発に向けて	安部順一郎	2008.07	近中四農研ニュース	29,4
2	アブラナ科野菜の害虫について	安部順一郎	2008.07	生産者研修	*
3	農屋に頼らない害虫防除技術を使った野菜栽培	安部順一郎	2008.10	近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点一般公開講演	*
4	野菜栽培における環境調和型害虫防除技術	安部順一郎	2008.12	平成20年度近畿地域マッチングフォーラム「環境に優しく品質と収量を確保する野菜栽培の新技术」(農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター)	*,1-7
5	野菜栽培における天敵利用技術について	安部順一郎	2008.12	生産者研修	*
6	農業研究センターにおける肉牛の研究	相川勝弘	2008.06	平成20年度肉用牛中央研修会テキスト(島根会場)	*,41-43
7	米粉のはなしー米粉の歴史、米粉パンの作り方ー	荒木悦子	2008.09	近中四農研一般公開(福山)公開講座	約70名
8	ふっくらパンの秘密	荒木悦子	2009.01	くらしき作陽大学(依頼講演)	約135名
9	米粉利用の現状と米粉研究	荒木悦子	2009.02	近畿中国四国農業試験研究 作物生産推進会議	約70名
10	米粉利用で米の消費拡大を	荒木悦子	2009.03	近中四農研ニュース	32,4
11	胚乳形質変異米の品質特性の解析	芦田かなえ	2009.03	所特定研究成果発表兼研究員交流会	*
12	野生動物と出会ったら	江口祐輔	2008.04	NHK スタジオパーク	*
13	地域住民に対する被害対策の動機付けについて	江口祐輔	2008.05	四国地域野生鳥獣対策連絡協議会、四国地域鳥獣対策ネットワーク解散総会及び四国地域野生鳥獣対策ネットワーク設立総会	約50名
14	イノシシによる農林作物被害防止対策	江口祐輔	2008.06	大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会玖珠町公民館(大分県)	約20名
15	里山・田畑の生き物たち「食べて防ぐ鳥獣害対策」	江口祐輔	2008.06	第3回食育推進全国大会 ～ぐんま食育フェスタ2008～(内閣府、群馬県)	約130名
16	イノシシによる農林作物被害防止対策	江口祐輔	2008.06	大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会帆足望山荘(大分県)	約40名
17	イノシシ被害対策の失敗事例とその効果的な改善について	江口祐輔	2008.06	革新的農業技術取得研修(農林水産省)	約40名
18	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2008.06	野生鳥獣による被害対策研修(岡山県)	約150名
19	イノシシによる農林作物被害防止対策	江口祐輔	2008.06	大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会カウベルランド(大分県)	約50名
20	野生動物の立場、人間の立場	江口祐輔	2008.07	麻布大学獣医学部動物応用科学概論特別講師	約120名
21	イノシシと人の行動から見た農作物被害対策	江口祐輔	2008.09	農作物鳥獣害防止指導者育成研修(埼玉県)	約80名
22	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2008.09	自ら守る集落づくり研修会(豊後大野市担い手育成総合支援協議会)	約100名
23	農作物被害対策の考え方	江口祐輔	2008.10	イノシシに関わる農作物被害対策研修(三原市)	約20名
24	イノシシの運動能力と被害対策	江口祐輔	2008.10	鳥獣害防止研修(バイエルクロップサイエンス)	約50名
25	被害防止柵の設置実習	江口祐輔	2008.10	農作物鳥獣害防止指導者育成研修(埼玉県)	約80名
26	地域で守る鳥獣害対策	江口祐輔	2008.11	平成20年度第6回鳥獣被害防除対策研修(神奈川県)	約20名
27	イノシシ・サルの行動および被害防止対策について	江口祐輔	2008.11	平成20年度鳥獣害対策指導者育成研修会(熊本県)	約50名
28	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2008.11	第14回野生生物保護学会(長崎・佐世保)大会併催行事「自己農地を自分で守る!鳥獣被害防止対策研修会」(西九州地域鳥獣被害防止対策協議会)	約180名
29	鳥獣害対策・イノシシ1	江口祐輔	2008.11	日本農業新聞サイエンス欄	*

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
30	鳥獣害対策・イノシシ2 見通し利く環境に	江口祐輔	2008.11	日本農業新聞サイエンス欄	*
31	鳥獣害対策・イノシシ3 柵上部を折り曲げ	江口祐輔	2008.12	日本農業新聞サイエンス欄	*
32	鳥獣害対策・イノシシ4 ガインを外側に	江口祐輔	2008.12	日本農業新聞サイエンス欄	*
33	鳥獣害対策・イノシシ5	江口祐輔	2008.12	日本農業新聞サイエンス欄	*
34	オオカミの尿に対するイノシシの反応試験	江口祐輔	2008.12	近中四農研ニュース	31,5
35	飼料用稲の乾田条播直播栽培	藤本 寛	2008.12	平成 20 年度中国四国地域マッチングフォーラム「飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて」(農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター)	約 100 名
36	小麦加工食品の原料品種判別法の開発	藤田由美子	2008.06	世界麺フェスタ 2008 in さぬき 学術フォーラム(世界麺フェスタ 2008in さぬき実行委員会、近畿中国四国農業研究センター)	*
37	小麦加工食品の使用品種表示を確認できる DNA マーカー	藤田由美子	2009.03	近畿中国四国農業研究センター 2008 年度研究開発ターゲット成果	10
38	小麦加工食品の使用品種表示確認を目的とした DNA マーカーの開発	藤田由美子	2009.03	所特定研究成果発表兼研究員交流会及び特許講習会	約 70 名
39	第 11 章 ジオテキスタイルを用いた小規模石垣の修復法	福本昌人、川本 治	2008.04	カンキツ連年安定生産のための技術マニュアル	*,11_1-11_3
40	第 13 章 標高メッシュデータを用いた斜面崩壊危険度評価手法	福本昌人	2008.04	カンキツ連年安定生産のための技術マニュアル	*,13_1-13_5
41	中山間地域における台風時のパイプハウス設置地点の最大風速推定法	福本昌人	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,40-42
42	畦畔の植生管理と試験法	伏見昭秀	2008.08	耕地雑草の生態と防除研究に関する研修テキスト	*,104-117
43	畦畔の植生管理と試験法	伏見昭秀	2008.08	平成 20 年度都道府県農業関係研究員等専門研修(農研機構、中央農業総合研究センター、北海道農業研究センター、東北農業研究センター、近畿中国四国農業研究センター、九州沖縄農業研究センター)	約 70 名
44	畦畔法面の省力管理マニュアルから見える今後の畦畔管理研究の方向性	伏見昭秀	2008.12	カバークローブ研究	3,1-7
45	オランダの生活、食べ物	東出忠桐	2008.05	善通寺市聖母幼稚園ほし組	約 30 名
46	施設栽培トマトの生育モデル解析による増収管理手法の開発	東出忠桐	2008.06	農研機構平成 20 年度長期在外研究帰国報告会資料	*,1-5
47	雑誌からの関連記事	東出忠桐	2008.06	ニュースレター日本養液栽培研究会編	39,10-11
48	関連学会誌より	東出忠桐	2008.06	ニュースレター日本養液栽培研究会編	39,5-8
49	オランダにおける施設園芸の現場に活かされる研究	東出忠桐	2008.07	施設と園芸	142,67-71
50	オランダ・ワーゲニンゲン大学における長期在外研究	東出忠桐	2008.07	近中四農研ニュース	29,7
51	オランダにおけるトマトの収量および収量構成に対する過去 50 年の育種の影響(オランダ・ワーゲニンゲン大学在外研究)	東出忠桐	2008.07	SRC セミナー(近畿中国四国農業研究センター四国研究センター)	約 30 名
52	傾斜地の低コスト施設を利用した夏秋トマトの養液栽培	東出忠桐	2008.09	グリーンレポート	471,2-4
53	海外における開発動向(オランダにおける施設園芸研究の活用)	東出忠桐	2008.09	革新的農業技術習得研修 野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術(農研機構)	約 20 名
54	ワンポイントメモ オランダ ベルヘルデン・エネルギー生産温室	東出忠桐	2008.09	ハイドロポニックス(日本養液栽培研究会)	22(1),15

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
55	オランダにおけるトマトの収量増加に対する品種面の要因	東出忠桐	2008.11	第63回日本養液栽培研究会・栃木大会「養液栽培における循環型生産の方向～地域エネルギーと収益性～」(日本養液栽培研究会)	約110名
56	海外の施設園芸の最新情報	東出忠桐	2008.11	第63回日本養液栽培研究会・栃木大会「養液栽培における循環型生産の方向～地域エネルギーと収益性～」分科会(日本養液栽培研究会)	約30名
57	(成果7) 情報発信元の回答票	東出忠桐	2008.11	近畿中国四国農業研究成果情報フォローアップレビュー報告書(平成19年度実施)	*48-50
58	雑誌からの関連記事	東出忠桐	2008.12	ニューズレター日本養液栽培研究会編	40,7-10
59	傾斜地における夏秋トマト等の養液栽培技術の開発と効果	東出忠桐	2009.01	農業技術(農業技術協会)	64(1),16-35
60	オランダのトマト収量はどのように増加したのか―品種面からみて―	東出忠桐	2009.02	平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議野菜推進部会資料	*231-232
61	在外研究の経緯―これから在外研究を考えている方へ―	東出忠桐	2009.02	平成20年度野菜茶業試験研究推進会議栽培生理研究会	約30名
62	傾斜ハウスと傾斜地対応型養液供給システムを利用した夏秋トマトの実証栽培	東出忠桐	2009.03	平成20年度農研機構シンポジウム「地域資源活用による低コスト・省エネを目指した施設園芸生産の新たな展開」	約200名
63	Effect of breeding over the past 50 years on yield and its underlying components in tomato.	Tadahisa Higashide, Ep Heuvelink (Wageningen UR)	2009.03	Wageningen UR, Greenhouse Horticulture research seminar	約50名
64	消費者のカンキツに対する嗜好性は地域差がない?	平岡潔志	2008.07	香川の果樹	22(2),25-27
65	マルドリ栽培講習会	平岡潔志	2008.08	マルドリ栽培講習会(JA三重南紀)	26名
66	TDR型水分計による果樹園地土壌と枝の体積含水率測定方法	平岡潔志	2008.08	TDR水分計講習会	8名
67	香川はカンキツ産地としてどの程度知られているか?	平岡潔志	2008.11	香川の果樹	22(4),24-27
68	革新的農業技術習得研修「果樹の省力・低コスト等対応技術」	星 典宏	2008.07	革新的農業技術習得研修資料	*
69	カンキツ樹の水分状態を簡易に把握できる「水分ストレス表示シート」の開発	星 典宏	2008.10	今月の農業	10月号,19-24
70	温州ミカン樹の簡易な水分ストレス判別法	星 典宏	2008.12	近中四農研ニュース	31,4
71	新しい形質を持った米(新形質米)の育成	飯田修一	2008.09	アグリート(近畿農政局)	22,20
72	低アミロース・低グルテリン米品種「LGCソフト」	飯田修一	2008.12	中国コラボ農商工連携シーズ集	*75-76
73	GABA(ギャバ)が多く生成される巨大胚米「はいいぶぎ」	飯田修一	2008.12	中国コラボ農商工連携シーズ集	*77-78
74	はいいぶぎ栽培講習会	飯田修一	2009.01	JA能美	30名
75	近畿中国四国地域の土壌肥料研究成果概要	池田順一	2008.06	肥料(肥料協会新聞部)	*(110),91-95
76	肥料コスト低減に関する技術の情報提供	池田順一	2008.07	肥料コスト低減に関する近畿ブロック会議(近畿農政局)	46名
77	<i>Olpidium brassicae</i> の各系統が示すレタスビッグベイン並びにミラフィオリレタスウイルス媒介特性	井上博喜、宮川久義、石川浩一	2008.09	「難防除植物ウイルスの土壌生息オルピディウムによる媒介機構の解明」成果集(中央農研)	*31-33
78	指導者育成手法とカリキュラム計画法	井上雅央	2008.05	平成20年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修(静岡県産業部農林業局農業振興局)	*
79	鳥獣害から守る野菜の作り方	井上雅央	2008.05	美郷町吾郷婦人会	*
80	集落で取り組む営農改善と効率的被害防止	井上雅央	2008.05	和歌山県串本町商工農林課	*
81	鳥獣害の取組事例～社会科学の観点から～	井上雅央	2008.05	一橋大学	*
82	鳥獣害研究の動向と営農改善について	井上雅央	2008.05	山口県鳥獣被害防止対策協議会(山口県農林水産部)	*
83	イノシシ対策について	井上雅央	2008.06	美郷町	*

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
84	獣害対策研究の視点と事例	井上雅央	2008.06	革新的農業技術習得研修	*
85	電気柵の設置指導等	井上雅央	2008.06	京都府農業総合研究所	*
86	山ぎわの緩衝帯について イノシシ、シカ、サルの生態・防除等について	井上雅央	2008.06	福井県農林部農林水産振興課	150名
87	山の畑をサルから守る おもしろ生態とかしこい防ぎ方	井上雅央	2008.06	サル害対策講演会(新潟県川東地区猿害対策協議会)	30名
88	鳥獣被害対策について	井上雅央	2008.07	作木村婦人会	*
89	鳥獣被害対策の進め方	井上雅央	2008.07	大田市役所	*
90	1) 獣害・なぜ増える・どう防ぐ(講演) 2) 集落点検並びに防護資材の設置(実習)	井上雅央	2008.07	平成20年度第4回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会(大分県農林水産部森との共生推進室)	*
91	1) 集落で取り組む獣害対策(講演) 2) 川東地区被害助長要因の抽出と具体的被害対策(現地講義)	井上雅央	2008.07	福井地区広域鳥獣害対策協議会研修会(福井県福井農林総合事務所)	100名
92	イノシシを中心とした野生鳥獣被害の総合対策について	井上雅央	2008.07	阿南市農作物鳥獣害防止対策協議会	130名
93	野生鳥獣対策に必要な共通認識	井上雅央	2008.07	平成20～21年度奈良県農作物鳥獣害対策地域指導者育成研修会(奈良県)	20名
94	シカを主眼とした効率的柵設置ラインの決定手法	井上雅央	2008.07	平成20年度農業改良普及推進事業に係るプロジェクト検討会(奈良県農業総合センター)	25名
95	集落で取り組む営農改善と効率的被害防止	井上雅央	2008.07	鳥獣害対策講演会(串本町役場)	45名
96	1) 集落で取り組む獣害対策の基本的考え方 2) 被害助長要因の抽出法 3) 現場に即した実用策設置実習と指導法	井上雅央	2008.07	平成20年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修 第1部 主要加害鳥獣の被害防止対策(静岡県産業部)	75名
97	サル対策について	井上雅央	2008.08	大田市湯里公民館	*
98	イノシシ対策のポイント	井上雅央	2008.08	丹南地区鳥獣害対策研修会(福井県丹南農林総合事務所)	170名
99	獣害対策研究の視点と事例	井上雅央	2008.09	イノシシ・シカ保護管理計画合同検討会(広島県自然環境課)	*
100	みんなで取り組む獣害対策	井上雅央	2008.09	獣害対策研修会・鳥獣害に対応した集落づくり(十津川村)	100名
101	集落で取り組む営農改善と効率的被害防止	井上雅央	2008.09	平成20年度愛媛県鳥獣害対策指導者研修会(愛媛県庁農産園芸課担い手対策推進室)	60名
102	みんなで取り組む獣害対策	井上雅央	2008.09	愛媛県東予地方局今治支局地域農業室	60名
103	獣害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2008.09	神奈川県農業技術センター 普及指導部果樹花卉課	70名
104	獣害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2008.09	農作物等鳥獣被害防止対策講演会(田辺鳥獣害対策協議会他)	70名
105	集落で取り組む獣害対策の視点と事例	井上雅央	2008.10	鳥獣被害緊急対策モデル事業集落リーダー研修(鳥根県農林水産部森林整備課鳥獣対策室)	*
106	モンキー犬の有効性について	井上雅央	2008.10	大田市	*
107	サル対策について	井上雅央	2008.10	大田市五十猛公民館	*
108	サル対策の進め方について	井上雅央	2008.10	大田市水上公民館	*
109	集落環境診断方法と鳥獣被害対策のすすめ方	井上雅央	2008.10	平成20年度静岡県鳥獣害対策総合アドバイザー養成研修(静岡県農業協同組合中央会)	*
110	生産現場における鳥獣害の状況と防止対策	井上雅央	2008.10	農業生産・出荷に関する勉強会(農水省農産安全管理課)	*
111	上手な電気柵設置法と黒大豆の守り方	井上雅央	2008.10	平成20年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業に係るプロジェクト検討会(奈良県農業総合センター)	*
112	鳥獣被害(イノシシ、シカ、サル)対策について	井上雅央	2008.10	鳥獣被害対策研修会(鹿兒島県市町村会 経済振興室)	120名

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
113	鳥獣害(Ⅰ)～なぜ増える・どう防ぐ～ 鳥獣害(Ⅱ)～守れる畑と守れぬ畑～	井上雅央	2008.10	近畿中国四国農業研究センター四 国研究センター一般公開講演会 (近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター)	120名
114	鳥獣害対策について	井上雅央	2008.10	長寿大学(美郷町長寿大学)	14名
115	イノシシによる農作物被害防止対策のポ イント	井上雅央	2008.10	イノシシによる農作物被害防止に 係る研修会(福岡県みやま市)	70名
116	100歳までできる鳥獣害対策	井上雅央	2008.10	四国地域野生鳥獣対策ネットワー ク現地検討会	70名
117	みんなで取り組む獣害対策～猿害対策を 中心に～	井上雅央	2008.11	和歌山県東牟婁郡串本町商工農林 課	*
118	イノシシ被害を防ぐために	井上雅央	2008.11	平成20年度東予東部地域鳥獣害 被害防止対策研修会(愛媛県東予 地方局 産業振興課)	*
119	効果的な防除対策	井上雅央	2008.11	川本町役場政策推進課	*
120	獣害を寄せ付けない果樹剪定の仕方	井上雅央	2008.11	美郷町吾郷婦人会	*
121	効果的な防除対策	井上雅央	2008.11	平成20年度有害鳥獣被害対策現 地研修会(伊根町地域担い手育成 総合支援協議会)	*
122	獣害被害防止対策について	井上雅央	2008.11	鳥獣害シンポジウム(嶺南地域有 害鳥獣対策協議会)	*
123	サル出没現場の確認と地域における対策 上の留意点	井上雅央	2008.11	大田市高山連絡協議会	*
124	集落の活性化について	井上雅央	2008.11	平成20年度農作物鳥獣被害防止 対策研修(農水省生産局農業生産 支援課鳥獣被害対策室)	*
125	イノシシ被害対策について	井上雅央	2008.11	近畿中国四国農業研究センター (福山)	*
126	集落の猿害対策について	井上雅央	2008.11	備中町認定農業者協議会	*
127	獣害なぜ増える? どう防ぐ!	井上雅央	2008.11	鳥獣害対策講習会(矢掛町有害鳥 獣被害対策協議会)	*,1
128	みんなで防ぐイノシシ被害	井上雅央	2008.12	静岡県伊豆の国市	*
129	獣害対策マニュアルの留意点と現地実態 調査の読み方	井上雅央	2008.12	農村地域活性化連携推進調査検討 委員会鳥獣害検討部会(内外エン 지니어リング(株)東京支社)	*
130	集落みんなで取り組むサル防除について	井上雅央	2008.12	南会津地方サル対策セミナー(福 島県南会津農林事務所)	*
131	猪・鹿・猿による農作物被害を軽減する ための講演会	井上雅央	2008.12	農作物被害防止対策講演会(那智 勝浦町役場産業課農林係)	*
132	イノシシの生態と駆除について	井上雅央	2008.12	能美島野菜開発審議会	20名
133	レタスピッグベイン並びにミラフィオリ レタスウイルスを媒介する <i>Olpidium bras-</i> <i>sicae</i> 各器官におけるウイルス局在性の組 織学的解析	石川浩一、野見山孝司、 大崎秀樹	2008.09	「難防除植物ウイルスの土壌生息 オルピディウムによる媒介機構の 解明」成果集(中央農研)	*,19-22
134	レタスピッグベイン並びにミラフィオリ レタスウイルスの媒介機構に関与する生 体分子の探索	石川浩一、野見山孝司、 大崎秀樹	2008.09	「難防除植物ウイルスの土壌生息 オルピディウムによる媒介機構の 解明」成果集(中央農研)	*,35-38
135	レタスピッグベインおよびミラフィオリ レタスウイルスを媒介する <i>Olpidium bras-</i> <i>sicae</i> 検出法の開発	石川浩一、野見山孝司、 大崎秀樹	2008.09	「難防除植物ウイルスの土壌生息 オルピディウムによる媒介機構の 解明」成果集(中央農研)	*,53-56
136	製粉しやすく、おいしいそうめんがで きる小麦新品種「ふくはるか」	石川直幸	2009.03	近畿中国四国農業研究センター 2008年度研究開発ターゲット成 果	*,9
137	製粉しやすく、おいしいそうめんがで きる小麦新品種「ふくはるか」-小麦の自 給率向上と地産地消を目指して-	石川直幸	2009.03	近中四農研ニュース	32,8
138	西南暖地とサトウキビ	石川葉子	2009.02	畜産草地分野研究交流会(畜草研)	約130名
139	地域農業確立総合研究中国中山間水田に おける飼料用稲を基軸とする耕畜連携シ ステムの確立	亀井雅浩	2008.05	竹谷農林水産技術会議事務局長視 察資料(近畿中国四国農業研究セ ンター)	*,36-42
140	中山間地域における低コスト水田輪作を 目指して-担い手プロ(土地利用型作物・ 温暖地湿田型)の研究計画と水稲生産コス ト-	亀井雅浩	2008.07	平成20年度近畿地域稲作中間検 討会(近畿農政局)	*,155-165

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
141	稲発酵粗飼料(WCS)生産・利用の耕畜連携に向けて	亀井雅浩	2008.08	平成20年度中国地区JA営農指導員交流会(岡山県農業協同組合中央会)	*1-32
142	近畿中国四国農業研究センターにおける自給率向上に向けた研究の現状と展開方向ー水田作(輪作, 耕畜連携, バイオマス利用, 育種等)	亀井雅浩	2008.11	平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議(近畿中国四国農業研究センター)	*163-171
143	飼料用稲を基軸とする耕畜連携システムの導入・普及に向けて	亀井雅浩	2008.12	平成20年度中国四国地域マッチングフォーラム「飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて」(農林水産省農林水産技術会議事務局, 近畿中国四国農業研究センター)	*1-8
144	飼料用稲の小型ロールベール収穫・調製体系	亀井雅浩、宗重 学((株)タカキタ)、高橋仁康、奥野林太郎、窪田 潤	2008.12	平成20年度中国四国地域マッチングフォーラム「飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて」(農林水産省農林水産技術会議事務局, 近畿中国四国農業研究センター)	*28
145	稲・麦・大豆の省力・低コスト生産技術	亀井雅浩	2009.01	稲・麦・大豆を中心とした土地利用型作物の生産性向上セミナー(中国四国農政局)	*1-14
146	稲作が「除草いらず」に 再生紙マルチ水稲直播栽培	亀井雅浩、藤原隆広((株)ジャグロンズ)	2009.02	全国農業新聞	13,5
147	特集 中山間地域における農作業の機械化新技術	亀井雅浩	2009.03	農業機械学会誌	71(2),3
148	傾斜地用養液栽培装置の培養液管理技術ー理論と実際ー	笠原賢明	2008.09	革新的農業技術習得研修「野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術」講義資料	約10名
149	飼料用稲導入が地域社会に及ぼす影響	加藤克明	2008.07	平成19年度岡山県草地区協会・研修会・講演(岡山市)	*
150	(ポスター報告) 飼料用稲の導入は地域農業の組織化の契機となりうる	加藤克明	2008.12	平成20年度中国四国地域マッチングフォーラム「飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて」(農林水産省農林水産技術会議事務局, 近畿中国四国農業研究センター)	*
151	「食」について考える	河合 章	2008.10	仲善教育会報	214,1
152	すばらしい大豆の栄養・機能性を食に生かそう~大豆の「機能性と食」研究の最前線~・第2部	川瀬眞市朗	2008.07	食文化学部商品開発交流研究センター公開講座『すばらしい大豆の栄養・機能性を食に生かそう~大豆の「機能性と食」研究の最前線~』(くらしき作陽大学)	61名
153	豆腐加工適性説明	川瀬眞市朗	2008.09	平成20年度農林水産省委託プロジェクト研究「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発(大豆系)」「担い手の育成に資するIT等を活用した新しい生産システムの開発ー超低コスト土地利用型作物生産技術の開発(温暖地湿田型水田輪作地帯)」合同現地検討会	20名
154	大豆品種サチユタカの豆腐加工適性	川瀬眞市朗	2008.12	近中四農研ニュース	31,3
155	ダイズの主要害虫の発生と防除対策	菊地淳志	2008.04	今月の農業(化学工業日報社)	52(4),48-52
156	カメムシによるダイズの青立ち	菊地淳志	2008.09	平成20年度農林水産省委託プロジェクト研究「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発(大豆系)」「担い手の育成に資するIT等を活用した新しい生産システムの開発ー超低コスト土地利用型作物生産技術の開発(温暖地湿田型水田輪作地帯)」合同現地検討会(近畿中国四国農業研究センター)	約60名
157	マルカメムシの生態とダイズ栄養生長期の被害	菊地淳志	2008.12	第51回高知昆虫学セミナー(高知大学)	約30名
158	病虫害図鑑 マメシクイガ	菊地淳志	2009.01	日本農業新聞	22,16

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
159	マルカメムシの栄養生長期寄生がダイズに及ぼす影響	菊地淳志	2009.03	近畿中国四国農業研究センター 2008年度研究開発ターゲット成果	3
160	「防根ひも給水」～近畿中国四国農業研究センターにおける取り組み～	木下貴文	2008.11	「植物と水」を考える科学体験講座(岡山大学)	約30名
161	「防根給水ひも」によるトマトの省力・省資源・環境保全型簡易栽培法	木下貴文、 榎田正治(岡山大)	2009.03	平成20年度農研機構シンポジウム	約180名
162	寒地型牧草の旬は冬?	小林英和	2008.07	近中四農研ニュース	29,5
163	大豆麦跡不耕起密植栽培の要点について	窪田 潤	2008.08	香寺町営農組合研究会	約30名
164	近畿中国四国地域における中山間地振興に関わる試験研究	熊倉裕史	2008.08	第1回中山間地域等条件不利地農業研究会(九州沖縄農業試験研究推進会議野菜花き推進部会)	31名
165	カンキツ③機能性成分β-クリプトキサンチン高含有品種の育成ー	國賀 武	2008.04	今月の農業	52(5)42-51
166	「チャングムの誓い」と松坂大輔とカンキツ	國賀 武	2008.04	柑橘	60(3),24-27
167	JA香川県善通寺支店柑橘部会通常総会記念講演「これからのカンキツをどうするか」	國賀 武	2008.04	JA香川県善通寺支店柑橘部会通常総会記念講演	約100名
168	カンキツに日焼けをさせると腐りにくくなる?	國賀 武	2008.05	香川の果樹	22(1),27-29
169	「空海の風景」とカンキツ類のカロテノイド	國賀 武	2008.09	柑橘	60(12),24-28
170	100年前の余剰柑橘対策	國賀 武	2008.09	柑橘	60(9),24-28
171	第11回国際カンキツ学会に参加して(上・分子生物、育種)	國賀 武	2009.01	香川の果樹	22(6),24-27
172	第11回国際カンキツ学会に参加して(下・機能性成分、ブラッドオレンジ、病害虫)	國賀 武	2009.03	香川の果樹	22(5),25-27
173	温暖化に関する取り組み	黒瀬義孝	2008.07	岡山県農林水産業温暖化研究チーム会議資料	*,1-3
174	農作物の安定生産を目指してー灌水の必要性が一目で分かる簡易土壌水分計ー	黒瀬義孝	2009.02	アグリート(近畿農政局)	23,20
175	黒大豆の安定生産を目指してー簡易土壌水分計による水管理ー	黒瀬義孝	2009.03	平成20年度近畿地域農業気象協議会資料	*
176	局地気象の把握に関する研究	黒瀬義孝	2009.03	生物と気象	9,1-6
177	安定生産につなげる環境制御技術 天窓による平張型傾斜ハウスの自然換気促進	畔柳武司	2008.09	平成20年度革新的農業技術習得研修「野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術」	11名
178	中国の省エネルギー温室「日光温室」について	畔柳武司	2009.02	平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議農業環境工学推進部会	37名
179	CFD解析による温室の環境予測と設計支援	畔柳武司	2009.03	農業機械開発改良試験研究打合せ会議 園芸・特作分科会	約69名
180	放牧を活用した経産牛の高付加価値化技術	松本和典	2008.10	アグリビジネス	*
181	繁殖を引退したメス牛の放牧仕上げ肥育ー安全・安心でヘルシーな牛肉の生産に向けてー	松本和典	2009.03	FACE(中国四国農政局)	12,12
182	ホールクroppサイレージ用の飼料用稲専用品種	松下 景	2008.12	平成20年度中国四国地域マッチングフォーラム「飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて」(農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター)	約80名
183	多収稲品種育成の現状	松下 景	2009.02	近畿中国四国農業研究推進会議作物生産部会	資料2,8
184	微生物の辞典 ウォルバキアによる単為生殖	三浦一芸	2008.09	朝倉書店	*
185	食育目的の料理教室が食材や地場野菜のイメージを変える効果	室岡順一	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,49-51
186	料理教室で食育効果を高めるための工夫	室岡順一	2008.12	行政・研究マッチングフォーラム地域の農業施策が求める社会科学研究とは	46名

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
187	アミノ酸とGABAたっぷり 大麦の機能性確認	長嶺 敬、野方洋一、五月女敏範(栃木農試)	2008.09	日本農業新聞	24,13
188	ビール大麦の粗蛋白質含量の適正化に向けて(他県の事例を中心に)	長嶺 敬	2008.10	岡山県麦作振興大会(JA全農おかやま)	*,100
189	強くて、快適な園芸用ハウスー平張型ハウスの試み	長崎裕司	2008.07	近中四農研ニュース	29,3
190	換気性に優れ、低コストで高強度なハウスづくりを支援する平張型ハウス設計・施工マニュアル(暫定版)	長崎裕司	2008.10	近畿中国四国農業研究センターホームページ	*
191	施設野菜における環境保全的な栽培管理技術ー作業技術からの視点でー	長崎裕司	2008.10	平成20年度九州沖縄農業試験研究推進会議農業機械・土木研究会	約40名
192	近畿中国四国農業研究センターにおける自給率向上に向けた研究の現状と今後の展開ー施設園芸、野菜作ー	長崎裕司	2008.11	平成20年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議	約60名
193	日本の施設園芸における省力機器開発ーロボットを基幹とした超省力・低コスト施設園芸技術開発の取組を例にー	長崎裕司	2008.12	日中友好施設園芸研討会(中国農業大学)	約100名
194	傾斜地における夏秋トマト生産に対応した平張型傾斜ハウスの開発	長崎裕司	2009.01	農業技術	*
195	傾斜地における夏秋トマト生産に対応した平張型傾斜ハウスの開発	長崎裕司	2009.01	農業技術(農業技術協会)	64,11-15
196	水田作や経営規模に対応した加工・業務用野菜の低コスト・安定生産技術	長崎裕司	2009.01	近畿地域における加工・業務用野菜課題検討セミナー「水田作や経営規模に対応した野菜の生産・流通体制の構築」(近畿農政局)	約40名
197	中山間地の多様な地形に対応した低コスト・高強度ハウスの施工技術	長崎裕司	2009.03	平成20年度農研機構シンポジウム「地域資源活用による低コスト・省エネを目指した施設園芸生産の新たな展開」講演要旨	*,54-59
198	中山間地における野菜作の施設・機械化技術	長崎裕司	2009.03	農業機械学会誌	71(2),8-11
199	胴割れ米は登熟初期のかけ流しで減る	長田健二	2008.08	現代農業((社)農山漁村文化協会)	87(8),119-121
200	水稻の高温登熟障害対策の現状と新形質米の開発状況	長田健二	2008.08	JAグリーン近江・能登川特別栽培米グループ研修会(JAグリーン近江)	13名
201	地球温暖化と国内米生産の課題	長田健二	2008.09	2008年版農産物流通技術年報(農産物流通技術研究会編、流通システム研究センター)	*,58-63
202	半矮性インド型多収品種の登熟特性	長田健二	2008.09	「水稻超多収栽培モデルの構築と実証」プロジェクト現地検討会	29名
203	胴割れ粒の発生要因と軽減対策	長田健二	2008.10	平成20年度革新的農業技術習得支援事業(革新的な新技術の習得)「水稻の温暖化対応技術」	約30名
204	地球温暖化が作物に及ぼす影響(水稻を中心として)	長田健二	2008.11	高槻市農業委員会研修会(高槻市農業委員会)	約30名
205	温暖化が水稻生産におよぼす影響と適応策	長田健二	2008.12	農業者大学校専修科先端的水田農業経営戦略コース	7名
206	胴割粒発生の要因と対策	長田健二	2009.02	平成20年度丹生地区米づくり研修会(丹南農林総合事務所 他)	約70名
207	水稻高温障害への対策	長田健二	2009.03	JA岡山藤田種子生産者組合研修会(JA岡山)	約30名
208	階段園における運搬車活用のための小規模園地改造技術	中元陽一、田中宏明	2008.08	果樹園芸	61(8),4-9
209	卒業生からのメッセージ	中野善公	2008.09	京都大学大学案内「知と自由への誘い2009」	*,71
210	ふすまから製造される血圧降下ペプチド	野方洋一	2008.06	世界麺フェスタ2008 in さぬき	**,
211	小麦種子の硬さを制御する成分	野方洋一	2008.06	世界麺フェスタ2008 in さぬき	**,
212	小麦ふすま、大麦糠、米糠からの新規アンジオテンシンI阻害ペプチドとその製造法	野方洋一	2008.10	アグリビジネス創出フェア	**,
213	疎植に挑むー水稻の新しい波	大平陽一	2008.06	日本農業新聞	11,14
214	疎植に挑むー水稻の新しい波	大平陽一	2008.06	日本農業新聞	12,14
215	漏生イネ対策	大平陽一	2009.03	稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルH20改訂版	*

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
216	飼料イネ種籾の発生に及ぼす石灰窒素処理の影響	大平陽一、佐々木良治、長田健二	2009.03	平成20年度 近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 問題別研究会 育種栽培検討会 栽培研究会	*5-8
217	書評(大原興太郎編著「有機的循環技術と持続的農業」)	尾島一史	2008.12	農業経営研究	46(3),27-28
218	有機農業モデルタウンの現状と取組支援方策	尾島一史	2008.12	行政・研究マッチングフォーラム 地域の農業施策が求める社会科学研究とは	*
219	不耕起栽培(近畿・中国・四国)	岡部昭典、窪田 潤	2008.05	年版農業技術 作物 2008(農山漁村文化協会)	*29-32
220	近畿・中国・四国地域におけるダイズ栽培と主要品種の動向	岡部昭典	2008.07	農耕と園芸	7,108-109
221	大豆 300A 研究の成果と普及実績	岡部昭典	2008.07	近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会(第1回)(近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会)	約30名
222	暖地・温暖地での大豆栽培と品種の選び方	岡部昭典	2008.08	平成20年度革新的農業技術習得支援事業(作物研)	約15名
223	大豆の安定生産を目指した新技術の開発について	岡部昭典	2008.08	平成20年度大豆生産等現地検討会(中国四国豆類生産振興需要拡大推進委員会)	約60名
224	豆腐の加工に適した大豆新品種の育成に向けて	岡部昭典	2008.09	近中四農研ニュース	30,5
225	豆腐の加工に適した大豆の開発	岡部昭典	2008.10	FACE(中国四国農政局)	10,12
226	大豆9系統を開発	岡部昭典	2008.10	日本農業新聞	*20
227	大豆の安定生産技術と育種について	岡部昭典	2009.01	水稲・大豆部会研修会(JA尾道市)	30
228	供試系統の栽培特性及び品質評価結果	岡部昭典	2009.02	国産大豆品種の品質評価結果(農林水産省生産局農産振興課)	*
229	IV.-4.-B.小麦の生育早晚の推定	奥野林太郎、岩田幸良	2008.06	北海道農業のためのリモートセンシング実利用マニュアル改訂版(北農会編)(国交省北海道開発局発行)	*43-45
230	IV.-4.-C.小麦適期収穫支援システム	奥野林太郎、岩田幸良	2008.06	北海道農業のためのリモートセンシング実利用マニュアル改訂版(北農会編)(国交省北海道開発局発行)	*46-52
231	IV.-4.-D.倒伏実態の把握	奥野林太郎、岩田幸良、志賀弘行(北海道中央農試)	2008.06	北海道農業のためのリモートセンシング実利用マニュアル改訂版(北農会編)(国交省北海道開発局発行)	*53-55
232	衛星リモートセンシング活用もすでに実用化農業情報の測定と有効利用について研究進む	奥野林太郎	2008.07	農業経営者(農業技術通信社)	16(8),67
233	農業機械での計測・制御のためのネットワークシステム	奥野林太郎	2008.09	近中四農研ニュース	30,4
234	速度連動の散布制御	奥野林太郎	2008.11	農機新聞	25,7
235	繁殖牛の飼養管理	大島一修	2008.06	平成20年度肉用牛中央研修会(鳥根会場)(社団法人全国肉用牛振興基金協会)	約40名
236	在来草種への植生転換と多段テラスによる大規模畦畔法面の省力管理システム	大谷一郎、亀井雅浩、伏見昭秀	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,4-6
237	畦畔の草刈りを省力化	大谷一郎	2008.09	農業日誌(社団法人全国農林統計協会連合会)	平成21年,150-151
238	あぜ管理の省力化をめざして	大谷一郎、亀井雅浩	2009.02	日本農業新聞	16,8
239	水稲の高温対策ならびに新品種の動向について	佐々木良治	2008.08	JA兵庫六甲(三田)稲作技術研究会研修会	12名
240	水稲の高温障害対策について	佐々木良治	2008.09	伊予地区種子生産協議会研修会	約50名
241	水稲栽培の新技術(高温障害対策,新品種・新技術など)	佐々木良治	2008.11	JA鳥取西部(伯耆町添谷集落)研修会	約35名
242	水稲の粒重増加速度に及ぼす高温の影響と穂上位置による差異	佐々木良治	2008.12	平成20年近畿中国四国農業試験研究推進会議問題別研究会(農業気象)	*33-36

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
243	食品機能性の科学 第1部・第8章・第4節 大豆イソフラボンの機能—試験管、動物試験から	関谷敬三	2008.04	(株)産業技術サービスセンター	*205-212
244	食品技術総合事典 I -1.3.1.大豆の生体調節機能 B イソフラボン等その他の成分	関谷敬三	2008.06	朝倉書店	*51-55
245	ショウガ	関谷敬三	2008.06	産経新聞	23,13
246	農産物の健康機能性	関谷敬三	2008.07	普通寺市内小学校教諭理科研修(近畿中国四国農業研究センター)	約25名
247	ショウガの辛味成分	関谷敬三	2008.08	日経ヘルス プルミエ(10月号、日経BP社)	1(6),76-77
248	大豆等農作物の健康機能性と安全性	関谷敬三	2008.08	機能性成分のベネフィットとリスク及びリスク評価・管理の実際(福山大学)	約30名
249	メタボ予防に向けた脂肪細胞機能を制御する食品成分	関谷敬三	2009.03	平成20年度健康・医療産業振興情報提供講座(財団法人とくしま産業振興機構、徳島県立工業技術センター)	約30名
250	飛ばないテントウムシ 福山の研究センター開発 害虫駆除に期待	世古智一	2008.12	山陽新聞	17,1
251	飛ばないテントウムシ作出 近畿中国四国農研センター 露地用天敵で効果持続	世古智一	2008.12	日本農業新聞	2,19
252	テントウムシ飛ばずに貢献 生物農薬繁殖に成功 近畿中国四国農研センター	世古智一	2008.12	中国新聞	22,22
253	農業害虫防除に使える飛ばないテントウムシ	世古智一	2008.12	FM ふくやま	24,*
254	骨格筋形成決定の分子機序	亀井康富(東京医歯大)、河内浩行(京都大)、柴田昌宏、小川佳宏(東京医歯大)	2008.10	化学と生物	46(10),697-701
255	香川県立農業大学校農業気象学講義(計4回)	柴田昇平	2008.09-10	農業気象講義資料	*
256	新規参入者の支援—施設園芸作の創業を中心に—	島 義史	2008.07	近畿中国四国農業試験研究推進会議平成20年度「営農推進部会」問題別研究会	約50名
257	新規参入者の経営実態と新規参入支援方策	島 義史	2008.12	行政・研究マッチングフォーラム地域の農業施策が求める社会科学研究とは	約50名
258	果樹園地における豪雨時排水のための簡易排水路設置などによる小規模園地整備	島崎昌彦	2008.11	今月の農業	52(12),87-91
259	細菌群集構造解析のための植物根からの迅速かつ簡便なDNA抽出法	須賀有子	2009.03	近畿中国四国農業研究センター2008年度研究開発ターゲット成果	*20
260	地球温暖化「現状と今後の予測される影響」	菅谷 博	2008.12	平成20年度第1回地球温暖化専門部会資料(徳島県)	*
261	家畜飼料用稲の育成	春原嘉弘	2008.08	アグリート(近畿農政局)	21,20
262	新時代のムギ 品種選択「パン用コムギ」	高田兼則	2008.05	年版農業技術作物2008(農文協)	*132-138
263	小麦粉の科学	高田兼則	2008.06	世界麵フェスタ2008 in さぬき 学術フォーラム市民講座(世界麵フェスタ2008 in さぬき 実行委員会、近畿中国四国農業研究センター)	約500名
264	FM ふくやま おはようときめきタイム	高田兼則	2008.07	FM ふくやま	*
265	小麦栽培から始めるパンづくりパンづくりの科学	高田兼則	2008.08	山口大学公開講座(山口大学)	約30名
266	種類・品種の加工特性と加工用途	高田兼則	2008.11	食品加工総覧(農文協)	追5(9),277-284
267	地域生産地域消費活動評価法の必要性和意義および方法論	高橋太一	2008.10	地産地消評価法検討会	*1-10
268	有機農業の経営活動と農産物流通からみる経営研究の視点	高橋太一	2008.11	九州沖縄農業研究センター	約30名
269	地産地消評価法検討会の紹介	高橋太一	2008.12	行政・研究マッチングフォーラム地域の農業施策が求める社会科学研究とは	*65-73

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
270	有機農業経営活動展開にみる経営研究 これからの課題	高橋太一	2008.12	東北農業経営研究	26,43-59
271	鮮度、安全性が直売所の魅力!	高橋太一	2008.12	聖教新聞	*,10
272	地産地消評価法についての予備的検討	高橋太一	2009.02	平成20年度推進会議営農部会	Ⅲ,2-11
273	流域物質輸送の評価のためのGISモデル 解析	高橋英博	2008.07	平成20年度第2回陸域環境研究会 (広島大学)	約20名
274	流域水循環モデルによる不均一性の評価	高橋英博	2008.12	平成20年度第3回陸域環境研究会 (広島大学)	約15名
275	中山間地域の再生を	高橋仁康	2008.06	平成20年度九州大学農業工学研究 会講演会「いま変わる中山間地 の農業!!!～鹿児島・大分・広島 を舞台にして～」(九州大学農業 工学研究会)	約100名
276	新開発ロータリでジャンボタニシの食害 を減らす	高橋仁康	2008.11	第2回生産システム科学セミナー 糸島現代GPセミナー(九州大学 大学院農学研究院生物生産工学研 究室糸島現代GP)	約30名
277	和牛放牧繁殖のすすめ(50)	高橋佳孝	2008.05	養牛の友(日本畜産振興会)	*,62-65
278	森林の国で野原を守る～草の使い回しが 多様性のカギ～	高橋佳孝	2008.05	国連環境計画 生物多様性の日記念 シンポジウム 里地里山の生物多様 性ー農業と森林を繋ぐー(森林総 合研究所、早稲田大学環境総合研 究センター)	約300名
279	森林の国で野原を守る～草の使い回し (循環)がキーワード～	高橋佳孝	2008.06	全国茅葺き民家保存活用ネット ワーク協議会第9回シンポジウム 復活しよう茅刈りの風景～茅場と 茅葺きのつくる文化的景観～(全 国茅葺きネットワーク協議会・下 郷町)	約120名
280	知っておきたい放牧の効果(1) 地域資源 を活用した和牛放牧の新たな展開	高橋佳孝	2008.07	養牛の友(日本畜産振興会)	6,31-45
281	阿蘇の魅力は協働の魅力	高橋佳孝	2008.07	野焼き支援ボランティア活動10 周年記念シンポジウム(阿蘇グ リーンストック)	約170名
282	守れ!雲月の宝～雲月山の山焼き～	高橋佳孝	2008.07	雲月小学校PTA講演会(北広島町 立雲月小学校PTA)	約40名
283	地域資源を有効活用した放牧の新たな展 開	高橋佳孝	2008.07	平成20年度肉用牛中央研修会(全 国肉用牛振興基金協会)	約45名
284	遊休地の草資源活用し放牧畜産を	高橋佳孝	2008.08	AFCフォーラム(農林漁業金融公 庫)	*,7-10
285	地域資源を生かした放牧のすすめ	高橋佳孝	2008.08	平成20年度京都府畜産技術セン ター-淀高原牧場技術発表会(京 都府畜産技術センター)	約55名
286	知っておきたい放牧の効果(2) 広がり をみせる放牧の活用場面	高橋佳孝	2008.09	養牛の友(日本畜産振興会)	*,62-65
287	放牧地における植生、栄養成分の特徴に ついて	高橋佳孝、堤 道生	2008.09	新たな農林水産政策を推進する実 用化技術開発事業「環境に配慮し た小規模移動放牧における繁殖 と牛の飼養管理技術」公開シンポ ジウム(近畿中国四国農業研究セ ンター)	約130名
288	草地管理のあり方などについて	高橋佳孝	2008.10	平成20年度自然公園等管理運営 技術者講習会(国立公園協会)	約20名
289	地域資源を活用した肉用牛放牧の奨め	高橋佳孝	2008.10	平成20年度中央畜産技術研修会 (肉用牛)(農林水産省畜産課)	約60名
290	知っておきたい放牧の効果(3) 牛の放牧 で竹害を抑制	高橋佳孝	2008.11	養牛の友(日本畜産振興会)	*,64-67
291	国立公園の管理運営について	高橋佳孝	2008.11	自然保護官等研修Ⅲ(環境省環境 調査研修所)	約30名
292	遊休地草資源を活用した放牧畜産の最近 の話題	高橋佳孝	2008.12	肉用牛放牧に関する情報交換会～ 荒れた農地 牛が草刈り 飼料費減 らし 景観保全～(京都府)	約100名
293	知っておきたい放牧の効果(4) 草資源の 利用のシステムが重要	高橋佳孝	2009.01	養牛の友(日本畜産振興会)	*,64-67
294	知っておきたい放牧の効果(5)	高橋佳孝	2009.03	養牛の友(日本畜産振興会)	**,

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
295	大豆の病害虫防除のポイント	竹田博之	2008.05	農業共済新聞	7,10
296	大豆の莢先熟(青立ち)対策	竹田博之	2008.06	大豆栽培講習会、JA 周桑営農管理研修センター	約 40 名
297	大豆を知る	竹田博之	2008.06	総合学習授業	約 70 名
298	地下水位調節システムを利用した大豆の収量の安定化と梅雨明け後播種栽培技術の確立	竹田博之	2008.09	H20 年度農林水産省委託「加工プロ」、「担い手プロ」合同現地検討会資料	約 60 名
299	土壌病害虫の生物的制御技術―「生物的土壌消毒」の提案―	竹原利明	2008.12	有機農業研究者会議 2008 資料集 (NPO 法人有機農業技術会議)	約 70 名
300	水田転換畑作ダイズで問題となる病害虫と今後の対応方策―診断マニュアル作成への模索―	竹原利明	2009.02	平成 20 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 生産環境推進部会重点検討事項「食料自給率向上に資する生産支援技術―耕地の高度利用技術及び生産阻害要因への対策―」の話題提供	約 100 名
301	バイオフィューミゲーションと土壌還元消毒等を組合せたトマト萎凋病防除法の開発	竹原利明、井上博喜、宮川久義	2009.03	プロジェクト研究成果：生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発	*,*
302	細根を増加させるための小型機械を利用した土壌改良	瀧下文孝	2008.04	カンキツ連年安定生産のための技術マニュアル	*,41-45
303	ウンシュウミカンの樹勢を把握するための葉面積指数と細根量	瀧下文孝	2008.09	香川の果樹	141,25-27
304	水稻の鉄コーティング湛水直播栽培	棚田光雄	2008.07	農業経営通信	236,10
305	中山間地域における広域的連携による集落営農法人の展開―広島県三次地域「大豆ネットワーク」の取り組み事例―	棚田光雄	2008.12	近畿中国四国農研農業経営研究	18,72-91
306	中山間地域の集落営農における水田輪作の導入条件	棚田光雄	2008.12	行政・研究マッチングフォーラム地域の農業施策が求める社会科学研究とは	約 50 名
307	集落営農法人による「麦―大豆作」―収量水準と意義―	棚田光雄	2009.03	近中四農研ニュース	32,3
308	旋回動作が不要なスイッチバック式電動クローラ運搬車	田中宏明、中元陽一、大黒正道、畔柳武司、角川 修	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,37-39
309	傾斜地階段園における省力化のための技術開発	田中宏明、中元陽一	2009.01	今月の農業(化学工業日報社)	53(1),95-99
310	農産物直売所の地域経済効果について	友國宏一	2008.08	KCT ワイド 備中食聞録(倉敷ケーブルテレビ)	*
311	シバ型半自然草地における植物の多様性簡易調査法	堤 道生	2009.03	近畿中国四国農業研究センター 2008 年度研究開発ターゲット成果	*,15
312	においによるイノシシの行動制御	上田弘則、江口祐輔	2008.04	NAIS アグリバイオサイエンス No4 動物・昆虫の行動メカニズムを解明する	*,46-48
313	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.05	世羅町農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー研修会(広島県世羅町)	約 20 名
314	イノシシ野外試験の実際と被害防止対策	上田弘則	2008.06	平成 20 年度革新的農業技術習得研修委託事業高度先進技術研修(近畿中国四国農業研究センター)	約 40 名
315	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.07	鳥獣害対策研修会(広島県神石高原町大谷営農組合)	約 20 名
316	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.07	鳥獣害対策研修会(広島県三原市国兼地区中三間地域振興組合)	約 20 名
317	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.10	伊方町農作物野生鳥獣被害対策研修会(愛媛県伊方町)	約 100 名
318	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.10	イノシシを中心とした野生鳥獣による農作物被害対策講習会(徳島市)	約 30 名
319	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.10	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー研修会現地研修(徳島県神山町)	約 30 名

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
320	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.10	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー研修会現地研修(徳島県つるぎ町)	約30名
321	イノシシの草地利用	上田弘則	2008.10	近畿地域野生鳥獣対策連絡会議(近畿地域野生鳥獣対策連絡協議会)	約30名
322	イノシシの生態・被害対策について	上田弘則	2008.10	徳島県鳥獣被害対策指導員養成研修(徳島県)	約50名
323	イノシシの被害対策	上田弘則	2008.11	鳥獣害対策先進地視察研修会(田辺市鳥獣害対策協議会)	約10名
324	イノシシの生態と被害対策のヒント	上田弘則	2008.11	自己農地を自分で守る鳥獣害防止対策研修会(西九州地域鳥獣害防止対策協議会)	約150名
325	被害対策について	上田弘則	2008.11	鳥獣害対策先進地視察研修会(愛媛県東予地方局)	約20名
326	イノシシの生態・被害対策について	上田弘則	2008.12	中予地区鳥獣害防止対策研修会(愛媛県中予地方局)	*
327	サル・イノシシ・シカの被害対策	上田弘則	2008.12	佐那河内神山地域鳥獣害防止対策研修会(佐那河内神山地域鳥獣害防止広域対策協議会)	約10名
328	サル・イノシシの被害対策	上田弘則	2008.12	神山町広野地区鳥獣害防止対策講演会(徳島県神山町)	約10名
329	サル・イノシシ・シカの被害対策	上田弘則	2008.12	神山町下分地区鳥獣害防止対策講演会(徳島県神山町)	約20名
330	サル・シカの被害対策	上田弘則	2008.12	佐那河内村鳥獣害防止対策講演会(徳島県佐那河内村)	約20名
331	高解像メッシュ気温データの作成	植山秀紀	2008.08	農林水産研究情報センターニュース	22,*
332	九州地域の気象メッシュの家畜生産における活用	植山秀紀	2008.09	平成20年度農研機構シンポジウム「高温環境下における家畜の生理機能応答と生産への影響低減技術の開発」	*,38-41
333	1kmメッシュの将来気候データを作成する方法	植山秀紀	2009.03	近畿中国四国農業研究センター2008年度研究開発ターゲット成果	*,21
334	農家核所得者の就業選択—自営農業就業・恒常的勤務就業の二者択一のモデル—	渡部博明	2008.12	近畿中国四国農業経営研究	18,54-62
335	平成21年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業研究報告書(18018)	山本直幸	2009.03	平成21年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業研究報告書	*,1-51
336	高温によるイチゴの収穫時期の遅れを軽減!	山崎敬亮	2008.06	北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008のチラシ	*
337	打ち水で涼しく②培地の下に送風 五度低下	山崎敬亮	2008.09	現代農業(農山漁村文化協会)	87(8),150-151
338	排液循環型イチゴ高設栽培における培地の昇温抑制技術	山崎敬亮	2008.09	平成20年度革新的農業技術習得支援研修「高温条件が野菜生産に及ぼす影響と昇温緩和技術」	約30名
339	人・地球にやさしいイチゴ高設栽培で温暖化に立ち向かう	山崎敬亮	2008.10	綾部研究拠点一般公開講演	約50名
340	イチゴ高設栽培法と温暖化に適応した簡易な培地冷却技術	山崎敬亮	2008.11	京都府舞鶴いちご専門部会研修会	約20名
341	イチゴ生産地での問題点とそれに対応する有望技術について	山崎敬亮	2008.11	滋賀県東びわこ農業協同組合イチゴ部会視察・研修	約25名
342	イチゴ「培地に風で二番果確保」	山崎敬亮	2009.01	日本農業新聞	22,14
343	第2章 幼苗セル成型苗の利用技術	山崎敬亮、熊倉裕史	2009.03	育苗分業化の実現を目指すイチゴ幼苗セル成型苗の生産・利用マニュアル	*,20-26
344	幼苗セル成型苗の利用技術「土耕栽培」	山崎敬亮、熊倉裕史	2009.03	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「イチゴ幼苗セル成型苗の長期大量生産技術と利用体系の開発」成果発表会(愛知県農業総合試験場)	約100名

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
345	簡易で低コストな培地冷却法を導入した 温暖化に適応可能なイチゴの高設栽培	山崎敬亮	2009.03	平成 20 年度農研機構シンポジウム「地域資源活用による低コスト・省エネを目指した施設園芸生産の新たな展開」(農研機構)	約 180 名
346	年内収量増加や収穫の中休み軽減が可能なイチゴ高設栽培における低コスト培地温抑制技術	山崎敬亮	2009.03	「NARO」代表的研究成果(技術)	*,*
347	鉄コーティング直播栽培技術と普及上の課題について	山内 稔	2008.04	飼料用米直播栽培研修会(全国システム化研究会)	97 名
348	鉄コーティング直播の原理	山内 稔	2008.05	旬感テレビ派ッ!(広島テレビ)	*
349	鉄コーティング種子による湛水直播栽培講演播種実演会	山内 稔	2008.05	JA いずも灘分支店および JA 島根おおち岩見支所(JA 全農しまね)	45 名
350	鉄コーティング直播稲作と農工連携	山内 稔	2008.07	第 1 回農工連携推進委員会(兵庫工業会)	19 名
351	鉄コーティング直播栽培技術の概要、普及と課題について	山内 稔	2008.07	革新的農業技術習得支援研修(革新的な新技術の習得)水稲の直播栽培技術(中央農研)	7 名
352	鉄コーティングによる鳥害の抑制	山内 稔	2008.09	農業日誌(社団法人全国農林統計協会連合会)	*,138-139
353	鉄コーティング種子の大量製造技術	山内 稔、 土門正幸(金子農機)、 嘉納百樹(金子農機)、 藤原逸平(金子農機)	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,22-23
354	この人に聞く 鉄コーティング種子でお米生産を支援	山内 稔	2008.10	びんご経済レポート	10,2-3
355	担い手を支える新しい技術 鉄コーティング種子を用いた水稲の直播一種子の大量製造と苗立ちの安定化一	山内 稔	2008.10	日本農民新聞	15,6
356	ふろんと らいん 近畿中国四国農業研究センター 直播き技術<鉄の種もみ> 手間を省き主食を守る	山内 稔	2008.10	讀賣新聞	16,32
357	水稲の低コスト生産技術について(鉄コーティング湛水直播技術など)	山内 稔	2008.10	飼料用稲・飼料用米の低コスト生産に向けた情報交換会(中国四国農政局)	260 名
358	全国の取り組み状況と技術のポイントについて(鉄コーティング湛水直播マニュアル 2008 のポイント)	山内 稔	2008.10	鉄コーティング湛水直播栽培成績検討会(千葉県)	48 名
359	水稲鉄コーティング直播について	山内 稔	2008.12	水稲鉄コーティング直播栽培研修会((株)クボタ、クボタ機械サービス(株))	125 名
360	鉄コーティング直播における苗立ち安定化技術について	山内 稔	2008.12	鉄コーティング水稲直播栽培技術研究会(近畿中国四国農業研究センターおよび全農)	150 名
361	ハダカムギの品種と選択	柳澤貴司	2008.05	2008 年版 農業技術 作物(農文協)	*,149-157
362	新素材プレミアム大麦の開発	柳澤貴司	2008.09	平成 20 年度 近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 冬作技術研究会	約 40 名
363	糯ムギ「ダイシモチ」とその加工品	柳澤貴司	2008.11	地域資源活用 食品加工総覧 追録 第 5 号	追 5,188 の 16-19
364	国産二条裸麦が誕生	柳澤貴司	2009.02	日本農業新聞	27,1
365	生産性向上へ 2 新品種	柳澤貴司	2009.02	中国新聞	27,22
366	二条裸麦の新品種開発	柳澤貴司	2009.02	山陽新聞	27,6
367	大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボシ」	柳澤貴司	2009.03	近畿中国四国農業研究センター 2008 年度研究開発ターゲット成果	*
368	日本初の二条裸麦新品種 ユメサキボシ	柳澤貴司	2009.03	近中四農研ニュース	32,9
369	研究の現場から:高品質な麦生産へ	柳澤貴司	2009.03	毎日新聞	18,22
370	裸麦新品種「ユメサキボシ」	柳澤貴司	2009.03	朝日新聞	3,27
371	日本初二条裸麦と製麺用小麦を開発	柳澤貴司	2009.03	米麦日報	3,7
372	日本初二条裸麦と製麺用小麦を開発	柳澤貴司	2009.03	酒類飲料日報	4,8
373	日本初二条裸麦と製麺用小麦を開発	柳澤貴司	2009.03	食品産業新聞	9,3
374	農産物における DNA 鑑定の実状と展望	矢野 博	2008.04	農林水産技術研究ジャーナル	31(4),13-16

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
375	果樹ゲノム研究の広がり vol.5「DNA鑑定とゲノム研究」	矢野 博	2008.06	果実日本	63(6),95-97
376	農産物におけるDNA鑑定の実用化の現状と展望ー表示の偽りをいかに検証するか?ー	矢野 博	2008.08	福山大学社会連携研究推進事業「機能性成分のベネフィットとリスク及びリスク評価・管理の実際」集団学習会	*
377	藺草の品種識別技術の精度向上に向けて	矢野 博	2008.08	敷物新聞	*
378	農産物におけるDNA鑑定の実用化の現状と展望	矢野 博	2008.11	「食の安全・安心のバイオ計測」発表交流会	*,13-19
379	農産物・加工品におけるDNA鑑定の現状と展望	矢野 博	2008.12	食料の安定的な供給を目指した研究の現状とこれからー鳥インフルエンザ対策と農産物のDNA鑑定ー	*
380	藺草と特定非営利活動法人「DNA鑑定学会」	矢野 博	2008.12	敷物新聞	*
381	琵琶湖流域における水田負荷削減効果のモデル予測	吉田正則	2009.03	近中四農研ニュース	32,5
382	直売所における需給ミスマッチと改善方策	吉田晋一	2008.07	近畿中国四国農業試験研究推進会議平成20年度「営農推進部会」問題別研究会	約50名
383	農産物直売所における出荷と販売の実態ー都市近郊中規模直売所を対象としてー	吉田晋一	2008.12	近畿中国四国農研農業経営研究	18,24-32
384	作付け・作業計画・進捗・履歴管理を視覚的に支援するシステム	吉田智一	2008.05	第8回農研機構産学官連携交流セミナー「食の安心・安全を担うIT技術ー農研機能の技術は日本の食を支えていますー」(農研機構)	60
385	圃場や作業の情報管理事務をお手伝い圃場地図上で作付けや作業進捗をビジュアルに管理ー「作業計画・管理支援システム」の開発と活用事例ー	吉田智一	2008.07	グリーンレポート(JA全農)	469,12-13
386	作業計画・管理支援システム【.NET版】技術講習会テキスト	吉田智一	2008.08	「作業計画・管理支援システム」利用講習会ー入門編ー(近畿中国四国農業研究センター)	16
387	圃場地図上で農作業を管理できる「作業計画・管理支援システム」	吉田智一	2008.09	近畿中国四国地域における新技術	7,43-45
388	圃場や作業の情報管理をお手伝い	吉田智一	2008.09	近中四農研ニュース	30,3
389	視覚的に管理する作業計画・管理支援システム ほ場ごとに一目で状況を確認	吉田智一	2008.09	農機新聞(新農林社)	3203,4
390	圃場マップを用いて作業計画・管理支援を行う	吉田智一	2008.09	インタビュー&レポートー農業編ー(NTT東日本)	<a href="http://www.ntt-east.co.jp/business/column/agri/002/">http://www.ntt-east.co.jp/business/column/agri/002/</a>
391	ほ場地図を使った農作業管理ソフトーほ場や作業の情報管理をお手伝いー	吉田智一	2008.12	農業日誌平成21年版日誌のしおり(全国農林統計協会連合会)	*,360-361
392	日射制御型拍動自動灌水装置の特徴とその利用	吉川弘恭、中野善公、木下貴文、吉川省子	2008.04	「日射制御型拍動自動灌水装置」の現地実証研修会(岡山県農業総合センター)	52名
393	農業における水資源利用と環境保全	吉川弘恭	2008.07	香川県仲多度管内小学校理科担当教員研修会(香川県小学校教育研究会仲善支部理科部会)	24名
394	ソーラーかん水装置を導入 香川県立農業大学校	吉川弘恭	2008.07	日本農業新聞(中四国版)	*,23
395	ジャンボピーマン安定供給へソーラーかん水導入	吉川弘恭	2008.07	日本農業新聞(中四国版)	*,3
396	岡山県内 ナス農家ら6戸自動かん水装置試験導入	吉川弘恭	2008.08	山陽新聞	*,9
397	太陽光自動かん水手応え	吉川弘恭	2008.08	日本農業新聞(東北版)	*,9
398	『「シーズ」を「育て」、「ニーズ」に応えるために』事例を元にしたケーススタディー	吉川弘恭	2008.09	平成20年度近畿中国四国地域農業試験研究推進会議農業環境工学推進部会(作業技術)問題別研究会(近畿中国四国農業研究センター、日本農作業学会中国・四国支部、NPO中四国アグリテック)	55名

研究情報活動

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
399	園芸作での日射制御型拍動自動灌水装置の利用=その実際と施工に当たっての注意=	吉川弘恭	2008.09	革新的農業技術研修「野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術」(農林水産省、近畿中国四国農業研究センター)	約20名
400	安定生産につなげる肥培管理・環境制御技術(2)極微量灌水施肥法による低コスト・省力灌水施肥	吉川弘恭	2008.09	革新的農業技術研修「野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術」(農林水産省、近畿中国四国農業研究センター)	約20名
401	ソーラーパネルで肥料を自動かん水 コスト減、収量は増	吉川弘恭	2008.09	日本農業新聞(北近畿版)	*,24
402	日射制御型拍動自動灌水装置の活用とその限界	吉川弘恭	2008.10	日射制御型拍動自動かん水装置を用いたピーマン栽培検討会(岩手県農林水産部)	33名
403	野菜における省エネ・省力栽培技術の取り組み「日射制御型は駆動自動灌水装置の開発と普及」	吉川弘恭	2008.10	平成20年度中国四国野菜調査研究会(中国四国地域野菜調査研究会、(社)全国農業改良普及支援協会)	52名
404	太陽光自動かん水装置検討会露地ピーマン増収	吉川弘恭	2008.10	日本農業新聞(東北版)	*,17
405	日射制御型拍動自動灌水装置の課題と今後の展望	吉川弘恭	2008.11	平成20年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業『露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及』に係わる現地検討会(兵庫県立農林水産技術総合センター)	54名
406	日射制御型拍動自動灌水装置で肥料を削減	吉川弘恭	2008.12	平成20年度近畿地域マッチングフォーラム「環境に優しく品質と収量を確保する野菜栽培の新技术」(農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター)	*
407	平成20年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業『露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及』到達点と課題	吉川弘恭	2008.12	平成20年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業『露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及』検討推進会議(近畿中国四国農業研究センター)	35名
408	自動灌水装置への太陽光発電の利用	吉川弘恭	2008.12	農研機構新技術教室「農業に生かす太陽光発電」(農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター、高知県嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会)	45名
409	露地ピーマン収量増 県の3農業普及センター 自動かん水で実証	吉川弘恭	2008.12	岩手日報	*,2
410	日射制御型かん水装置が効果兵庫・但東町生産組合導入呼びかけ	吉川弘恭	2009.01	日本農業新聞北近畿版	*,29
411	産学官連携による日射制御型拍動自動灌水装置の普及	吉川弘恭	2009.03	近畿中国四国農業研究センター2008年度研究開発ターゲット成果	*,23
412	厳しい経営環境の中、拍動式灌水をどう活かすか	吉川弘恭	2009.03	香川県花き生産振興研修会	約100名
413	ジャガイモ畑のヘアリーベッチはチッソ5kgに相当	吉川省子	2008.10	現代農業	*,244-245

### 3. 知的財産権

#### 1) 産業財産権の登録及び出願 (国内特許)

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
植物病害防除剤、農薬及び肥料	宮川 久義、 (丸善製薬(株))	H17.04.25	
植物体の重量測定方法	森永 邦久、草場新之助、 村松 昇、島崎 昌彦、 星 典宏	H17.05.23	
切り花の開花程度判断方法及び開花程度判断装置	仲 照史、香川 将志、 渡辺 修一、藤野 雅丈、 竹崎あかね、 (香川県産業技術センター、 香川県農業試験場)	H17.08.23	
気温推定方法及び気温推定システム	植山 秀紀	H17.10.20	
低水分領域における土壌水分測定方法および測定装置	黒瀬 義孝	H18.01.18	
脂肪細胞分化促進剤(1)	関谷 敬三、 (富士産業(株))	H18.02.02	
脂肪細胞分化促進剤(2)	関谷 敬三、 (富士産業(株))	H18.02.02	
植物用体内水分ストレス表示シートと植物水分ストレス計測方法	森永 邦久、星 典宏、 草場新之助、 (ライフケア技研(株))	H18.03.01	
コムギのグルテニン・サブユニットを発現するトランスジェニックイネ	池田 達哉、荒木 悦子、 藤田由美子、矢野 博 (理化学研究所、萩原 保成)	H18.03.28	
牛の優良産肉形質判定方法	相川 勝弘、柴田 昌宏、 松本 和典、 (兵庫県)	H18.05.19	
歩行型動力運搬車	田中 宏明、中元 陽一、 松崎 健文、岡 信光、 角川 修、畔柳 武司	H18.10.24	
小麦の品種識別法	藤田由美子、矢野 博	H19.03.27	H20.04.25 特許第 4114887 号
オーストラリア産麺用小麦銘柄の判別方法	池田 達哉、高田 兼則、 谷中美貴子、石川 直幸	H19.05.01	H19.11.16 特許第 4041524 号
小麦ふすま、大麦糠、米糠からの新規血圧降下ペプチドとその製造方法	野方 洋一	H19.07.27	
小麦の穀粒硬度及び小麦粉の粒径を低下させる方法	谷中美貴子、池田 達哉、 高田 兼則	H20.01.22	
高設栽培装置と、高設栽培装置における透湿防水シートの施行方法	山崎 敬亮、熊倉 裕史、 浜本 浩、岩本 辰弘	H20.12.24	
遺伝的に飛翔能力を欠くテントウムシの作出方法	世古 智一、三浦 一芸、 (国)岡山大学)	H21.01.13	
播種ロール及び播種機	窪田 潤、佐藤 達也、 高橋 仁康、亀井 雅浩、 藤本 寛、奥野林太郎	H21.02.10	

研究情報活動

(外国特許)

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
天敵昆虫を飼育するための給餌方法および給餌装置、並びに天敵昆虫の飼育方法 (PCT:アメリカ、ヨーロッパ(オランダ、フランス))	長坂 幸吉、安部順一朗、 ((国)京都大学、 (株)四国総合研究所、 曾田香料(株))	H17.11.24	
植物体の重量測定方法 (アメリカ)	森永 邦久、草場新之助、 村松 昇、島崎 昌彦、 星 典宏	H17.12.13	
植物体の重量測定方法 (E P (イギリス、フランス、ドイツ))	森永 邦久、草場新之助、 村松 昇、島崎 昌彦、 星 典宏	H17.12.16	
植物体の重量測定方法 (カナダ)	森永 邦久、草場新之助、 村松 昇、島崎 昌彦、 星 典宏	H17.12.19	

2) 新品種の登録及び出願

(品種登録)

種類名	品種名	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
稲	リーフスター	近畿中国四国農業研究センター (作物研究所、(国)東京農工大学)	H17.06.20	H20.03.18 第16764号

(出願品種)

種類名	品種名	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
大麦	トヨノカゼ	柳澤 貴司、高山 敏之、 高橋 飛鳥、伊藤 昌光、 石川 直幸、土門 英司、 藤田 雅也、土井 芳憲、 杉浦 誠、松中 仁	H17.11.30	
小麦	ふくほのか	石川 直幸、高田 兼則、 渡邊美貴子、長嶺 敬、 高山 敏之、田谷 省三、 甲斐 由美、谷尾 昌彦、 佐藤 淳一	H17.11.30	
稲	はいいぶき	飯田 修一、春原 嘉弘、 前田 英郎、松下 景、 根本 博、石井 卓朗、 吉田 泰二、中川 宣興、 坂井 真	H18.08.22	
稲	みずほのか	飯田 修一、春原 嘉弘、 出田 収、松下 景、 前田 英郎、根本 博、 石井 卓朗、吉田 泰二、 中川 宣興、坂井 真	H19.09.11	
小麦	ふくはるか	石川 直幸、高田 兼則、 渡邊美貴子、長嶺 敬、 高山 敏之、田谷 省三、 甲斐 由美	H20.10.22	
大麦	ユメサキボシ	柳澤 貴司、長嶺 敬、 高橋 飛鳥、高山 敏之、 伊藤 昌光、石川 直幸、 土門 英司、藤田 雅也、 土井 芳憲、杉浦 誠、 松中 仁	H20.10.28	

## 4. 広報活動

### 1) 記者発表 (資料配付含む)

年月日	発表内容
H20.05.19	近畿中国四国農業研究センター 2007 年研究開発ターゲット成果
H20.05.19	研究成果マニュアルの完成 (「中山間耕畜連携」プロジェクト 経営研究分野成果マニュアル、「稲発行粗飼料 (WCS) 給与技術マニュアル」)
H20.05.30	地元小学校の授業を近畿中国四国農業研究センターで開催
H20.06.03	世界麺フェスタ 2008 in さぬき 学術フォーラム (市民講座)
H20.06.11	「カンキツ連年安定生産のための技術マニュアル」の公開
H20.08.11	鳥獣害シンポジウムの開催について
H20.09.18	「クローラ運搬車導入による傾斜地カンキツ園運搬作業軽労化のためのスロープ組み立てマニュアル」の公開
H20.08.28	研究会「地域特産野菜の収穫作業を中心とした省力・安定生産技術」のご案内
H20.09.05	カバークロープ研究会開催のご案内
H20.09.10	近畿中国四国農業研究センター一般公開開催のご案内 (福山)
H20.09.25	近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点一般公開開催のご案内
H20.10.03	「平張型ハウス設計・施工マニュアル」の公開
H20.10.15	平成 20 年度四国研究センター一般公開のご案内
H20.10.16	近畿中国四国農業研究センター大田研究拠点一般公開開催のご案内
H20.11.01	中国四国地域マッチングフォーラム開催のご案内
H20.11.10	近畿地域マッチングフォーラム開催のご案内
H20.12.08	新技術教室「農業に生かす太陽光発電」のご案内
H21.02.17	新品種のプレスリリース「記者レク」開催のご案内
H21.03.02	農研機構シンポジウム開催のご案内

### 2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物 (会議資料等除く)

刊行物名	発行年月	印刷数
要覧 (和文)	H20.05	2,000
要覧 (英文)	H20.05	1,000
平成 19 年度 近畿中国四国農業研究成果情報	H20.06	720
近中四農研ニュース No.29	H20.07	1,740
近中四農研ニュース No.30	H20.09	1,740
近畿中国四国地域における新技術 第 7 号	H20.09	600
要覧 (和文)	H20.11	1,500
平成 20 年度 中国四国地域マッチングフォーラム講演要旨	H20.12	300
平成 20 年度 近畿地域マッチングフォーラム講演要旨	H20.12	300
近畿中国四国農業研究センター年報 平成 19 年度	H20.12	650
近畿中国四国農業研究センター業務科年報 平成 19 年度 (第 5 号)	H20.12	300
近中四農研ニュース No.31	H20.12	1,700
近畿中国四国農業研究センター研究資料 第 6 号	H21.02	610
近畿中国四国農業研究センター研究報告 第 8 号	H21.02	720
近中四農研ニュース No.32	H21.03	1,700
近畿中国四国農業研究センター 2008 年研究開発ターゲット成果	H21.03	1,000

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
「食」を考えよう ～新しい技術や注目食材～	近畿中国四国農業研究センター	H20.09	本所	1,276
地球にやさしい野菜づくり	近畿中国四国農業研究センター	H20.10	綾部研究拠点	513
見て、来て、体験！ 夢のある地域農業	近畿中国四国農業研究センター	H20.10	四国研究センター	1,059
牛だ！祭だ！全員集合！	近畿中国四国農業研究センター	H20.10	大田研究拠点	515

イベント

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
中国四国地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H20.12	鳥取県東伯郡 三朝町	100
近畿地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H20.12	京都府亀岡市	140
行政・研究マッチングフォーラム	近畿中国四国農業研究センター	H20.12	広島県福山市	46

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャー等）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
体験学習（和牛に関する学習）	島根県（高校）	H20.04	大田研究拠点	20
総合的学習（大豆に関する学習）	福山市（小学校）	H20.06	本所	70
総合的学習（カンキツの品種改良、植物と地球温暖化の関係に関する研修）	香川県（高校）	H20.07	四国研究センター	8
総合的学習（牛をとおした生命に関する研修）	広島県教育委員会	H20.07	大田研究拠点	19
総合的学習（理科教育研修（農産物の健康機能性、はだか麦の品種改良、農業における水資源利用と環境保全に関する研修）	香川県 （小学校教育研究会）	H20.07	四国研究センター	24
総合的学習（野菜の害虫と鉄コーティング種子に関する研修）	福山市（中学校）	H20.08	本所	3
体験学習（労働体験学習）	福山市教育委員会	H20.08	本所	10
体験学習（労働体験学習）	大田市（中学校）	H20.09	大田研究拠点	5
総合的学習（理数科研修）	島根県（高校）	H20.10	大田研究拠点	22
体験学習（職場体験学習（研究業務））	福山市（私立中学校）	H20.11	本所	3
総合的学習（肉用牛の放牧肥育に関する研修）	島根県（大学校）	H20.12	大田研究拠点	7

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
日射制御型拍動自動灌水装置現地実証研修会	岡山県農業総合センター	H20.04	岡山県岡山市
第4回シバザクラ祭り	広島県豊栄町乃美地区	H20.04	広島県豊栄町乃美
日射制御型拍動自動灌水装置現地実証に関わる指導会	岩手県中央農業改良普及センター	H20.05	岩手県奥州市、岩手町
善通寺フラワー&ガーデンフェスタ	香川県善通寺市	H20.05	香川県善通寺市
第7回産学官連携推進会議	内閣府、総務省、日本経済団体連合会	H20.06	京都府京都市
環境部会研究会	NPO法人 中国四国農林水産・食品先進技術研究会	H20.09	愛媛県松山市
平成20年度中国四国野菜調査研究会	中国四国地域野菜調査研究会、(社)全国農業改良普及支援協会	H20.10	岡山県岡山市
日射制御型拍動自動灌水装置を用いたピーマン栽培検討会	岩手県	H20.10	岩手県北上市
アグリビジネス創出フェア2008	農林水産省	H20.10	東京都千代田区
食のブランドニッポン2008	(独)農研機構、(独)森林総合研究所、(独)水産総合センター、(独)国際農林水産業研究センター	H20.11	東京都港区
「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による低コスト・環境保全型生産技術の普及」現地検討会	兵庫県立農林水産技術総合センター	H20.11	兵庫県朝来市
知財ビジネスマッチングフェア	経済産業省近畿経済局	H20.11	大阪府大阪市
消費者の部屋	農林水産省中国四国農政局	H20.12	岡山県岡山市
中国四国地域アグリビジネス創出フェア	NPO法人 中国四国農林水産・食品先進技術研究会 (近畿中国四国農業研究センター、中国四国農政局中国経済産業局ほか)	H20.12	香川県高松市
アグリサイエンスセミナー	(独)農研機構 本部	H20.12	東京都渋谷区
土地利用型作物生産性向上セミナー	農林水産省中国四国農政局	H21.01	岡山県岡山市
消費者の部屋	農林水産省近畿農政局	H21.02	京都府上京区
アグリミーティング in 島根	全国農業協同組合連合会島根県本部	H21.02	島根県松江市
花き生産振興研修会	香川県花き園芸協会	H21.03	香川県丸亀市

シンポジウム・セミナー

シンポジウム・セミナー等名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
世界麺フェスタ in さぬき 学術フォーラム	近畿中国四国農業研究センター、 世界麺フェスタ実行委員会	H20.06	香川県善通寺市	524
「作業計画・管理支援システム」 利用講習会 ー入門編ー	近畿中国四国農業研究センター	H20.08	本所	15
鳥獣害シンポジウム	近畿中国四国農業研究センター、 (近畿農政局、中国四国農政局)	H20.08	大田研究拠点	99
小規模移動放牧に関する公開シ ンポジウム	近畿中国四国農業研究センター、 中国四国農政局	H20.09	広島県広島市	121
バイオマスタウン・サミット in 岡山	近畿中国四国農業研究センター、 中国四国バイオマス発見利活用協議会	H21.01	岡山県岡山市	150
バイオマスタウン・サミット in 広島	近畿中国四国農業研究センター、 中国四国バイオマス発見利活用協議会	H21.01	広島県広島市	80
バイオマスタウン・サミット in 米子	近畿中国四国農業研究センター、 中国四国バイオマス発見利活用協議会	H21.02	鳥取県米子市	170
バイオマスタウン・サミット in 高松	近畿中国四国農業研究センター、 中国四国バイオマス発見利活用協議会	H21.02	香川県高松市	60
平成 20 年度農研機構シンポジ ウム「地域資源活用による低コ スト・省エネを目指した施設園 芸生産の新たな展開」	近畿中国四国農業研究センター、 農業施設学会、 日本施設園芸協会、 中四国アグリテック	H21.03	香川県高松市	234

4) 技術相談および見学

生産者：農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者：消費者団体も含める

青少年：幼稚園児～高校生

行政：国行政、県行政

研究機関：大学、公立試、国研、独法

民間：民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マス コミ	行政	研究 機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	33	2			24	60	21		6	146
電話による相談件数	40	9	2	8	20	33	32	1	1	146
面談による相談件数	22	2	4	14	12	21	38		5	118
その他の手段による相談件数	21				42	23	18		1	105
合計	116	13	6	22	98	137	109	1	13	515

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マス コミ	行政	研究 機関	民間	海外	その他	合計
外部からの見学者数（人）	810	1	272	8	61	123	57	0	0	1,332

## 5. 図書資料の収集・受入、サービス

### 1) 収書数

#### ① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄贈・交換	計	購 入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	234	42	276	10	0	10	286
四国研究センター	142	241	383	28	0	28	411
綾部研究拠点	103	0	103	0	0	0	103
大田研究拠点	23	0	23	0	0	0	23
合 計	502	283	785	38	0	38	823

#### ② 逐次刊行物

単位：種

	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄贈・交換	計	購 入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	161	610	771	57	41	98	869
四国研究センター	106	547	653	31	28	59	712
綾部研究拠点	32	149	181	5	8	13	194
大田研究拠点	19	208	227	17	6	23	250
合 計	318	1,514	1,832	110	83	193	2,025

#### ③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄贈・交換	計	購 入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	3	83	86	0	4	4	90
四国研究センター	0	91	91	0	0	0	91
綾部研究拠点	0	16	16	0	0	0	16
大田研究拠点	0	33	33	0	0	0	33
合 計	3	223	226	0	4	4	230

### 2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	0	53	53	0	0	0	53
四国研究センター	0	0	0	0	0	0	0
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	53	53	0	0	0	53

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

### 3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	540	305	29	44	387
四国研究センター	140	71	41	16	598
合 計	680	376	70	60	985

# V 研究交流

## 1. 研究員等の受入・研修

### 1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期間
該当なし			

### 2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期間
該当なし			

### 3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期間
オーストラリア	北部準州政府	特命チーム (総合的害虫管理研究チーム)	H18.11.24 ~ H20.11.23
中華人民共和国	武漢大学 生命科学学院	粗飼料多給型 高品質牛肉研究チーム	H20.03.26 ~ H20.05.24

### 4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期間
該当なし			

### 5) その他の制度等による海外研究員の受入

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期間
中華人民共和国	中国新疆農業科学院	パン用小麦研究 近中四サブチーム	H19.08.10 ~ H20.08.30

### 6) 流動研究員

受入先研究チーム	期間
該当なし	

### 7) 依頼研究員

受入先研究チーム	期間
レタスビッグベイン研究チーム	H20.07.07 ~ H20.08.29

### 8) 技術講習生

受入先研究チーム	期間
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H19.10.01 ~ H20.09.30
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H20.04.01 ~ H20.04.30
食肉プロテオーム研究チーム	H20.05.26 ~ H20.06.06
鳥獣害研究チーム	H20.06.26 ~ H20.06.27
大豆育種研究近中四サブチーム	H20.07.28 ~ H20.08.15
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H20.09.08 ~ H20.09.12
産学官連携推進センター (四国研究センター)	H20.08.04 ~ H20.08.13
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H20.08.25 ~ H20.12.12
鳥獣害研究チーム	H20.09.01 ~ H20.11.28
鳥獣害研究チーム	H20.09.09 ~ H20.09.30
鳥獣害研究チーム	H20.09.16 ~ H20.09.30
環境保全型野菜研究チーム	H20.12.16 ~ H20.12.19
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H21.01.13 ~ H21.02.13
パン用小麦研究近中四サブチーム	H21.02.12 ~ H21.03.31
鳥獣害研究チーム	H21.03.04 ~ H21.03.05

9) 国内留学

区 分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究チーム	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究チーム	期 間
国立大学法人 広島大学大学院	情報処理手法の導入による農業気象資源評価の高度化とその活用方法	暖地温暖化研究 近中四サブチーム	H18.04.01 ~ H21.03.31
国立大学法人 広島大学大学院	共生細菌による宿主昆虫の産雄性単為生殖化メカニズムの解明に関する研究	特命チーム (総合的害虫管理研究チーム)	H18.04.01 ~ H23.03.31

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

所 属	研究課題	派遣先	期 間
該当なし			

2) 国内留学

区 分	所 属	研究課題	派遣先	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

3) 海外派遣・出張

制度・事業等 区 分	所 属	目 的	派遣先	期 間
長期在外 研究員	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	施設栽培トマトの生育モデル解析による増収管理手法の開発	オランダ王国	H19.01.16 ~ H20.04.30
長期在外 研究員	企画管理部 企画チーム	オーストラリアの農業技術開発・普及システムの日本への適用可能性に関する研究	オーストラリア	H19.11.01 ~ H21.10.31

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏 名	所 属	派遣先	期 間
山内 稔	産学官連携推進センター	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員教授	平成 20 年度
黒瀬 義孝	暖地温暖化研究近中四サブチーム	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員准教授	平成 20 年度
三浦 一芸	特命チーム (総合的害虫管理研究チーム)	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員准教授	平成 20 年度

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

講師所属	研修会等名	依頼者	期間
産学官連携推進センター	直播栽培技術に関する研修会	(社)全国農業改良普及支援協会	H20.04.23 ~ H20.04.25
次世代カンキツ生産技術研究チーム	柑橘部会通常総会での講演「これからのカンキツをどうするか」	香川県農業協同組合仲多度地区	H20.04.30 ~ H20.04.30
鳥獣害研究チーム	平成20年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県産業部農林業局農業振興室	H20.05.08 ~ H20.05.08
鳥獣害研究チーム	サルに係る農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	和歌山県串本町	H20.05.12 ~ H20.05.13
次世代カンキツ生産技術研究チーム	マルドリ栽培講習会	熊野農林商工環境事務所	H20.05.19 ~ H20.05.20
鳥獣害研究チーム	猿・鹿に係る農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	大田地区振興会連絡協議会	H20.05.21 ~ H20.05.21
鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策指導者研修	福井県農林水産部	H20.06.03 ~ H20.06.04
鳥獣害研究チーム	サル害対策講演会	川東地区猿害対策協議会	H20.06.05 ~ H20.06.07
鳥獣害研究チーム	第3回食育推進全国大会「ニッポン食育フェア in 群馬」	(社)農山漁村文化協会	H20.06.07 ~ H20.06.09
鳥獣害研究チーム	イノシシによる農林作物被害防止対策	大分県農林水産部森との共生推進室	H20.06.11 ~ H20.06.12
鳥獣害研究チーム	鳥獣害防止対策セミナー	岡山県農林水産部農業経営課	H20.06.25 ~ H20.06.25
農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	平成20年度岡山県草地協会研修会	岡山県草地協会	H20.07.01 ~ H20.07.01
鳥獣害研究チーム	特別講師「動物応用科学概論」	麻布大学	H20.07.06 ~ H20.07.08
鳥獣害研究チーム	平成20年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県産業部	H20.07.09 ~ H20.07.12
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	和歌山県串本町	H20.07.13 ~ H20.07.14
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	阿南市農作物鳥獣害防止対策協議会	H20.07.15 ~ H20.07.16
産学官連携推進センター	農工連携「講演会」	(社)兵庫工業会	H20.07.23 ~ H20.07.23
鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策地域指導者育成研修会	奈良県農林部農業水産振興課	H20.07.24 ~ H20.07.25
鳥獣害研究チーム	福井地区広域鳥獣害対策協議会研修会	福井県福井農林事務所	H20.07.25 ~ H20.07.26
大豆育種研究近中四サブチーム	くらしき作陽大学商品開発交流研究センター公開講座	くらしき作陽大学	H20.07.26 ~ H20.07.26
鳥獣害研究チーム	平成20年度大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県農林水産部森との共生推進室	H20.07.28 ~ H20.07.29
鳥獣害研究チーム	丹南地区鳥獣害対策研修会	福井県丹南農林総合事務所	H20.07.31 ~ H20.08.01
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成20年度肉用牛放牧研究会	(社)京都府畜産振興協会	H20.08.01 ~ H20.08.02
大豆育種研究近中四サブチーム	平成20年度大豆生産等現地検討会	中国四国豆類生産振興・需要拡大推進委員会	H20.08.07 ~ H20.08.08
次世代カンキツ生産技術研究チーム	マルドリ栽培講習会	三重南紀農業協同組合	H20.08.07 ~ H20.08.08
パン用小麦研究近中四サブチーム	山口大学公開講座	(国)山口大学エクステンションセンター	H20.08.20 ~ H20.08.20

講師所属	研修会等名	依頼者	期間
鳥獣害研究チーム	農業セミナー(全体)	神奈川県農業技術センター	H20.09.02 ~ H20.09.04
鳥獣害研究チーム	農作物鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県農林部	H20.09.03 ~ H20.09.05
研究支援センター業務第2科	丸亀ロータリークラブ定例会議	丸亀ロータリークラブ	H20.09.04 ~ H20.09.04
鳥獣害研究チーム	平成20年度鳥獣害防止対策指導者研修会	愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課担い手対策推進室	H20.09.04 ~ H20.09.06
鳥獣害研究チーム	自ら守る集落づくり研修会	豊後大野市担い手育成総合支援協議会	H20.09.06 ~ H20.09.08
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	拠点大学交流事業日中合同セミナー	鳥取大学乾燥地研究センター	H20.09.07 ~ H20.09.10
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	環境専門部会	特定非営利法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会	H20.09.11 ~ H20.09.11
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H20.09.16 ~ H20.09.16
鳥獣害研究チーム	鳥獣害防止対策研修会	愛媛県東予地方局	H20.09.17 ~ H20.09.18
鳥獣害研究チーム	農作物等鳥獣被害防止対策講演会	田辺鳥獣害対策協議会	H20.09.19 ~ H20.09.21
鳥獣害研究チーム	「獣害対策研修会」及び「鳥獣害に対応した集落づくり」	奈良県十津川村	H20.09.28 ~ H20.09.30
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H20.09.30 ~ H20.09.30
鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防止	バイエルクロップサイエンス(株)	H20.10.01 ~ H20.10.03
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	島根県農林水産部森林整備課	H20.10.02 ~ H20.10.02
鳥獣害研究チーム	イノシシ被害防止対策研修会	みやま市鳥獣害防止対策協議会	H20.10.03 ~ H20.10.04
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策研修会	伊方町有害鳥獣連絡会	H20.10.03 ~ H20.10.04
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H20.10.07 ~ H20.10.07
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	平成20年度中国四国地域野菜調査研究会	中国地域野菜技術研究会	H20.10.09 ~ H20.10.10
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H20.10.21 ~ H20.10.21
産学官連携推進センター	鉄コーティング湛水直播技術研修会	(株)クボタ	H20.10.21 ~ H20.10.22
鳥獣害研究チーム	平成20年度鳥獣被害対策研修会	鹿児島県市町村行政推進協議会	H20.10.21 ~ H20.10.23
鳥獣害研究チーム	平成20年度農作物鳥獣被害防止対策事業「徳島県鳥獣被害対策指導員養成研修」への講師の派遣および農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	徳島県農林水産部	H20.10.22 ~ H20.10.24
鳥獣害研究チーム	平成20年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県農業協同組合中央会	H20.10.27 ~ H20.10.29
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	みつえ高原牧場草地再生整備に伴うアドバイザー	奈良県農林部畜産課	H20.10.28 ~ H20.10.29

研究交流

講師所属	研修会等名	依頼者	期間
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	熊本県農林水産部農業技術課	H20.11.03 ~ H20.11.05
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	和歌山県串本町	H20.11.04 ~ H20.11.05
鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策講習会	矢掛町有害鳥獣被害対策協議会	H20.11.06 ~ H20.11.06
次世代カンキツ生産技術研究チーム	熊野マルドリ+フィールドサーバプロジェクト現地検討会	三重南紀農業協同組合	H20.11.06 ~ H20.11.07
鳥獣害研究チーム(2名)	自己農地を自分で守る!鳥獣被害防止対策研修会	西九州地域鳥獣被害防止対策協議会	H20.11.06 ~ H20.11.08
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	愛媛県東予地方局	H20.11.07 ~ H20.11.08
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	島根県川本町	H20.11.10 ~ H20.11.10
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策に係る現地講習会	伊根町地域担い手育成総合支援協議会	H20.11.13 ~ H20.11.14
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	若狭・高島地域鳥獣害防止広域対策協議会	H20.11.15 ~ H20.11.16
鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防除対策研修	神奈川県環境農政部緑政課	H20.11.24 ~ H20.11.25
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	山口型放牧研究会研修会	山口型放牧研究会	H20.11.26 ~ H20.11.26
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	比和農政講演会	広島県庄原市	H20.11.27 ~ H20.11.27
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	備中町認定農業者協議会	H20.11.28 ~ H20.11.28
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	佐那河内神山地域鳥獣害防止広域対策協議会	H20.12.01 ~ H20.12.03
鳥獣害研究チーム	野生鳥獣被害対策に関する講演	静岡県伊豆の国市	H20.12.03 ~ H20.12.04
鳥獣害研究チーム	第5回「相模原市鳥獣被害対策に係る緊急会議」	神奈川県相模原市	H20.12.08 ~ H20.12.10
鳥獣害研究チーム	南会津地方サル対策セミナー	福島県南会津農林事務所	H20.12.10 ~ H20.12.10
産学官連携推進センター	水稻鉄コーティング直播栽培研修会	(株)クボタ	H20.12.10 ~ H20.12.12
鳥獣害研究チーム	農作物被害防止対策講演会	那智勝浦町鳥獣害防止対策協議会	H20.12.11 ~ H20.12.13
品種識別・産地判別研究チーム	「鳥インフルエンザ対策と農産物のDNA鑑定」の研究情報と今後の取り組みに関する検討会	特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会	H20.12.16 ~ H20.12.16
パン用小麦研究近中四サブチーム	第10回インターゲノミクスセミナー	国立大学法人神戸大学大学院農学研究科	H20.12.18 ~ H20.12.18
鳥獣害研究チーム	平成20年度中予地区鳥獣害防止対策研修会	愛媛県中予地方局産業経済部産業振興課	H20.12.18 ~ H20.12.20
鳥獣害研究チーム	平成20年度農作物鳥獣害対策研修会	愛知県農林水産部	H21.01.08 ~ H21.01.09
鳥獣害研究チーム	「イノシシ及びニホンザル等の野生動物の行動について」講義	麻布大学獣医学部	H21.01.13 ~ H21.01.14
鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防止に伴う講師	バイエルクロップサイエンス(株)	H21.01.17 ~ H21.01.18

講師所属	研修会等名	依頼者	期間
米品質研究近中四サブチーム	「はいいぶきの栽培技術」に関する講演会	能美農業協同組合	H21.01.20 ~ H21.01.21
鳥獣害研究チーム	「津山地域たくましい農業者のつどい」講演	津山農業普及指導センター	H21.01.22 ~ H21.01.22
米品質研究近中四サブチーム	市民講座「お米で拓く食の世界」講演	くらしき作陽大学	H21.01.24 ~ H21.01.24
環境保全型野菜研究チーム	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業課題「農業空間情報を活用した効率的てん菜栽培支援システムの構築」プロジェクト研究推進会議	特定非営利活動法人グリーンテクノバンク	H21.01.26 ~ H21.01.28
中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	平成20年度中国四国バイオマス発見活用協議会主催「バイオマスタウン・サミット」	(株)廃棄物工学研究所	H21.01.27 ~ H21.01.27
鳥獣害研究チーム	「イノシシ及びニホンザル等の野生動物の行動について」講義	麻布大学獣医学部	H21.01.27 ~ H21.01.28
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	第111回生存圏シンポジウム－南アジアにおける気象災害と人間活動に関する研究集会－	京大大学生存圏研究所	H21.01.29 ~ H21.01.30
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	伊予市鳥獣害防止総合対策協議会	H21.02.09 ~ H21.02.10
中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	平成20年度中国四国バイオマス発見活用協議会主催「バイオマスタウン・サミット」	(株)廃棄物工学研究所	H21.02.12 ~ H21.02.12
鳥獣害研究チーム	第36回「冬期大学」にて「鳥獣被害対策について」の講演	奈良県果樹研究会	H21.02.12 ~ H21.02.13
鳥獣害研究チーム	農業農村振興(獣害対策)研修会	嶺南地方農業農村整備事業推進協議会	H21.02.12 ~ H21.02.14
鳥獣害研究チーム	高山市獣害防止研修会	岐阜県高山市	H21.02.17 ~ H21.02.18
稲収量性研究近中四サブチーム	平成20年度丹生地区米づくり研修会	福井県丹南農林総合事務所	H21.02.18 ~ H21.02.18
鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策研究セミナー	静岡県農林技術研究所	H21.02.18 ~ H21.02.19
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	東みよし町有害鳥獣被害防止対策協議会	H21.02.19 ~ H21.02.19
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業機械利用技能者養成研修Ⅲ	香川県立農業大学校	H21.02.20 ~ H21.02.20
鳥獣害研究チーム	三重県獣害対策研修	三重県知事	H21.02.21 ~ H21.02.28
鳥獣害研究チーム	野生鳥獣被害対策研修	大分県農林水産部 森との共生推進室	H21.02.23 ~ H21.02.25
鳥獣害研究チーム	三重県獣害対策研修	津地域農業振興協議会	H21.02.24 ~ H21.02.24
鳥獣害研究チーム	筑豊地区有害鳥獣広域駆除対策協議会研修会	筑豊地区有害鳥獣駆除協議会	H21.02.25 ~ H21.02.27
鳥獣害研究チーム	有害鳥獣対策講演会	四万十町鳥獣害防止対策協議会	H21.02.28 ~ H21.03.01
鳥獣害研究チーム	有害鳥獣被害防止研修会	佐賀県東松浦農業改良普及センター	H21.03.02 ~ H21.03.03
鳥獣害研究チーム	平成20年度農林水産省委託「防除技術講習会」	全国農業共済協会	H21.03.02 ~ H21.03.03
鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防止に関する講習会	今治市鳥獣被害対策協議会	H21.03.02 ~ H21.03.04

## 研究交流

講師所属	研修会等名	依頼者	期間
鳥獣害研究チーム	獣害対策講演会	三重県御浜町	H21.03.04 ~ H21.03.04
鳥獣害研究チーム	高山市獣害防止研修会	岐阜県高山市	H21.03.05 ~ H21.03.06
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	中土佐町有害鳥獣被害対策協議会	H21.03.08 ~ H21.03.10
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	広島県三次市	H21.03.14 ~ H21.03.14
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	京都府丹後広域振興局	H21.03.15 ~ H21.03.16
レタスビッグベイン研究チーム	第15回南あわじ市先端農業技術研究会議基調講演	あわじ島農業協同組合	H21.03.16 ~ H21.03.17
産学官連携推進センター	平成20年度畜産技術研究会	愛媛県畜産技術協会	H21.03.17 ~ H21.03.17
鳥獣害研究チーム	平成20年度イノシシ被害対策学習会	石川県白山自然保護センター	H21.03.23 ~ H21.03.25
鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策研修会	豊後高田市有害鳥獣被害防止対策協議会	H21.03.24 ~ H21.03.26
鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会	H21.03.25 ~ H21.03.26

### 3) 当センター主催の技術指導

研修会等名	期間	開催場所	参加者数
【革新的農業技術習得支援研修】 鳥獣害被害の実態と被害防止技術	H20.06.18 ~ H20.06.20	佐賀県佐城農業改良普及センター	39名
【革新的農業技術習得支援研修】 果樹の省力・低コスト等対応技術	H20.07.23 ~ H20.07.24	近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター生野地区	16名
平成20年度 都道府県農業関係研究員等専門研修「耕地雑草の生態と防除」	H20.08.20 ~ H20.08.21	中央農業総合研究センター 本館大会議室	80名
「作業計画・管理支援システム」 利用講習会－入門編－	H20.08.28 ~ H20.08.28	近畿中国四国農業研究センター	23名
鳥獣害シンポジウム「集落活性化と自給率向上につながる鳥獣害対策技術の普及に向けて－研究結果を鳥獣害防止総合対策事業で活用する－」	H20.08.28 ~ H20.08.28	近畿中国四国農業研究センター 大田研究拠点及び美郷町乙原対策実施現地	99名
【革新的農業技術習得支援研修】 野菜の養液・水耕栽培システムの最新技術	H20.09.02 ~ H20.09.03	近畿中国四国農業研究センター 四国センター生野地区	10名
第3回 カバークロップ研究会	H20.09.16 ~ H20.09.17	近畿中国四国農業研究センター	41名
鉄コーティング水稲直播栽培技術研究会	H20.12.09 ~ H20.12.09	米子コンベンションセンター ビッグシップ	152名
行政・研究マッチングフォーラム 「地域の農業施策が求める社会科学系研究とは」	H20.12.12 ~ H20.12.12	福山商工会議所	46名
農研機構新技術教室 「農業に生かす太陽光発電」	H20.12.16 ~ H20.12.16	高知県土佐町中央基幹集落センター	45名

### 4) 依頼分析、試験及び同定

区分	担当研究チーム名	件数
分析	該当なし	
同定	該当なし	

#### 4. 共同研究

担当研究チーム名	件 数
大豆育種研究近中四サブチーム	1 件
大麦・はだか麦研究チーム	2 件
レタスビッグベイン研究チーム	2 件
米品質研究近中四サブチーム	1 件
低コスト稲育種研究近中四サブチーム	1 件
パン用小麦研究近中四サブチーム	1 件

#### 5. 協定研究

担当研究チーム名	件 数
米品質研究近中四サブチーム	1 件
食肉プロテオーム研究チーム	1 件
パン用小麦研究近中四サブチーム	2 件
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	1 件
めん用小麦研究近中四サブチーム	6 件
環境保全型野菜研究チーム	1 件
大麦・はだか麦研究チーム	1 件

#### 6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施 設 名	利用者数（人）
農産物等解析開放型研究施設	295
傾斜地農業開放型研究施設	3
第2 共同実験棟	4

# VI 組織・人事・会計

## 1. 組織

所 長

— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研 究 調 整 役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業 務 推 進 室	
	— 調 査 役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企 画 チ ー ム	(企画調整、交流調整)
	— 運 営 チ ー ム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶 務 チ ー ム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会 計 チ ー ム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情 報 広 報 課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調 査 役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連 絡 調 整 チ ー ム	(企画調整、情報管理、広報)
	— 管 理 チ ー ム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 研究管理監		試験及び研究並びに調査の重要な企画、立案、推進及び評価に関する業務
— 産学官連携推進センター		産学官の連携のためのコーディネート、産学官の連携による共同研究の推進その他産学官の連携に関する業務
— 地域営農・流通システム研究チーム		近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定
— 中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム		近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの確立
— 品種識別・産地判別研究チーム		農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発
— 大麦・はだか麦研究チーム		大麦・はだか麦などの需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発
— 次世代カンキツ生産技術研究チーム		次世代型マルドリ方式を基軸とするカンキツ等の省力・高品質安定生産技術の確立
— 粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム		中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術
— 中山間傾斜地域施設園芸研究チーム		中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発

農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	農業・農村のもつやすらぎ機能や教育機能等の社会学的解明
環境保全型野菜研究チーム	中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発
鳥獣害研究チーム	野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発
レタスビッグベイン研究チーム	レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発
広域農業水系保全研究チーム	閉鎖系水系の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発
生産支援システム研究近中四サブチーム	生産・流通 I T 化のための農業技術体系 D B 及び意思決定支援システムの開発
低コスト稲育種研究近中四サブチーム	直播適性に優れた高生産性飼料用・低コスト業務用水稲品種の育成
稲収量性研究近中四サブチーム	イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発
米品質研究近中四サブチーム	イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発
大豆育種研究近中四サブチーム	省力・機械化適性、加工適性、病害虫抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発
めん用小麦研究近中四サブチーム	めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発
パン用小麦研究近中四サブチーム	実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種・系統の育成と品質安定化技術の開発
カバークロップ研究近中四サブチーム	カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発
暖地温暖化研究近中四サブチーム	暖地における気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発
特命チーム員	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生物的病害制御研究チーム (主査：中央農業総合研究センター)</li> <li>総合的害虫管理研究チーム (主査：中央農業総合研究センター)</li> <li>土壌生物機能研究チーム (主査：中央農業総合研究センター)</li> <li>健康機能性研究チーム (主査：果樹研究所)</li> <li>食肉プロテオーム研究チーム (主査：畜産草地研究所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発</li> <li>土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発</li> <li>土壌生物相の解明と脱窒などの生物機能の評価手法の開発</li> <li>カンキツ・リンゴ等果実の健康増進機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発</li> <li>牛の肉質形成過程のプロテオーム解析</li> </ul>
研究支援センター	試験及び研究並びに調査に供するほ場及び動植物の管理に関する業務
<ul style="list-style-type: none"> <li>業務第 1 科 (福山)</li> <li>    "    (綾部研究拠点駐在)</li> <li>業務第 2 科 (善通寺)</li> <li>業務第 3 科 (大田)</li> </ul>	

## 2. 人 事

## 1) 現在員数

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門 職 員	研究職員	任期付 研究員	計
所 長	1					1
四国農業研究監				1		1
企画管理部		50	2	6		58
研究管理監				5		5
産学官連携推進センター				4		4
地域営農・流通システム研究チーム				5	1	6
中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム				12		12
品種識別・産地判別研究チーム				2		2
大麦・はだか麦研究チーム				4		4
次世代カンキツ生産技術研究チーム				7		7
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム				8		8
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム				13		13
農業・農村のやすらぎ機能研究チーム				4		4
環境保全型野菜研究チーム				9	2	11
鳥獣害研究チーム				3		3
レタスビッグベイン研究チーム				4		4
広域農業水系保全研究チーム				5		5
生産支援システム研究近中四サブチーム				3		3
低コスト稲育種研究近中四サブチーム				3		3
稲収量性研究近中四サブチーム				3		3
米品質研究近中四サブチーム				3		3
大豆育種研究近中四サブチーム				4		4
めん用小麦研究近中四サブチーム				3		3
パン用小麦研究近中四サブチーム				3		3
カバークロップ研究近中四サブチーム				2		2
暖地温暖化研究近中四サブチーム				4		4
特命チーム						
生物的病害制御研究チーム				2		2
総合的害虫管理研究チーム				2		2
土壌生物機能研究チーム				1		1
健康機能性研究チーム					1	1
食肉プロテオーム研究チーム				1		1
研究支援センター		1	72	3		76
所 付				1		1
計	1	51	74	130	4	260

※ 現在員：3月31日付け定年退職、辞職を含む。  
 ：派遣職員及び育児休業を含む。  
 ：育児休業に伴う任期付職員を除く。

## 2) 農研機構特別研究員

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

研 究 課 題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業 「オオムギ染色体導入コムギのプロテオーム解析と 材料調整」	1	0	0	0	1

3) 委員等の就任状況

委 員 等	依 頼 元	所 属	任 期
バイオマスエネルギー地域システム化検討委員会委員	熊本県阿蘇市長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H18.03.27 ~ H22.03.31
中央環境審議会臨時委員	環境省大臣官房長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H19.01.11 ~ H21.01.05
科学技術・学術審議会専門委員(資源調査分科会)	文部科学省科学技術・学術政策局長	パン用小麦研究近中四サブチーム	H19.01.30 ~ H21.01.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進委員会委員	中国四国農政局長	企画管理部長	H19.03.29 ~ H21.03.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進委員会幹事会幹事	中国四国農政局長	企画管理部長	H19.03.29 ~ H21.03.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進委員会作業部会会員	中国四国農政局長	企画管理部業務推進室	H19.03.29 ~ H21.03.31
阿蘇草原再生協議会委員	環境省九州地方環境事務所長(阿蘇草原再生協議会事務局)	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H19.03.30 ~ H21.03.31
四国経済連合会参与	四国経済連合会会長	四国農業研究監	H19.05.01 ~ H21.03.31
香川県研究開発等事業計画審査委員会専門委員	香川県知事	産学官連携推進センター	H19.06.01 ~ H21.03.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会委員	山口県農林水産部長	鳥獣害研究チーム	H19.06.01 ~ H22.05.31
衛星リモートセンシング推進委員会委員	(財)リモート・センシング技術センター理事長	環境保全型野菜研究チーム	H19.06.20 ~ H21.03.31
香川県ふるさと・水と土保全対策推進委員会委員	香川県知事	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H19.06.27 ~ H21.03.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	H19.08.01 ~ H21.07.31
地域整備方向検討調査(讃岐平野地域)水質対策検討委員会委員	中国四国農政局四国土地区改良調査管理事務所長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H19.09.01 ~ H21.03.31
特定非営利活動法人緑と水の連絡会議顧問	特定非営利活動法人緑と水の連絡会議理事長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H19.09.15 ~ H21.03.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	中国四国農政局長	研究管理監	H19.10.02 ~ H21.03.31
先端技術活用型高度生産技術研究会委員	愛媛県西条市長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H19.10.19 ~ H22.02.28
香川大学公正研究委員会委員	香川大学長	四国農業研究監	H19.11.12 ~ H21.03.31
(財)かがわ産業支援財団かがわ中小企業応援ファンド事業審査委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	H19.12.01 ~ H21.11.19
「京都府農と環境を守る地域協働活動支援委員会」委員	京都府知事	環境保全型野菜研究チーム	H20.03.06 ~ H22.03.31

委員等	依頼元	所属	任期
中国四国農政局国営事業地区 営農基盤整備等推進委員会委員	中国四国農政局長	企画管理部長	H20.04.01 ~ H21.03.31
中国四国農政局国営事業地区 営農基盤整備等推進委員会幹 事会幹事	中国四国農政局長	企画管理部長	H20.04.01 ~ H21.03.31
香川大学客員教授	香川大学長	四国農業研究監	H20.04.01 ~ H21.03.31
平成 20、21 年度中国四国農 政局むらづくり審査会委員	中国四国農政局長	研究管理監	H20.04.18 ~ H22.03.31
水稲関係除草剤薬効薬害試験 委員会専門調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会	稲収量性研究近中四サ ブチーム	H20.05.01 ~ H21.03.31
水稲関係除草剤薬効薬害試験 委員会専門調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会	カバークロープ研究近 中四サブチーム	H20.05.01 ~ H21.03.31
緑地管理関係除草剤薬効薬害 試験委員会専門調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会	カバークロープ研究近 中四サブチーム	H20.05.01 ~ H21.03.31
岡山県農業総合センター農業 試験場外部評価委員会委員	岡山県農業総合セン ター所長	所長	H20.05.01 ~ H22.03.31
岡山県総合畜産センター外部 評価委員会委員	岡山県総合畜産セン ター所長	研究管理監	H20.05.01 ~ H23.03.31
かがわ糖質バイオ発機能性食 品開発支援事業審査委員会委員	(財)かがわ産業支援 財団理事長	産学官連携推進セン ター	H20.05.23 ~ H21.03.31
平成 20 年度鳥獣害防止総合対 策事業審査委員会委員	農林水産省生産局長	鳥獣害研究チーム	H20.06.02 ~ H21.03.31
特定非営利活動法人近畿アグ リハイテク理事(副理事長)	特定非営利活動法人近 畿アグリハイテク理事 長	所長	H20.06.17 ~ H23.06.30
平成 20 年度メイドイン大田創 出支援事業審査委員会委員	大田市長	研究管理監	H20.06.26 ~ H21.03.31
平成 20 年度産学官連携による 食料産業等活性化のための新 技術開発事業推進委員	(社)食品需給研究セ ンター理事長	産学官連携推進セン ター	H20.07.01 ~ H21.03.31
平成 20 年度漁場環境・水産資 源持続的利用型技術開発委託 事業評価委員	(独)水産総合研究セ ンター西海区水産研究 所長	品種識別・産地判別研 究チーム	H20.07.04 ~ H21.03.23
平成 20 年度家畜生産新技術有 効活用総合対策事業専門部会 (科学的分析グループ)委員	(社)畜産技術協会会 長	鳥獣害研究チーム	H20.07.10 ~ H21.03.31
滋賀県農林水産関係試験研究 外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	研究管理監	H20.07.30 ~ H23.03.31
神戸大学大学院農学研究科外 部評価委員会委員	神戸大学大学院農学研 究科長	所長	H20.07.31 ~ H21.03.31
山口県イノシシ対策検討会委 員	山口県環境生活部長	鳥獣害研究チーム	H20.07.31 ~ H21.05.31
大阪府環境農林水産総合研究 所研究アドバイザー委員会 委員	大阪府知事	所長	H20.08.01 ~ H21.03.31

委 員 等	依 頼 元	所 属	任 期
都市エリア産学官連携促進事業(発展型)における外部評価委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	H20.08.01 ~ H23.03.31
広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ	広島県知事	企画管理部長	H20.08.06 ~ H21.03.31
広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ	広島県知事	企画管理部研究管理役	H20.08.06 ~ H21.03.31
広島県イノシシ保護管理計画策定検討会委員	広島県知事	鳥獣害研究チーム	H20.09.08 ~ H21.03.31
福山大学生命工学部非常勤講師	福山大学学長	パン用小麦研究近中四サブチーム	H20.09.16 ~ H21.03.31
外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	企画管理部業務推進室	H20.09.26 ~ H21.03.31
中国四国農政局新技術導入等推進に係る第三者委員会委員	中国四国農政局長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H20.10.01 ~ H21.03.31
笠岡市バイオマス活用推進協議会委員	笠岡市長	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	H20.10.03 ~ H22.10.31
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	企画管理部長	H20.10.09 ~ H21.03.31
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	研究管理監	H20.10.09 ~ H21.03.31
「四国地域イノベーション創出協議会」幹事会委員	(財)四国産業・技術振興センター理事長	研究管理監	H20.10.15 ~ H21.03.31
「四国地域イノベーション創出協議会」地域食品・健康分科会委員	(財)四国産業・技術振興センター理事長	産学官連携推進センター	H20.10.15 ~ H21.03.31
中央環境審議会臨時委員	環境省大臣官房長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H21.01.06 ~ H23.01.05
平成20年度「新規酒造好適米「秋田酒こまち」の栽培技術確立と地域ブランド化」事業に係る評価委員	秋田県農林水産技術センター総合食品研究所長	稲収量性研究近中四サブチーム	H21.01.26 ~ H21.03.31
京都大学東南アジア研究所共同研究員	京都大学東南アジア研究所長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H21.01.26 ~ H22.03.31
科学技術・学術審議会専門委員	文部科学省科学技術・学術政策局長	パン用小麦研究近中四サブチーム	H21.02.01 ~ H23.01.31

## 3. 会 計

## 1) 決 算 (所在地別内訳)

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入（前年度繰越金）	2,119	0	0	0	2,119
2. 事業収入	285	1,603	15	12,212	14,115
(1) 生産物等売払収入	108	1,591	15	12,212	13,926
(2) その他事業収入	177	12	0	0	189
3. 受託収入	74,140	0	0	0	74,140
(1) 受託研究収入	64,141	0	0	0	64,141
ア. 地方公共団体受託研究収入	19,320	0	0	0	19,320
イ. 独立行政法人受託研究収入	31,649	0	0	0	31,649
ウ. その他受託研究収入	13,172	0	0	0	13,172
(2) 受託調査等収入	800	0	0	0	800
(3) 受託出張収入	9,199	0	0	0	9,199
ア. 地方公共団体受託出張収入	2,095	0	0	0	2,095
イ. 独立行政法人受託出張収入	49	0	0	0	49
ウ. 国立大学法人受託出張収入	483	0	0	0	483
エ. その他受託出張収入	6,572	0	0	0	6,572
4. 事業外収入	4,222	71	46	650	4,989
5. 臨時収入	0	105	0	1,365	1,470
6. 通過資金預り金	4,781	0	0	0	4,781
7. 繰越積立金	0	0	0	0	0
計	85,547	1,779	61	14,227	101,614
支 出					
1. 運営費交付金	354,392	250,262	46,288	103,979	754,921
(1) 一般管理費	65,893	48,132	13,315	26,284	153,624
ア. 研究管理費	14,398	5,945	554	2,000	22,897
イ. 管理諸費	51,495	42,187	12,761	24,284	130,727
(2) 業務経費	288,499	202,130	32,973	77,695	601,297
2. 事業収入経費	5,762	5,019	991	2,343	14,115
3. 受託収入経費	185,970	97,500	15,563	36,988	336,021
(1) 受託研究収入経費	178,000	94,927	15,543	35,065	323,535
ア. 政府受託研究収入（農水省）	139,925	63,084	6,794	28,140	237,943
イ. 地方公共団体受託研究経費	3,650	13,021	2,349	300	19,320
ウ. 独立行政法人受託研究経費	31,734	14,285	3,500	1,625	51,144
エ. 国立大学法人受託研究経費	1,956	0	0	0	1,956
オ. その他受託研究経費	735	4,537	2,900	5,000	13,172
(2) 受託調査等経費（革新的農業技術習得研修）	0	2,288	0	999	3,287
(3) 受託出張経費	7,970	285	20	924	9,199
ア. 地方公共団体受託出張経費	2,053	5	0	37	2,095
イ. 独立行政法人受託出張経費	49	0	0	0	49
ウ. 国立大学法人受託出張経費	481	2	0	0	483
エ. その他受託出張経費	5,387	278	20	887	6,572
4. 補助金等経費	2,100	4,700	0	0	6,800
5. 事業外収入経費	2,424	496	97	1,972	4,989
6. 臨時収入経費	0	105	0	1,365	1,470
7. 通過資金預り金	6,140	0	0	3,881	10,021
計	556,788	358,082	62,939	150,528	1,128,337

2) 固定資産(所在地別内訳)

平成21年3月31日現在

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積(㎡)	11,377.62	13,395.72	4,671.15	9,967.84	39,412.33
建物延面積(㎡)	16,231.56	16,673.86	5,275.10	11,453.57	49,634.09
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	492	920	48	261	1,721
立 木 (㎡)	0.00	4,057.28	0.00	6,761.90	10,819.18
機 械 装 置 (点)	63	54	13	17	147
車 輛 運 搬 具 (点)	12	12	7	8	39
工 具 器 具 備 品 (点)	272	222	56	75	625
無形固定資産					
ソフトウェア(点)	26	12	1	0	39
電話加入権(回線)	0	0	0	0	0

## VII 主な会議等

### 1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会 議 名	開催日	開催場所	参 集 者
近畿中国四国農業試験研究推進 会議 本会議 幹事会	H20.09.30	近中四農研（福山）	合計 21 名 (内訳) 農政局 2 名、 果樹研 1 名、 野茶研 1 名、 府県関係者 3 名、 近中四農研 14 名
近畿中国四国農業試験研究推進 会議 本会議	H20.11.21	福山労働会館	合計 60 名 (内訳) 農林水産省大臣官房 1 名、 農林水産技術会議事務局 1 名、 農政局 4 名、 府県関係者 33 名、 果樹研 1 名、 野茶研 1 名、 農工研 1 名、 近中四農研 18 名
近畿中国四国農業試験研究推進 会議 試験研究推進部会	H21.02.02 ～ H21.02.06	福山労働会館、 福山市市民参画センター、 福山市生涯学習プラザ、 福山商工会議所、 野菜茶業研究所（金谷）	合計 528 名 (延人数) 生産局 1 名、 農林水産技術会議事務局 1 名、 農政局 14 名、 大学等 14 名、 府県関係者 348 名、 機構内 46 名、 近中四農研 100 名、 その他 4 名
近畿中国四国農業試験研究推進 会議 評価企画会議	H21.02.13	福山市生涯学習プラザ	合計 42 名 (内訳) 農政局 3 名、 府県関係者 23 名、 機構本部 1 名、 果樹研 1 名、 野茶研 1 名、 近中四農研 13 名

### 2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
生物工学分野におけるシーズ・ニーズのマッチングフォー ラムー産学官共同研究による実用化技術・品種の開発をめ ざしてー	H20.07.07 ～ H20.07.08	愛媛県松山市	31 名
企業的経営による果樹産業と地域の活性化	H20.07.10 ～ H20.07.11	香川県高松市	89 名
新規参入における経営支援方策の解明	H20.07.30 ～ H20.07.31	広島県福山市	53 名
有機農業発展のための土壌管理と栽培の諸問題	H20.09.01 ～ H20.09.02	兵庫県豊岡市	62 名
平成 20 年度温暖地域水稲育成系統立毛検討会（関東東海北 陸農業試験研究推進会議と共同開催）	H20.09.08 ～ H20.09.09	茨城県つくば市	64 名

会 議 名	開 催 日	開催場所	参加者数
地域特産野菜の収穫作業を中心とした省力・安定生産技術	H20.09.10 ～ H20.09.11	愛媛県松山市	55名
冬作技術研究会	H20.09.18 ～ H20.09.19	広島県福山市	36名
茶の環境保全型防除の推進と生物多様性管理	H20.09.18 ～ H20.09.19	静岡県掛川市	45名
環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術～耕作放棄地の解消と未利用草資源の復権を図る～	H20.09.29 ～ H20.09.29	広島県東広島市	121名
省エネルギー・低コストに関わる花きの技術開発	H20.10.29 ～ H20.10.30	島根県出雲市	44名
食品流通問題別研究会	H20.11.13 ～ H20.11.14	広島県広島市	33名
地域特産野菜の振興と業務用に対応した新たな販売戦略	H20.11.27 ～ H20.11.28	鳥取県米子市	56名
水稲および大豆における温暖化の影響と対策	H20.12.04 ～ H20.12.05	広島県福山市	84名
有機農業の現状と今後の展望	H21.01.22 ～ H21.01.23	香川県善通寺市	69名
高度管理手法による作物病害虫制御技術	H21.03.04 ～ H21.03.06	岡山県岡山市	138名
育種栽培検討会	H21.03.05 ～ H21.03.06	広島県福山市	65名
農薬の作物残留、環境中動態及び生物影響に関する研究の現状と課題	H21.03.09 ～ H21.03.10	香川県善通寺市	24名

### 3. 地域研究・普及連絡会議

会 議 名	開 催 日	開催場所	参加者数
平成20年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H20.10.24	岡山第2合同庁舎	33名
平成20年度近畿地域研究・普及連絡会議	H20.10.27	ホテルルビノ京都堀川	49名

### 4. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等

会 議 名	開 催 日	開催場所	参加者数
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」設計会議	H20.05.14 ～ H20.05.15	近中四農研(四国)	20名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」試験設計会議	H20.07.09	大阪府環境農林水産総合研究所 本部・環境科学センター(大阪府大阪市)	13名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第1回推進会議	H20.07.24	近中四農研(四国)	14名

主な会議等

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術」公開シンポジウム及び現地検討会 「耕作放棄地の解消と未利用草資源の復権を図る」	H20.09.29	シンポジウム： 広島テクノプラザ (広島県東広島市) 現地検討会： 放牧ゆめクラブ (広島県東広島市)、 福成寺集落和牛放牧会 (広島県東広島市)	121名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」個別研究打ち合わせ	H20.10.11	北海道札幌市	3名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第2回推進会議	H20.10.14	近中四農研(福山)	5名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」中間検討会	H20.10.21 ～H20.10.22	近中四農研(四国)	16名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」現地検討会	H20.10.30 ～H20.10.31	検討会： ホテル杉の湯 (奈良県川上村) 視 察： 奈良県生駒郡、 奈良県農業総合センター (奈良県橿原市)	18名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第3回推進会議	H20.11.17	メルパルク岡山 (岡山県岡山市)	15名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」現地検討会	H20.12.18 ～H20.12.19	高知県農業技術センター (高知県南国市)	20名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」推進会議、現地検討会	H21.01.26 ～H21.01.27	推進会議： 近中四農研(四国) 現地検討会： 高瀬試験圃場、 丸亀土器川河口試験地	25名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「鉄コーティング種子を核とする環境調和型水稻直播技術の確立」推進会議	H21.01.28	北海道日本庁舎 (北海道札幌市)	17名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」推進会議	H21.02.03	近中四農研(福山)	17名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術」評価推進会議及び現地検討会	H21.02.19 ～H21.02.20	評価推進会議： かんぼの郷庄原 (広島県庄原市) 現地検討会： 広島県立総合技術研究所 畜産技術センター (広島県庄原市)、 村本牧場(広島県三次市)、 農事組合法人かみやま (広島県三次市)	21名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」推進会議	H21.02.20	近中四農研(四国)	18名

## 5. 地域総合研究評価会議・現地推進検討会

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」所内検討会	H20.04.24	近中四農研(四国)	14名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」現地説明会	H20.05.26	愛媛県農林水産研究所 (愛媛県松山市)	11名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」所内検討会	H20.08.04	近中四農研(四国)	12名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」事前推進評価会議	H20.08.27	近中四農研(四国)	45名
地域農業確立総合研究「新品种の導入と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産体系の確立」事前推進評価会議	H20.09.11	近中四農研(四国)	45名
地域農業確立総合研究「新品种の導入と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産体系の確立」現地検討会	H20.11.12	近中四農研(四国)	41名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」成績設計・検討会	H21.01.16	近中四農研(四国)	25名
地域農業確立総合研究「新品种の導入と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産体系の確立」試験研究成績・設計検討会	H21.02.26	近中四農研(四国)	20名
地域農業確立総合研究「新品种の導入と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産体系の確立」毎年度推進評価会議	H21.02.27	近中四農研(四国)	32名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」毎年度推進評価会議	H21.03.03	近中四農研(四国)	34名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20 t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」実証試験打ち合わせ	H21.03.04	近中四農研(四国)	9名
地域農業確立総合研究FS研究結果報告および「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立(次世代耕畜連携)」設計検討会	H21.03.13	福山市生涯学習プラザ (広島県福山市)	35名

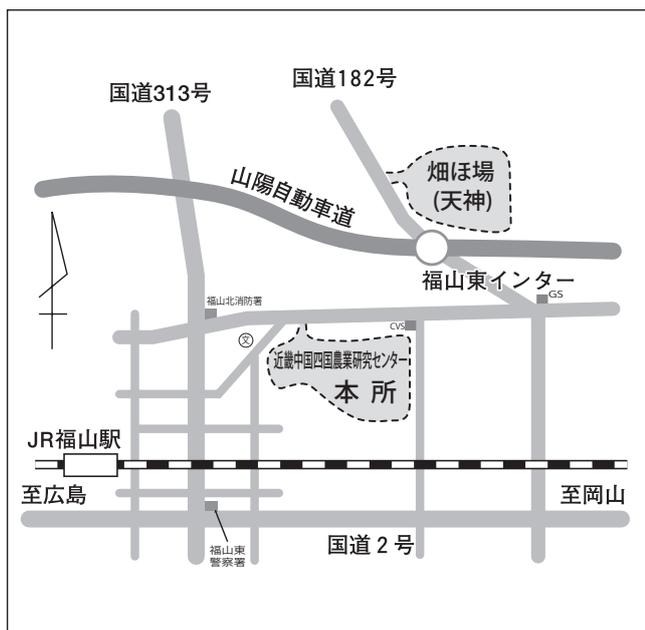
## 6. 地域農業確立研究検討会

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
平成 20 年度 地域農業確立総合研究 FS 研究結果報告会	H21.03.13	福山市生涯学習プラザ (広島県福山市)	35 名

## 7. その他会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加人数
農業改良普及推進事業（産学官連携経営革新技術普及強化促進事業）「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及」統括推進会議	H20.06.27	近中四農研（四国）	6 名
「作業計画・管理支援システム」利用講習会 －入門編－	H20.08.28	近中四農研（福山）	23 名
農林水産省委託プロジェクト研究「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術開発（大豆系）」「担い手の育成に資する I T 等を活用した新しい生産システムの開発－超低コスト土地利用型作物生産技術の開発（温暖地湿田型水田輪作地帯）」合同現地検討会	H20.09.04 ～ H20.09.05	大豆現地実証圃場 (広島県世羅町)、 近中四農研（福山）	72 名
第 3 回カバークロップ研究会	H20.09.16 ～ H20.09.17	セミナー： 近中四農研（福山）、 現地見学： ゾイシアンジャパン 株式会社（広島県神 石高原町）	41 名
農業改良普及推進事業（産学官連携経営革新技術普及強化促進事業）「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及」推進検討会	H20.12.05	近中四農研（四国）	33 名
鉄コーティング水稲直播栽培技術研究会	H20.12.09	米子コンベンションセ ンタービックシップ (鳥取県米子市)	152 名
行政・研究マッチングフォーラム	H20.12.12	福山商工会議所 (広島県福山市)	46 名
新技術教室「農業に生かす太陽光発電」	H20.12.16	土佐町基幹集落センター (高知県土佐町)	46 名
農林水産省委託プロジェクト「担い手プロ」実証試験連絡会 鉄コーティング種子湛水直播検討会	H21.01.08	近中四農研（福山）	19 名

# VIII 所在地



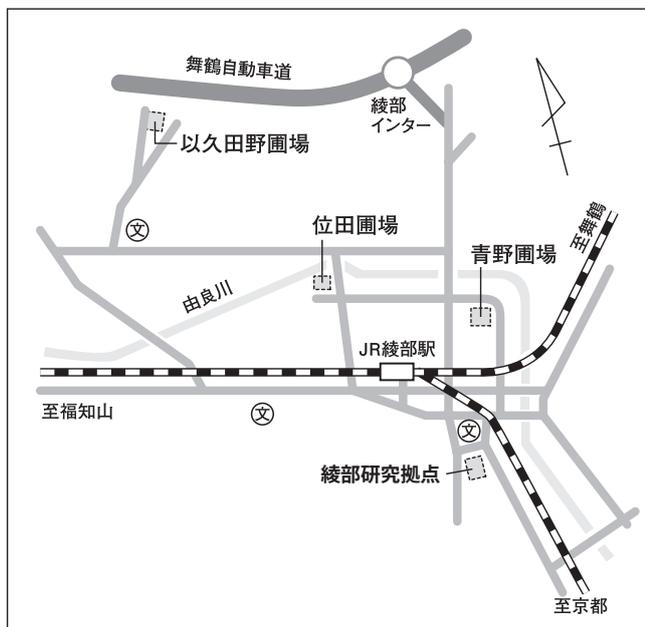
## 【本所】(福山市)

〒 721-8514  
 広島県福山市西深津町 6-12-1  
 T E L 084-923-4100 (代)  
 F A X 084-924-7893  
 最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、  
 JR 福塩線「福山駅」



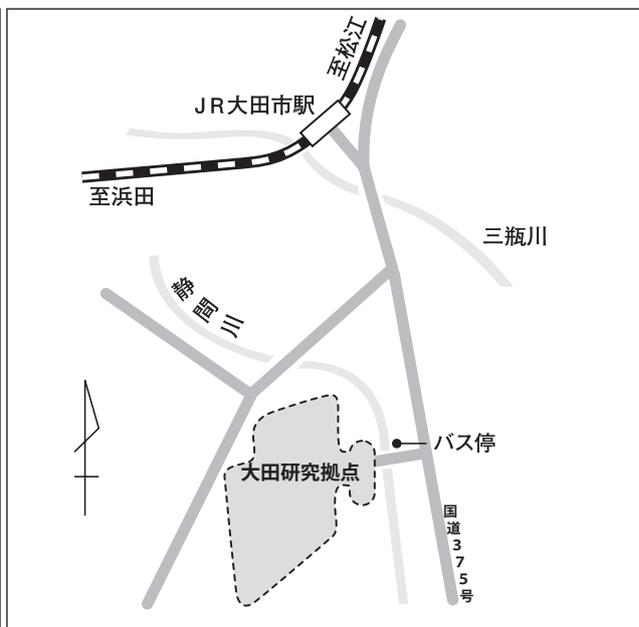
## 【四国研究センター】(善通寺市)

〒 765-8508  
 香川県善通寺市仙遊町 1-3-1  
 T E L 0877-62-0800 (代)  
 F A X 0877-63-1683  
 最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



## 【綾部研究拠点】(綾部市)

〒 623-0035  
 京都府綾部市上野町上野 200  
 T E L 0773-42-0109 (代)  
 F A X 0773-42-7161  
 最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



## 【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013  
 島根県大田市川合町吉永 60  
 T E L 0854-82-0144 (代)  
 F A X 0854-82-2280  
 最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」